

若者支援にかかるニーズ調査 調査結果

平成31年3月

浜 松 市

目次

I 若者支援に関するアンケート（若者本人）	1
①属性（問1）	1
②進学について（問2）	2
③就職について（問3）	3
④不安や悩みについて（問4）	4
⑤今まで受けた支援で、助けになった、役に立ったと感じる支援（問4-3）	6
⑥今後新たに受けたい支援（問4-4）	13
⑦支援機関や窓口について（問5）	17
⑧悩みを抱える若者とその家族の支援について、あると良い支援機関や窓口（問5-3）	18
⑨悩みを抱える若者とその家族への支援について、浜松市への意見・要望（問5-4）	18
II 若者支援に関するアンケート（支援機関）	25
①支援分野（問1）・対象年齢（問2）	25
②子ども・若者支援について（問3）	25
③若者が抱える困難について（問4～7）	26
III 若者支援に関するアンケートから見えてくる 課題と今後の目指すべき方向性	95

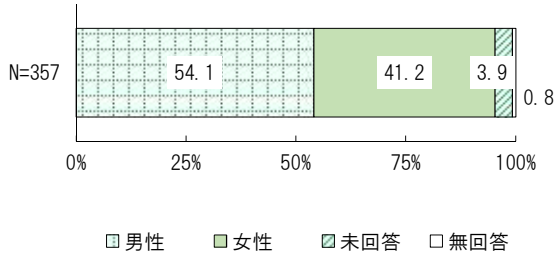
I 若者支援に関するアンケート

(若者本人)

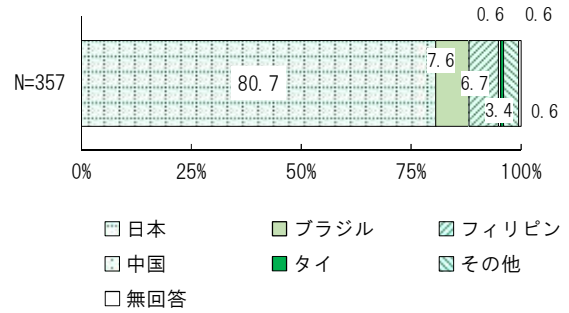
①属性（問1）

本調査には、女性より男性、外国籍の方より日本国籍の方、20代30代より10代の方が多く、回答していただきました。

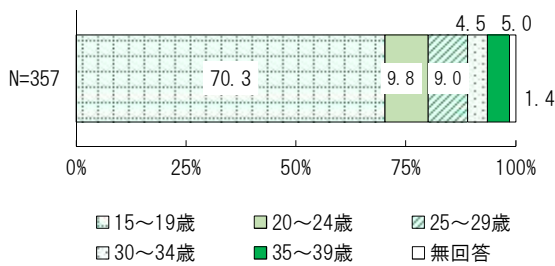
問1-1 性別



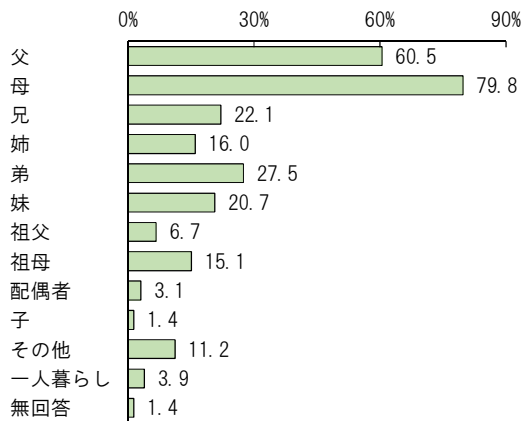
問1-2 国籍



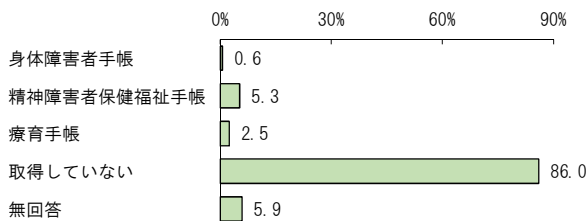
問1-3 年齢



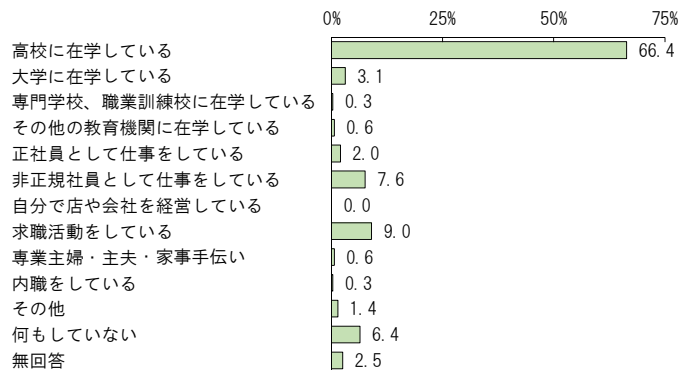
問1-4 同居者



問1-5 取得している障害者手帳

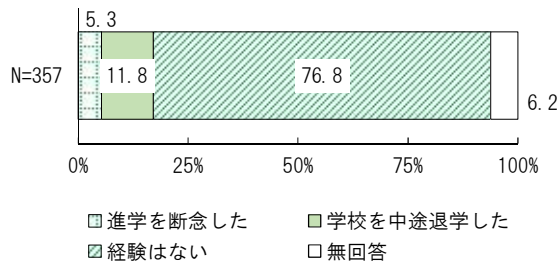


問1-6 就学・就労状況

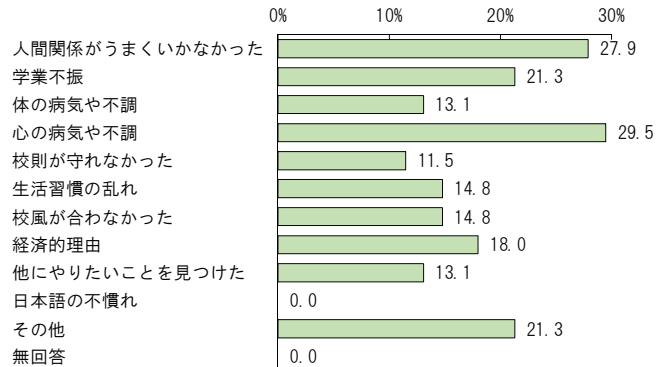


②進学について（問2）

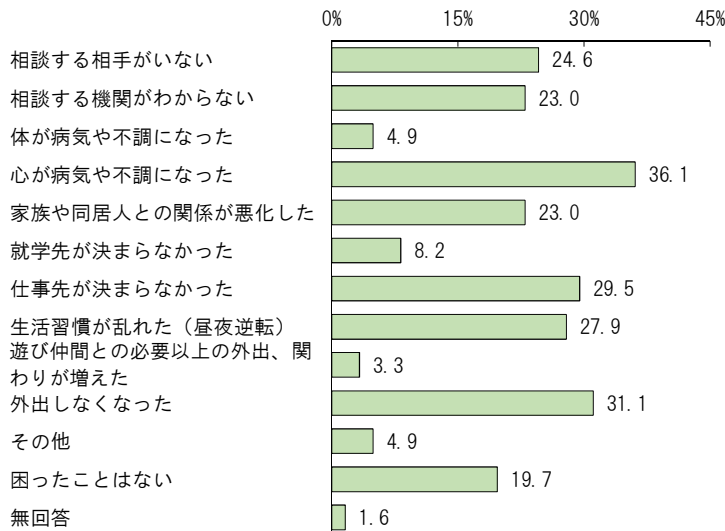
問2-1 進学断念や中途退学の経験



問2-2 進学断念や中途退学の理由



問2-3 進学断念後や中途退学後の困りごと

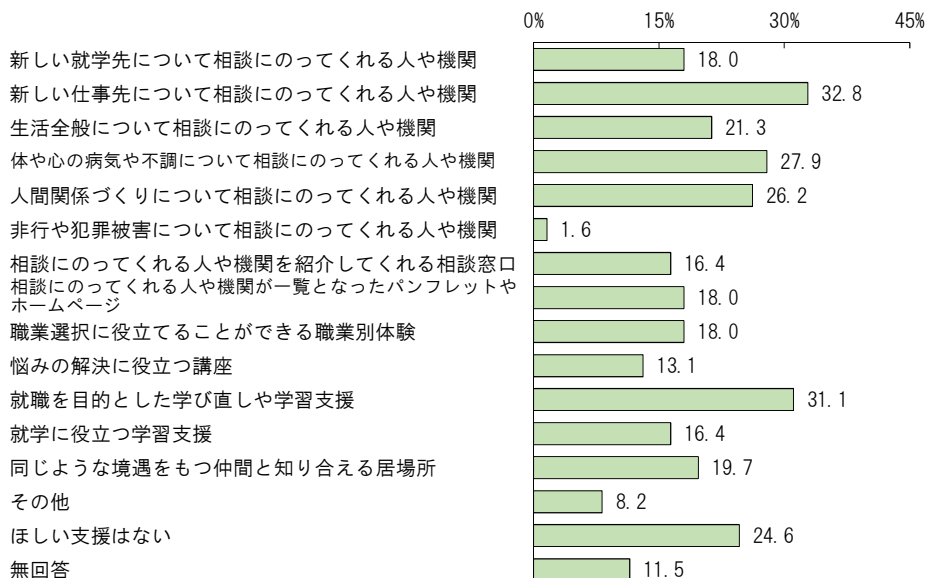


進学断念や中途退学の経験のある方は 17.1%で、その理由としては「心の病気や不調」、「人間関係がうまくいかなかった」が3割弱となっています。

進学断念後や中途退学後の困りごとは、「心が病気や不調になったこと」、「外出しなくなった」が3割を超えています。

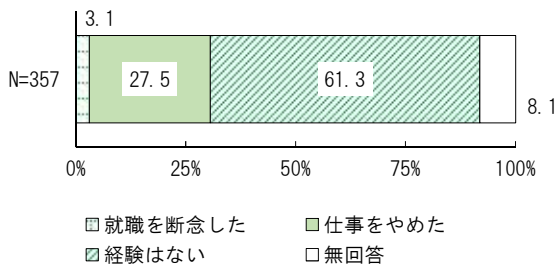
望む支援としては、「新しい仕事先について相談にのってくれる人や機関」や「就職を目的とした学び直しや学習支援」が3割を超えています。

問2-4 困りごとに対し望む支援



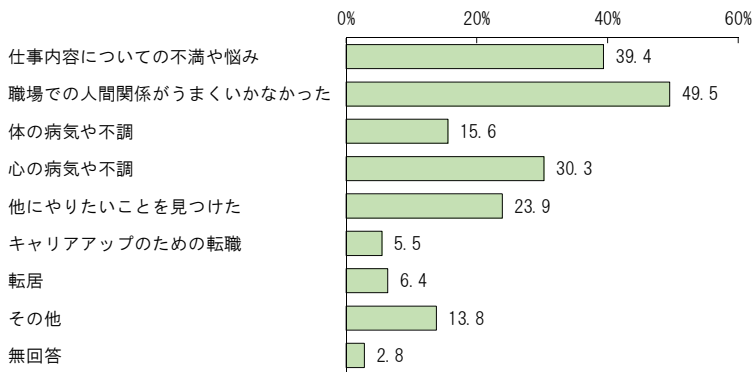
③就職について（問3）

問3-1 就職断念や退職の経験

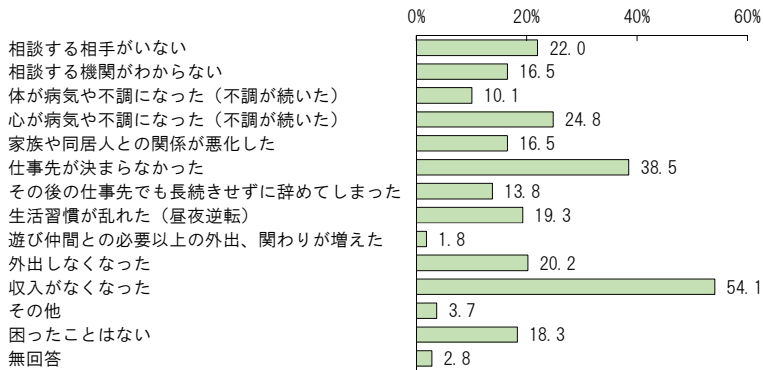


就職断念や退職の経験のある方は30.6%で、その理由としては「職場での人間関係がうまくいかなかった」が5割弱となっています。

問3-2 就職断念や退職の理由



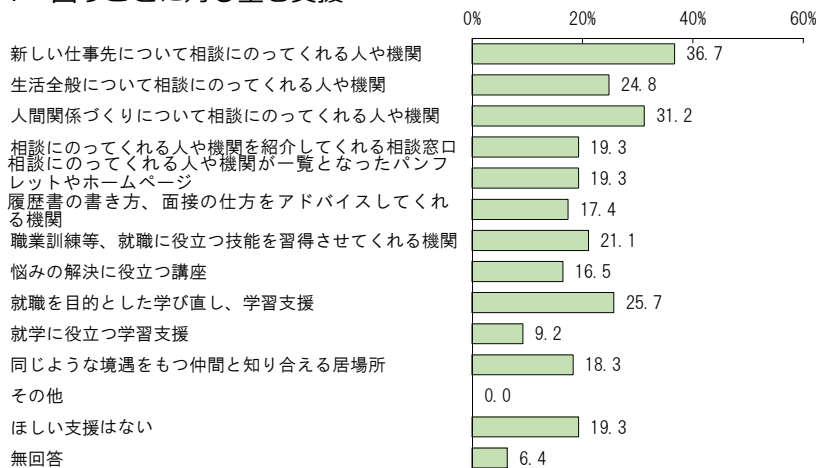
問3-3 就職断念後や退職後の困りごと



就職断念後や退職後の困りごとは、「収入がなくなった」が突出して多く、54.1%と半数を超えています。

望む支援としては、「新しい仕事先について相談にのってくれる人や機関」や「人間関係づくりについて相談にのってくれる人や機関」が3割を超えています。

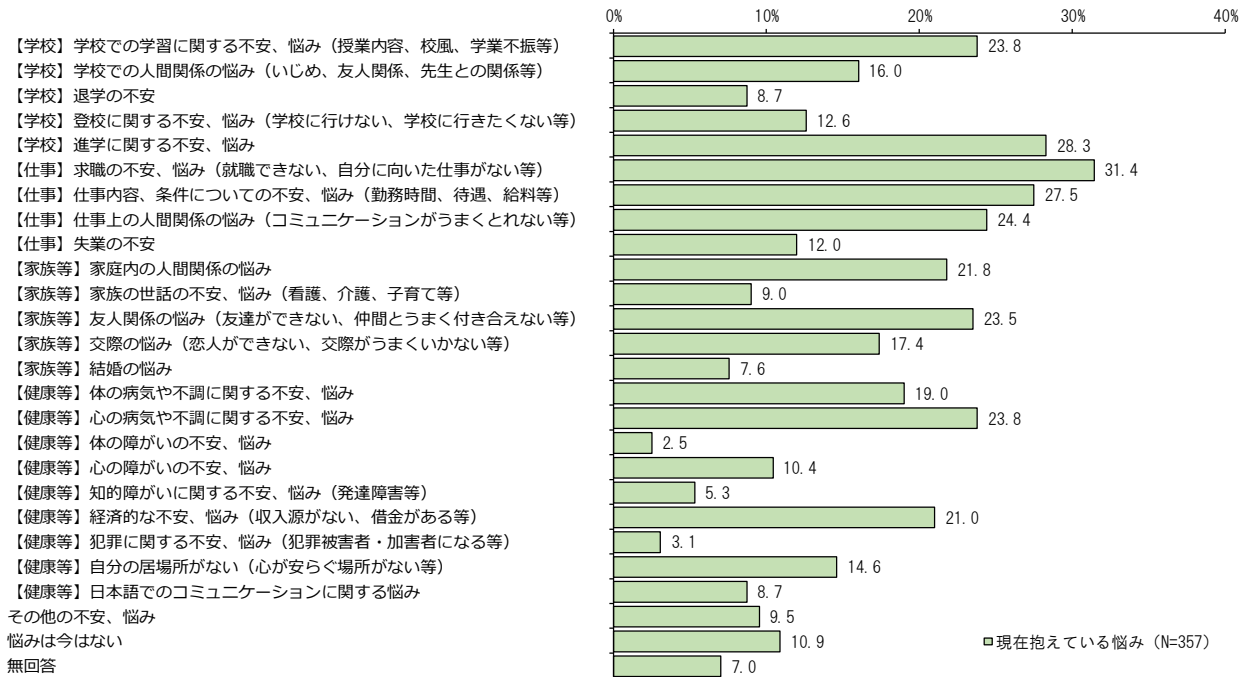
問3-4 困りごとに対し望む支援



④不安や悩みについて（問4）

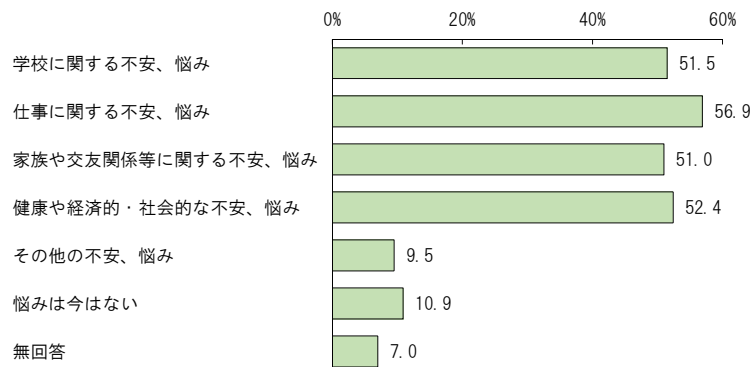
現在抱えている悩みや不安については、仕事面での「求職の不安、悩み（就職できない、自分に向けた仕事がない等）」が最も多く31.4%となっています。学校面では「進学に関する不安、悩み」が28.3%、健康等では「心の病気や不調に関する不安、悩み」が23.8%、家族等では「友人関係の悩み（友達ができない、仲間とうまく付き合えない等）」が23.5%で、それぞれ最も多くなっています。

問4-1 現在抱えている悩みや不安



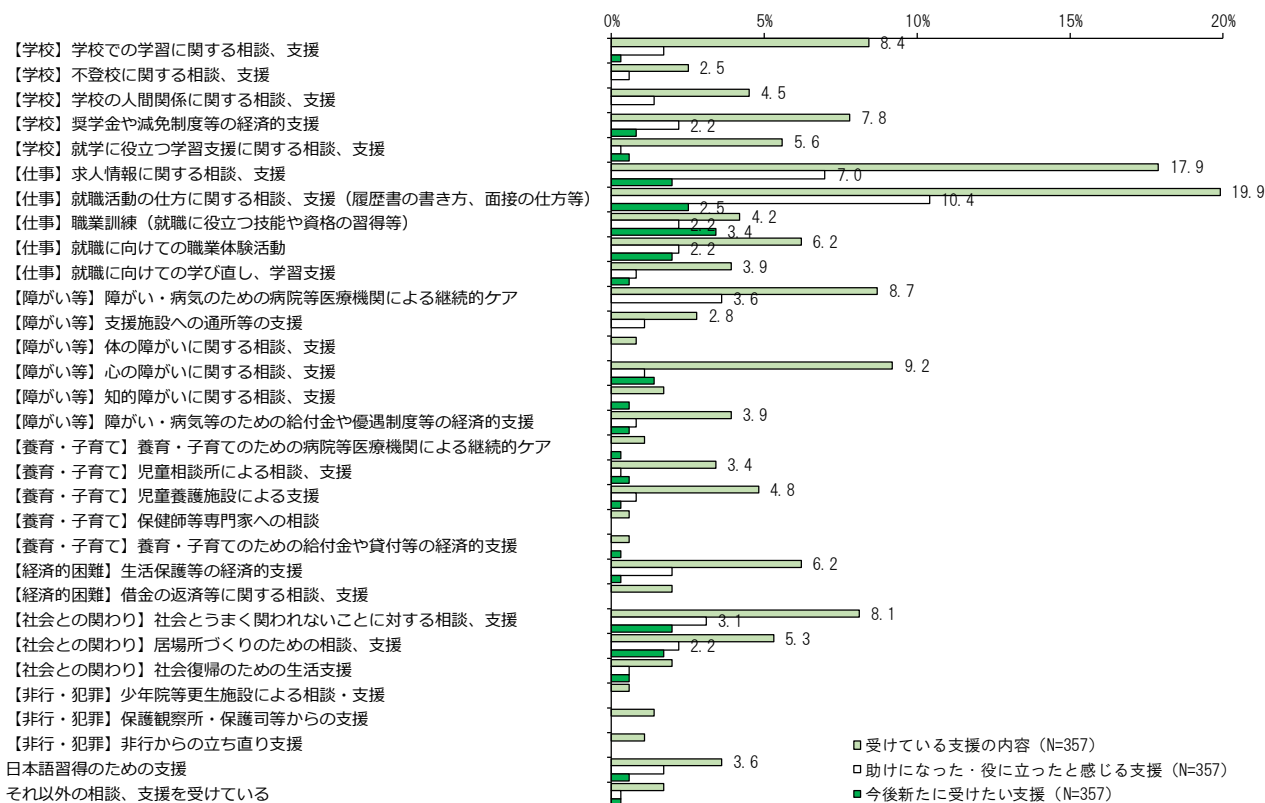
各選択肢に1つでも回答があった回答分野をまとめてみたところ、学校、仕事、家族や交友関係、健康や経済・社会のいずれの回答分野でも5割を超える回答がありました。

現在抱えている悩みや不安（まとめ）



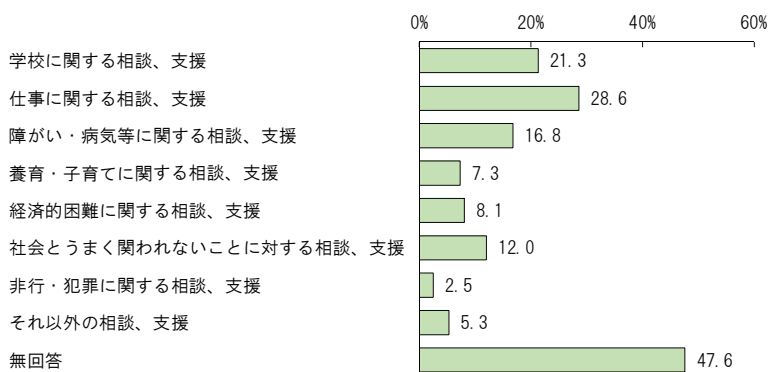
現在受けている支援の内容については、仕事面の「求職活動の仕方に関する相談、支援（履歴書の書き方、面接の仕方等）」が最も多く19.9%、助けになった・役に立ったと感じる支援も「求職活動の仕方に関する相談、支援（履歴書の書き方、面接の仕方等）」で10.4%となっています。今後新たに受けたい支援は、いずれの項目も3%以下となりました。

問4-2 現在受けている支援の内容



各選択肢に1つでも回答があった回答分野をまとめてみたところ、「仕事に関する相談、支援」が最も多く28.6%、次いで「学校に関する相談、支援」が21.3%などとなりました。

現在受けている支援の内容（まとめ）



⑤今まで受けた支援で、助けになった、役に立ったと感じる支援（問4-3）

【性別/国籍/年代/職業】 ※「-」は無回答者

1【学校】学校での学習に関する相談、支援

- 学校での授業で先生の説明が分かりやすかったから。【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 先生に色々おしえてもらった。【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 学校の先生の理解があった。【男性/日本/25～29歳/大学生】
- 学びなおしの金銭的なもの。【男性/日本/35～39歳/正社員】
- 記入なし【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 不安が解消されたから。【女性/日本/15～19歳/大学生】

2【学校】不登校に関する相談、支援

- 記入なし【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 中学の時全然学校に行くことができなかつたけど、だんだん行けるようになったから。【女性/日本/15～19歳/高校生】

3【学校】学校の人間関係に関する相談、支援

- 人と上手くしゃべれない。思いつき楽しくしゃべりたい。【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 悩みが減った。【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 人間関係が上手くいかないから。【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 人間関係に悩み学校に行きづらかつたが、支援をうけてちゃんと学校に行けるようになったから。【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 人間関係のせいでがっこうにこなかつた。【女性/その他/15～19歳/高校生】

4【学校】奨学金や減免制度等の経済的支援

- 経済的な支援がなければ進学することができなかつたため。【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 大学のため。【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 母子家庭のため経済的支援の可能性あり。【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 家族に経済的心配をかけずにすむ。【男性/ブラジル/15～19歳/高校生】
- 家族とのつながりががないため全てにおいて助けになってもらっています。【女性/日本/20～24歳/高校生】
- 自分ではよく分からなかつたため助かつた。【女性/日本/20～24歳/大学生】
- 進学に必要であつたから。【女性/日本/20～24歳/大学生】
- 母と2人でくらしているが、学校のお金や通学費用（バス代）は父がだすことになっているが、父は、お金をちゃんとほらわなかつたり、たばこなどに使ってしまうので、この支援に助かっています。【女性/ブラジル】

5【学校】就学役に立つ学習支援に関する相談、支援

- 学校の校納金分のお金を生活費にあてれたから。【男性/日本/15～19歳/高校生】

6【仕事】求人情報に関する相談、支援

- 自分が就職したい場所を選べるから。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 情報量が増えた。 【男性/日本/20～24歳/非正規社員】
- 記入なし 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 様々なことが相談でき気持ち的に楽になった。 【男性/日本/25～29歳/大学生】
- どのような仕事があるのか教えていただいたため。 【男性/日本/25～29歳/正社員】
- 自分の悩みを相談することができたから。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 募集を調べて、どのような職に就きたいか、助かりました。 【男性/日本/25～29歳/何もしていない】
- 病気の事もふくめ、自分にあった仕事を一緒にいろいろとさがしてくれ、相談にもものってくれる。 【男性/日本/35～39歳/非正規社員】
- 就職の意欲が少し湧いたからです。 【男性/日本/35～39歳/求職活動中】
- 各社の就労条件が詳しく載っていて参考になった。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- しっかりとした就職活動ができるようになった。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 相談する相手がいるだけでも、かなり楽になった。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 就職に役立った。 【女性/日本/20～24歳/大学生】
- 現在通っていて、いろいろな求人を探して提案してくれる。 【女性/日本/20～24歳/非正規社員】
- 自分一人では見つけられないような求人情報を教えてもらえるから。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 社会人になって面接対策が1人で出来ずなかなか転職・求職に踏み出せなかったが、サポート支援のおかげで1人で進めるより、スムーズに転職活動ができている。(浜松市パーソナルサポートセンター利用) 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- ハローワークで相談に乗ってもらったり支援してもらったりして、就活を進めることができたから。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 親身になって調べたり、話をきいてくれた。 【女性/日本/20～24歳/何もしていない】
- 求職に前向きに取り組めているから。 【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 相談の人に求人情報、履歴書の書き方について相談しながら職を探しています。1人じゃないのでも気持ちが楽です。 【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 浜松市へ転入してきたばかりのため浜松の会社や位置関係なども全く分からなかったのですが、会社についてもたくさん教えてくださりとても心強かったです。 【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 求人に関して分からない事等相談でき助かった。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 自分の希望に合った求人を、ハローワークを通じていくつか紹介してもらえたため。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 求人情報の内容を詳しく教えて頂けた。 【女性/日本/35～39歳/専業主婦・主夫・家事手伝い】
- 新しいバイトを1月くらいにはじめたいから。 【未回答/日本/15～19歳/高校生】

7【仕事】就職活動の仕方に関する相談、支援（履歴書の書き方、面接の仕方等）

- 記入なし 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 望んだ仕事に就職したいから。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 履歴書の書き方などを知らなかったため。 【男性/日本/20～24歳/非正規社員】

- 履歴書の書き方や仕事探しのアドバイスなどを基本的なところから教えてくれたので良かった。
【男性/日本/20～24歳/非正規社員】
- どう転職活動すれば良いか、何を勉強すべきかいっしょに考えてくれるから。
【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 分からない点を知ることが出来た。
【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 1～2年近く間が空いたけれど働く中での注意点や物事のとらえ方、働くことで感じるものを知り、就職に向けて今の自分がやってみたいことをやらせてくれて自信につながりそう。
【男性/日本/20～24歳/その他】
- 面接の仕方など親身に相談にのってもらいスムーズに就活ができた。
【男性/日本/25～29歳/大学生】
- 右も左も分からない所から道筋を丁寧に作ってくれたため。
【男性/日本/25～29歳/正社員】
- 履歴書の書き方、相談。
【男性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 今後の就活について落ち着いて考えられるようになったから。
【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 就職活動のやり方がどうしても身につかなかったため。（日々の生活の悩みも相談している）
【男性/日本/25～29歳/専業主婦・主夫・家事手伝い】
- 書類を丁寧にはつきりと書く時、面接練習をして助かりました。
【男性/日本/25～29歳/何もしていない】
- 職業訓練を受けるきっかけになった。
【男性/日本/30～34歳/専門学校生等】
- 早期の就職セミナーで担当を付けて頂いたことにより1人で悩まず前向きに就職活動できているから。
【男性/日本/35～39歳/求職活動中】
- しっかりとした受け答えができるようになった。
【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 職務経歴書の書き方が分からなかったから参考になった。
【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 相談する相手がいるだけでも、かなり楽になった。
【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- エントリーシートのチェックを丁寧に一緒に悩みながら考えていただいたところが助けになったと感じました。
【女性/日本/20～24歳/大学生】
- 就職に役立ち、安心してできた。
【女性/日本/20～24歳/大学生】
- 学校で教えてもらえなかったことを詳しく教えてもらうことができ、助かりました。
【女性/日本/20～24歳/非正規社員】
- 正しい履歴書のかきかた、めんせつについてきて新しく学ぶことができた。
【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- ハローワークで相談に乗ってもらったり支援してもらったりして、就活を進めることができたから。
【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 面接での話し方など一人では分からないところを客観的に見てもらえるから。
【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 面接前や書類作成時に悩みが出てきたときに支援を受けに行っているが、良いアドバイスをもらえ、合格しやすくなったと感じるから。
【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 社会人になって面接対策が1人で出来ずなかなか転職・求職に踏み出せなかったが、サポート支援のおかげで1人で進めるより、スムーズに転職活動ができている。（浜松市パーソナルサポートセンター利用）
【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- とても役に立ったし、後押ししてくれた。
【女性/日本/20～24歳/何もしていない】
- 就職活動をするうえで身に付けたいことの重要なポイントが分かった。
【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 求職活動が久しぶりだったため、履歴書や面接の仕方など忘れていたことが多かったので、教えていただけ助かりました。
【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 求職に前向きに取り組んでいるから。
【女性/日本/25～29歳/求職活動中】

- 個別のため、相談がしやすい。 【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 相談の人に求人情報、履歴書の書き方について相談しながら職を探しています。1人じゃないのでとても気持ちが良いです。 【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 応募書類の書き方を指導していただいたので良かった。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 自分だけでは気付かなかったことを色々教えてもらったので。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 履歴書の職歴など、どの程度まで書くものか分からなかったりしたので、参考になった。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 一人でやろうとしても恐らく勇気が出ずずっと逃げ続けるだけだったと思うので、支援をもらえて良かったと思う。 【女性/日本/30～34歳/その他】
- 履歴書の書き方や面接の仕方等教えて頂けた。 【女性/日本/35～39歳/専業主婦・主夫・家事手伝い】

8【仕事】職業訓練（就職に役立つ技能や資格の習得等）

- 自分が望む就職場所に就職しやすいから。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 私自身が就職に役立つ技能にとぼしいので。 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 1～2年近く間が空いたけれど働く中での注意点や物事のとらえ方、働くことで感じるものを知り、就職に向けて今の自分がやってみたいことをやらせてくれて自信につながりそう。 【男性/日本/20～24歳/その他】
- 就職活動に活かせる資格をとることができたから。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 就職できない事で職業訓練は役に立ちました。 【男性/日本/25～29歳/何もしていない】
- 生活リズムが身についた。1日7時間週5日働く自信がついた。 【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- パソコンの職業訓練に行き一から学び直すことができた。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 10年間もの長期就職するきっかけになった。働いて、すぐに役にたった。 【女性/日本/35～39歳/求職活動中】

9【仕事】就職に向けての職業体験活動

- 記入なし 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 就職するための準備が出来るから。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 実際に職場を体験することによって、その職場の空気感や仕事内容を知ることができた。 【男性/日本/20～24歳/非正規社員】
- 1～2年近く間が空いたけれど働く中での注意点や物事のとらえ方、働くことで感じるものを知り、就職に向けて今の自分がやってみたいことをやらせてくれて自信につながりそう。 【男性/日本/20～24歳/その他】
- 1日の体験や3日間等自分のペースでできる時間で職業体験させてもらった。 【男性/日本/25～29歳/その他】
- 就職した時に、どのような仕事をするのか役に立ちました。 【男性/日本/25～29歳/何もしていない】
- 今まで経験したことのない仕事を見ることで視野が広がるから。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 記入なし 【女性/日本/25～29歳/非正規社員】

10【仕事】就職に向けての学び直し、学習支援

- 記入なし 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 自分の苦手なことを克服できるよいきっかけになってくれた。 【男性/日本/20～24歳/非正規社員】
- ある就職先をめざして、勉強して力を身に付けました。 【男性/日本/25～29歳/何もしていない】

11【障がい等】障がい・病気のための病院等医療機関による継続的ケア

- 正直この支援しか受けていないから。 【男性/日本/20～24歳/大学生】
- 処方されるお薬ありがたい。 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 障がいを持っている私に、アドバイスをくれた。 【男性/日本/25～29歳/高校生】
- 医師相談。 【男性/日本/25～29歳/大学生】
- 服薬をしないと不安定なため。 【男性/日本/25～29歳/専業主婦・主夫・家事手伝い】
- 病院でも日常生活でのことなど相談できた。薬の量も自分が飲める量に減らして対応してくれた。 【男性/日本/25～29歳/その他】
- 障がいがあるので、仕事や生活のいろいろな事を何でも相談できる安心できる場所。 【男性/日本/35～39歳/非正規社員】
- 体の不調をケアしてくれる。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 病気とかではなかったけど、先生に話を聞いてもらえて少し楽になったから。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 日中の居場所。家族との関係。 【女性/日本/15～19歳/大学生】
- 家族とのつながりががないため全てにおいて助けになってもらっています。 【女性/日本/20～24歳/高校生】
- 悩みなどで夜眠れないなど生活に支障が出ていたので、病院に通えて良かった。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- メンタルの病院で、服薬をもらえて安定してるから。 【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

12【障がい等】障がい・病気のための病院等医療機関による継続的ケア

- 自分の居場所が見つからず、新しい居場所を求めてデイケアに通所した。 【男性/日本/15～19歳/非正規社員】
- どんな状態であれ、働けるのはうれしい。 【男性/日本/25～29歳/高校生】
- 他の利用者と一緒に掃除などいろいろ作業することができてよかった。 【男性/日本/25～29歳/その他】
- 放課後等デイサービスに行き行って助けてもらうこと。 【女性/日本/15～19歳/高校生】

14【障がい等】心の障がいに関する相談、支援

- 不登校だったから。（中学のときに相談した） 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- メンタルクリニックに行き行って心がかなり楽になった。 【男性/日本/20～24歳/高校生】
- メンタルの悩みを打ち明け、真剣に聞いてもらったおかげで、かなり精神的に強くなれたから。 【男性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 身体症状の相談。 【女性/日本/15～19歳/大学生】

16【障がい等】障がい・病気等のための給付金や優遇制度等の経済的支援

- 日ごろの生活の助けになっている。 【男性/日本/25～29歳/高校生】
- 年金、経済的。 【男性/日本/25～29歳/大学生】
- 少し安くなったり、趣味のものを買えるから。 【女性/日本/25～29歳/ - 】

18【養育・子育て】児童相談所による相談、支援

- 親と離れてお互い丸くなった。 【男性/日本/15～19歳/高校生】

19【養育・子育て】児童養護施設による支援

- 児童養護施設に入所しているから。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 社会に出るための必要な事を学べるから。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 家族とのつながりががないため全てにおいて助けになってもらっています。 【女性/日本/20～24歳/高校生】

22【経済的困難】生活保護等の経済的支援

- 自分達も受けているから。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 生活の助けになった。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 浜松市児童相談所の仲介の下、生活保護受給。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 病気で仕事ができなくてもくらしていけるから。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 親から離れるために、経済的に支援が親から受けられなかったため。 【男性/日本/15～19歳/非正規社員】
- 親が常に生活の事で悩んでいたがそれを安心させてくれる制度だったため。 【男性/日本/15～19歳/何もしていない】
- 家族とのつながりががないため全てにおいて助けになってもらっています。 【女性/日本/20～24歳/高校生】

24【社会との関わり】社会とうまく関われないことに対する相談、支援

- 不安が解決策等を教えてもらい減ったため。 【男性/日本/20～24歳/非正規社員】
- 退職してからどうやって人と関わっていけばよいか悩んでいた時に同じような経験をしてきた人達と出会い、自分のことをしっかり話せたことがなによりうれしかった。 【男性/日本/20～24歳/その他】
- 最低限人と話せるようになった。 【男性/日本/20～24歳/何もしていない】
- メンタルの悩みを打ち明け、真剣に聞いてもらったおかげで、かなり精神的に強くなれたから。 【男性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 地元に戻ってきたばかりで1人でハローワークなどに行っていたときは不安だったが、仕事のことや仕事以外のことまで相談することができて良かった。 【男性/日本/25～29歳/その他】
- 人とコミュニケーションをとる練習になっている。 【男性/日本/30～34歳/何もしていない】
- コミュニケーション能力に関して最低限しかなかったのが、少しはまともになった。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- しゃべれて楽しい。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 話をきいてくれて、優しく接してくれた。 【女性/日本/20～24歳/何もしていない】

- 同じような状況で悩む仲間の人達と出会えて悩んでいるのは自分一人ではないと思えたから。また、不安なときに相談できるスタッフさん達の存在が心の支えになることがあるから。
【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- どうしたらいいか、方法を学べた。
【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

25【社会との関わり】居場所づくりのための相談、支援

- 自分としっかり向き合ってくれたから。
【男性/日本/20～24歳/大学生】
- 趣味の合う知人と頻繁に会えるので。
【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 退職してからどうやって人と関わっていけばいいのか悩んでいた時に同じような経験をしてきた人達と出会い、自分のことをしっかり話せたことがなによりうれしかった。
【男性/日本/20～24歳/その他】
- 記入なし
【男性/日本/25～29歳/大学生】
- 家に引きこもらず、出かける理由になる。家族以外との接点ができる。
【女性/日本/25～29歳/ - 】
- 同じような状況で悩む仲間の人達と出会えて悩んでいるのは自分一人ではないと思えたから。また、不安なときに相談できるスタッフさん達の存在が心の支えになることがあるから。
【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- どうしたらいいか、方法を学べた。
【女性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 中学の時に、教室に行けなくなり、特別教室の登校に変わったが教室よりも行きやすくなって心友ができたから。
【未回答/日本/15～19歳/高校生】

26【社会との関わり】社会復帰のための生活支援

- 失業給付金のおかげで、焦らず職探しをする事が出来ているので。
【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- どうしたらいいか、方法を学べた。
【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

30日本語習得のための支援

- 学校の先生の理解があった。
【男性/日本/25～29歳/大学生】
- 日本に来たときは、日本語は（話すことが）できなかった。アラッセと、U-TOCがたくさん助けてくれた。なぜなら、来日したときは日本語が話せなかったが、アラッセやU-TOCが手伝ってくれたから。
【男性/ブラジル/15～19歳/その他教育機関】
- 昔は仕事の班長の日本語が分からなかった。U-TOCに来てから、班長の日本語が70%位分かるようになった。先生は楽しく教えるのが上手、やさしい日本語だった。
【男性/ブラジル/20～24歳/正社員】
- ユートックで日本語が上手になりました。
【男性/その他/15～19歳/その他教育機関】
- もっと日本語学びたかった。
【女性/ブラジル/15～19歳/高校生】
- U-TOCの読み書きクラスのシステムがgood。他は知らない。ベーシックひらがな→ひらがなで文を書く→漢字。
【女性/その他/15～19歳/非正規社員】

31それ以外の相談、支援を受けている

- 一人で抱えていた問題について相談できたこと。
【男性/日本/30～34歳/非正規社員】

⑥今後新たに受けたい支援（問4-4）

【性別/国籍/年代/職業】 ※「-」は無回答者

1【学校】学校での学習に関する相談、支援

- 学校の勉強だけじゃ足りない気がするから。 【男性/ブラジル/15～19歳/高校生】

4【学校】奨学金や減免制度等の経済的支援

- お金が足りない。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 奨学金をすべて返済できるか心配だから。 【男性/日本/25～29歳/何もしていない】
- 大学進学のための資金がほとんどないから。 【女性/日本/15～19歳/高校生】

5【学校】就学役に役立つ学習支援に関する相談、支援

- 記入なし 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 記入なし 【男性/ブラジル/15～19歳/その他教育機関】

6【仕事】求人情報に関する相談、支援

- 記入なし 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 将来的に仕事に就くため方法を教えてもらいたい。 【男性/日本/15～19歳/非正規社員】
- 自分が希望する職種だけでなく、相談員がおすすめできる求人を教えてほしい。 【男性/日本/30～34歳/正社員】
- 就職したいから。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 地域に密着した求人情報があれば聞いてみたいです。 【女性/日本/20～24歳/大学生】
- 安定した人生を送って穏やかに死にたい。 【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 仕事がしたいから。 【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

7【仕事】就職活動の仕方に関する相談、支援（履歴書の書き方、面接の仕方等）

- 記入なし 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 将来的に仕事に就くため方法を教えてもらいたい。 【男性/日本/15～19歳/非正規社員】
- 就職後の相談。 【男性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 面接で気をつけることや心構えなど役に立つことがあれば教えてもらいたい。 【男性/日本/25～29歳/その他】
- どう動いていいのか分からない事が多いのでいろいろとくわしく教えてもらいたい。 【男性/日本/35～39歳/非正規社員】
- やり方が分からないから。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 記入なし 【女性/日本/25～29歳/ - 】
- 転職の経験がなく、不安な為。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 忘れてる部分をおぎなうため。 【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

8【仕事】職業訓練（就職に役立つ技能や資格の習得等）

- 記入なし 【男性/日本/15～19歳/高校生】

- 将来的に仕事に就くため方法を教えてもらいたい。 【男性/日本/15～19歳/非正規社員】
- 今の状態では、一部の職業に必要な技能や資格は得られるが、まだ足りない印象があるから。（FP2、生損保など） 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 記入なし 【男性/日本/25～29歳/大学生】
- 技能を身に付けて就職に役立てたいから。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 自分が希望する職種に必要な資格があればうけたい。 【男性/日本/30～34歳/正社員】
- 他業種他職種からの転職を目指しているから。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 記入なし 【女性/日本/25～29歳/ - 】
- 今現在の仕事が自分に合っていないと思うから。 【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 資格取得を考えているから。 【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 今までに車の免許以外に資格を持っていないため。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 資格がほしいから。 【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

9【仕事】就職に向けての職業体験活動

- 自信に繋がりそうだから。 【- / - / - /何もしていない】
- 未経験の業界へいどむ際にある程度経験できたら、入社へこぎつけやすいから。 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 就職が不安だから。 【女性/日本/20～24歳/大学生】
- 記入なし 【女性/日本/25～29歳/ - 】
- 自分自身が思いえがいていた仕事と、実際に体験してみて、仕事として自分が交わっていきけるか知りたいから。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 自分の適性・対処を知り、転職に役立てたい為。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 体験してみたいから。 【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

10【仕事】就職に向けての学び直し、学習支援

- いくらやりたいと思っても、技能がなければ、仕事にならないから。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 不足部分をおぎなうため。 【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

14【障がい等】心の障がいに関する相談、支援

- 近くにそのような支援を受けられる所がなかったため。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 病気の事でいろいろなやむ事があるので相談ができると助かる。 【男性/日本/35～39歳/非正規社員】
- 自分の病気を早くなおしたい。 【女性/ブラジル/15～19歳/高校生】
- その可能性がある自分と思うから。 【女性/ブラジル/15～19歳/高校生】
- 精神的に不安定で、学校を長期間どうしても休んでしまう時期があるから。 【未回答/日本/15～19歳/高校生】

15【障がい等】知的障がいに関する相談、支援

- 適性検査の結果が知的障害に該当したから。 【男性/日本/25～29歳/何もしていない】
- その可能性がある自分と思うから。 【女性/ブラジル/15～19歳/高校生】

16【障がい等】障がい・病気等のための給付金や優遇制度等の経済的支援

- 現状金銭的支援をあまり受けていないので。【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 知的障害と知って、今後就職できるか心配です。【男性/日本/25～29歳/何もしていない】

17【養育・子育て】養育・子育てのための病院等医療機関による継続的ケア

- 子育てするための費用の助けがあると少子高齢化の手助けになると思う。【女性/日本/25～29歳/求職活動中】

18【養育・子育て】児童相談所による相談、支援

- 記入なし【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 虐待に耐えることしかできず、家から逃げたいのにどうすれば良いのか分からないから。【未回答/日本/15～19歳/高校生】

19【養育・子育て】児童養護施設による支援

- 虐待に耐えることしかできず、家から逃げたいのにどうすれば良いのか分からないから。【未回答/日本/15～19歳/高校生】

21【養育・子育て】養育・子育てのための給付金や貸付等の経済的支援

- 今後子供が生まれたときには病院など行くときには継続して見てもらえると安心。【女性/日本/25～29歳/求職活動中】

22【経済的困難】生活保護等の経済的支援

- 仕事に定着できなかった時に相談にのってもらいたい。【男性/日本/35～39歳/何もしていない】

24【社会との関わり】社会とうまく関われないことに対する相談、支援

- 人間関係がうまくいかなかった時にそだんにのってもらいたい。【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 一度社会から遠ざかると、どうやったらその中に戻っていけるか分からなくなってしまふから。【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 就職できた後にも人間関係の悩みなど上手くやっていけない不安や悩みがあると思うので、そういう時に相談に乗ってくれたり支援してくれるところがあると心強いから。【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 仕事などでつらくなったりしたら、相談したい。【女性/日本/20～24歳/何もしていない】
- 同じ立場の人の話も聞いてみたい。【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 現在の不安を相談できる所を教えてほしい。【女性/日本/35～39歳/求職活動中】
- 左記の不安によって社会で生きていける気がしないから。【女性/ブラジル/15～19歳/高校生】

25【社会との関わり】居場所づくりのための相談、支援

- やはり自分の居場所がない、持てない人は多いと思うので、居場所づくりの相談支援はありがたいです。【男性/日本/20～24歳/非正規社員】

- 無職だとどうしても孤立してしまうため、お金がないと家に居るしかないため。
【男性/日本/25～29歳/専業主婦・主夫・家事手伝い】
- いつ金がなくなるかわからないので今の生活が続くように支援してほしいです。
【男性/日本/25～29歳/何もしていない】
- 日本の友達と、サッカーをする機会や場所がほしい。 【男性/その他/15～19歳/その他教育機関】
- 就職できた後にも人間関係の悩みなど上手くやっていけない不安や悩みがあると思うので、そういう時に相談に乗ってくれたり支援してくれるところがあると心強いから。
【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 現在の不安を相談できる所を教えてください。 【女性/日本/35～39歳/求職活動中】

26【社会との関わり】社会復帰のための生活支援

- 無職だと生活リズムが不安定になるため。 【男性/日本/25～29歳/専業主婦・主夫・家事手伝い】
- 会社との関わり方が難しいので支援してほしいです。 【男性/日本/25～29歳/何もしていない】

30日本語習得のための支援

- 今は日本に住んでいるため、日本の高校に入りたい。 【男性/ブラジル/15～19歳/その他教育機関】
- もっと勉強したいから。 【女性/その他/15～19歳/非正規社員】

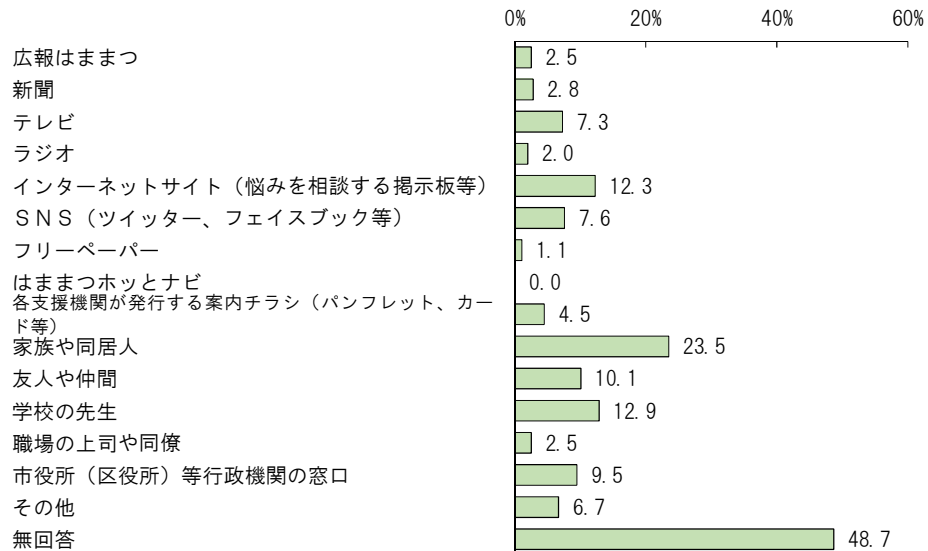
31それ以外の相談、支援を受けている

- 一人ぐらし支援 【女性/日本/15～19歳/大学生】

⑦支援機関や窓口について（問5）

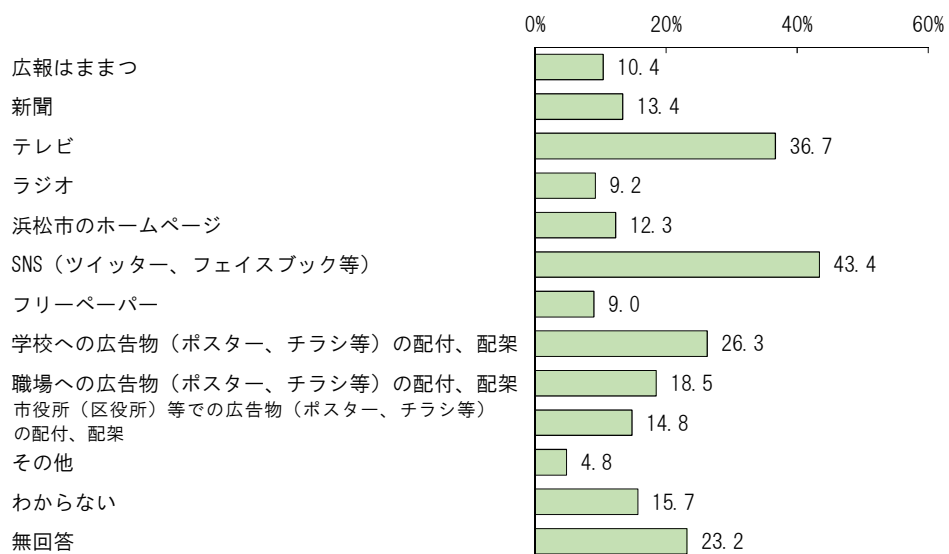
支援機関や窓口を知った経路については、「家族や同居人」が最も多く23.5%、次いで「学校の先生」が12.9%、「インターネットサイト（悩みを相談する掲示板等）」が12.3%などとなっています。

問5-1 支援機関や窓口を知った経路



より効果的な支援機関や窓口の周知法については、「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」が最も多く43.4%、次いで「テレビ」が36.7%、「学校への広告物（ポスター、チラシ等）の配布、配架」が26.3%などとなっています。

問5-2 より効果的な支援機関や窓口の周知法



⑧悩みを抱える若者とその家族の支援について、あると良い支援機関や窓口（問5-3）

【性別/国籍/年代/職業】 ※「-」は無回答者

- SNS。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- SNSのDM。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- インターネット。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- カウンセラー。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- カウンセリング。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 金をいっぱいくれる。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 経済的な支援などをする。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 支援を必要とする人専用のSNS。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 授業の一環として。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 近くにいてあげる。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- でんわ 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- どうにかなると思っていない。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- ない 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- ない。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 不登校児への支援で適性指導教室の設置。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 若者の気持ちをしっかりと理解する。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 仕事を探したり、技術を習得できる場所。 【男性/日本/15～19歳/非正規社員】
- SNSなどを活用した誰でも気軽に話せる窓口がもっとあると良いかもしれません。 【男性/日本/15～19歳/何もしていない】
- 電話やSNSで相談できる場。 【男性/日本/20～24歳/高校生】
- 自分の内面世界・人格を認めてくれ、自分の能力に見合った支援をしてくれる相談機関。 【男性/日本/20～24歳/大学生】
- 悩みについて話せて、考えられて行動ができる。1人で落ち着ける場所。呼んだりしても誰にも迷惑が掛からない場所。 【男性/日本/20～24歳/大学生】
- 就職以外のことも含む生活に関しての相談窓口があれば個人的にはいろいろ話しやすいかなと思います。「ここはこういった相談でないといけないんだ」という意識があるとハードルが高くなるように思い、「就職に関する事ならなんでも大丈夫です」という事で今の支援機関に通っているので、一歩踏み出しやすくして、そこから専門的にしていくというのがあったら悩みのある人たちが多少は楽になりやすいかと思いました。 【男性/日本/20～24歳/非正規社員】
- 市役所、区役所等に予約無しで行ける相談窓口。 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 趣味の合う知人と知り合える場所。 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 職業訓練の種類、職業体験の充実化が必要。設計、FP3、生損保、CAD、C言語プログラミングなど。 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 就業や進学での相談を小・中学生の時からしてくれる所。同じような経験をしてきた人の講演会を開く。就業や進学に向けて一緒に探してくれる機関。 【男性/日本/20～24歳/その他】
- 人生相談。職場体験。 【男性/日本/20～24歳/何もしていない】
- サポステ。 【男性/日本/25～29歳/正社員】
- サポステ。 【男性/日本/25～29歳/非正規社員】

- 精神的な悩みを真剣に聞いてもらえるような場所。 【男性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 相談にのってくれる機関が一覧になったホームページがあると助かります。また、相談する相手がどんな人なのかかわかると相談しやすいかもしれません。どこに相談すれば良いかわからないとき、適切な相談員を紹介してくれるコンシェルジュのような人がいたら良いです。私自身、どこ、誰に相談すれば良いかわからず、今もややもした悩みがあります。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 年代ごとの悩みに合わせた支援窓口を教えてください。悩みをもつ若者のつどい、居場所的な空間があると良い。社会参加できる場が欲しい。本人どうしの情報交換の場の提供。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- とにかくお金がないと居場所がないので、無料で居場所を提供する場所がもっとあると良いのではと思う。支援機関がまとまってないので、駐車代や交通費がかかる。できればまとめて欲しい。(ハコワも建物に分かれています) 【男性/日本/25～29歳/専業主婦・主夫・家事手伝い】
- 仕事の面では企業の採用者と直接話ができる場を月に1～2回もうけていけば、働き口が見つかりやすくなると思う。 【男性/日本/30～34歳/正社員】
- 学生には学校外での相談窓口が必要だと思う。学校と接点の全くないのが重要。いじめを受けたら学校関係の人に触れたくないから。 【男性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 若者が外に出て人とかわかれる場がもっとあると良いと思います。家族の相談にのれる支援機関がもっとあると良いと思います。 【男性/日本/30～34歳/何もしていない】
- 相談できる場所がまだまだ少ないと思うので、もっと県や市が積極的になって困っている人たちがきかねなく話ができる場所を増やしてほしい。 【男性/日本/35～39歳/非正規社員】
- 市や県で未婚の男女を集めて大学のサークル活動みたいなことを実施したらおもしろそうかも知れません。(例：ボルダリング、ノルディックウォーキングの教室とか) 民間企業とコラボして婚活支援。 【男性/日本/35～39歳/求職活動中】
- 発達支援児童相談所。 【男性/日本/35～39歳/求職活動中】
- 同じ悩みを抱える人同士で交流できる場があれば良いと思います。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- とにかく目につきやすい案内が欲しい。相談する場所が分からないと次のステップへ進めない。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 人目に付きやすく、窓口や案内を設置する。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 身だしなみに関する知識やそれに対する支援を行える機関(頭髪、化粧、服飾、歯)。外見に対するコンプレックスへのケアがあると良いケースはいくらかあると思う。特に引きこもりは乱れがちなので。同じ悩みを抱える人同士での交流スペース。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 自分のことをあんまり言わなくても良くて小さい悩みでもきいてくれる場所。 【男性/ブラジル/15～19歳/高校生】
- もっと就学面での支援があったほうが良いと思う。定時制、通信制にかよってる人でも進学したい人ってたくさんいると思うし、全日制にかよいたかったけど無理だった生徒もいっぱいいると思う。全日制と定時、通信のかかわりをふやすてきな。全日レベルにおいつける授業を進学したい人用にひらくとか。ホットライン?みたいなやつ電話の人、塩対応かな。電話だけでじゃなくて、場所だかかりて(支援が必要な人)を集めて、相談等やったらいいと思う。 【男性/ブラジル/15～19歳/高校生】
- J L P Tを勉強できるクラスをふやす。たとえば週末の朝。1回500円ならだいじょうぶ。 【男性/ブラジル/15～19歳/その他教育機関】

- 悩んでいる人が行ける施設をもっと大きくしてほしい。 【男性/フィリピン/15～19歳/高校生】
- 市役所に英語とフランス語で、相談できるといい。 【男性/その他/15～19歳/その他教育機関】
- counsellor。もっといいかんきょうをつくる。たとえば（がっこう）きょういくをもっとよくする。いいせんせいたちをさいようしてください。先生はだいじです！！ 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- いつでもどんなときでもどんなことでも相談できるところ。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 市が管理していて、信用できてお金のかからない窓口。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 先生が気づいてあげる。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 全日制高校から通信制高校に転校する時、個人個人に合った通信制高校をいくつかおすすめしてくれる窓口があるとうれしいと思う。大学進学を目指すのか、就職を目指すのかなどタイプ分けして。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- テレビ、でんわ。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- SNSを使つての相談窓口。 【女性/日本/15～19歳/大学生】
- 電話で話をきいてくれる。 【女性/日本/20～24歳/大学生】
- 家族がそろって相談することができる機関。外出できない人でも対面せず相談できる機関。話すのが苦手な人もいるので、文章や文字だけでやり取りができればいいと思う。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 現在、求職中で就職支援機関の浜松パーソナルサポートセンターを2018年10月から利用しています。来春には機関が終了してしまうと聞いたので、またそのような施設があれば、転職を考えているアルバイト・パートの若者が助かります。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 転職を目指す若者、社会人経験のない若者に異業種、異職種への志望する業界・職種のアルバイトをあっせんしてくれる支援機関。将来どうということがしたいのか、キャリアプランに沿って、必要な資格や経験を一緒に考え、それを得るために経験を積める場所をあっせんしてくれる支援機関。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 夜の居場所。 【女性/日本/20～24歳/その他】
- メールで、相談できる窓口（悩み等）もしくはSNS。 【女性/日本/20～24歳/何もしていない】
- 仕事等でつらくても相談窓口はほとんど10：00～や9：00～で、終わりも17：00、18：00でなんのやくにもたっていないと思う（工作中）ので土・日・祝や、19時までとかにしてほしい。 【女性/日本/25～29歳/正社員】
- 悩みを抱える人が、自分は一人ではないと実感できるように同じような悩みをもつ人達と出会って交流できる場所。相談員さんの存在はもちろん助けになりますが、仲間の存在が自分にとって非常に大きいものだと感じるため。 【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 若者の長所を理解して必要に応じた案内、求人の提供を行ってくれる場所。 【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- 個別ブース（他の人の顔などが見えないうなしっかりとした）のある相談場所。 【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 保険証を返却し、親の扶養に入ろうとすると周りの人に仕事してない、クビになった事が分かるのは恥ずかしいということで入らないようにしている。出来たら周りの人に分からないようにする事が出来ないでしょうか。 【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- それぞれの仕事について、「ここが大変」ということ、苦勞したことなど、必ずこれは必要（現実問題として）という、現場で働いている人の声を聞きたい。 【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 若者とか家族などとしぼりがいいような、支援機関や窓口がほしい。 【女性/日本/35～39歳/何もしていない】

- 外国人で日本語わからない人。 【女性/フィリピン/15～19歳/高校生】
- こういうことの話し合いをひらく。 【女性/フィリピン/15～19歳/高校生】
- 相談するところが欲しい。言語の勉強するところがほしい。 【女性/フィリピン/15～19歳/高校生】
- 行きたくても行けなかったり、その機会を知ることができなければ意味はないので、例えば全ての学校に相談に乗れる人や、相談箱のようなもので手紙のやり取り（コミュ障の人や失声症等の人のため）ができるシステムを置けば、直ぐにかけつけることができます。その存在はポスターやお便りなどで知ってもらうことができます。 【未回答/日本/15～19歳/高校生】

⑨悩みを抱える若者とその家族への支援について、浜松市への意見・要望（問5-4）

【性別/国籍/年代/職業】 ※「-」は無回答者

- 金。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- がんばって！！ 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- 支援金を増やしてほしい。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- どうにかなると思っていない。 【男性/日本/15～19歳/高校生】
- どんな支援が有るのか知らないで知る機会がほしい。 【男性/日本/20～24歳/大学生】
- 職業訓練できる種類、職業体験活動の充実化。 【男性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 現状を理解している教育者・企業が少な過ぎる。話にならない。学校（高校）に所属する間に、手だてを打っていたらと後悔しきりである。学校は全く相談に乗らないばかりか「努力が足りない」とされた。本人の特性を活かす進路（一般就労の障害者枠）を「学校以外の機関も含めて相談できるしくみ」が必要だと思う。（現状の制度では無理だと理解するが）このままでは「社会に出て働く、税金を納める」以前に、「社会は受け入れてくれない所（疎外感）」ばかりである。学校教育（教員教育）・しくみ（療育手帳のない発達障害者が社会で職を得るため、学校から送り出すシステム）づくりが急務だと思います。 【男性/日本/20～24歳/その他】
- 周知活動に力を入れてたくさんの悩みを抱える人の手助けをしてあげてください。 【男性/日本/25～29歳/正社員】
- A型事業所も以前より仕事内容が高度化し、障害の重い人には働きづらくなっている。働く意欲があっても、就労もできず落ちこんでいる本人、家族もいることを忘れないでほしい。障害が2つ以上ある場合は支援を受けるのがむずかしい。年金も20才以上で障害が重くなっても、生まれつきの難病が原因とされ厚生年金の適応が除外され、経済面でも不安を感じる。公共団体からも生きがいのもてる仕事・時間の提供を求める。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 悩みを抱える若者も、時として家族からの支援が必要になることがあります。しかし、周りの家族から理解されなかったり、周囲の人がどう対応すれば良いのかわからないことがたくさんあると思います。悩んでいる若者の家族に向けて情報を発信して頂けると助かります。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- もう外国人の受け入れはしない。 【男性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 学校に通っているうちに支援をするのがやはり効率的だと思うので、そこに力を入れてほしい。（自分が学生だった頃は利用できなかった）既に利用者がいる所ともっと協力してほしい。浜松は大きな福祉系の団体があるので、有効だと思う。 【男性/日本/25～29歳/専業主婦・主夫・家事手伝い】
- 働き方改革というか、手当てなしの休日出勤、サービス残業、パワハラはなくならない。もっと企業の中まで入りこんで社長などの幹部の意見ではなく、平社員の話を書いてくれば今の状況はかわっていかないので、会社の中まで入りこんで勤務状態とかを確認してほしい。 【男性/日本/30～34歳/正社員】
- 相談するだけでも、問題を抱えていたり、うつの人にはかなり高いハードルなので、もっと気軽に相談できることを広めてほしい。あと窓口などがあるということも多くの人に認知してもらうようにしてほしい。 【男性/日本/30～34歳/非正規社員】
- もっと積極的に何のきかねもなく安心して相談できる場所を作ってほしい。 【男性/日本/35～39歳/非正規社員】

- 数年前からたくさんのサクラが混ざっている婚活パーティーなどが目立ちます。それらを主催している企業、団体を法律で規制してほしいです。（真剣に婚活をしている人からお金を取る行為が信じられないと思うからです。） 【男性/日本/35～39歳/求職活動中】
- 支援機関や窓口を、人目につきやすいようにしてほしい。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- どのような支援があるのか、テレビやホームページを使って認知させてほしいです。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 人目に付きやすく、窓口や案内を設置する。 【男性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 南区役所たち対応悪い。全員かどうかは知らないけど。 【男性/ブラジル/15～19歳/高校生】
- 日本語を勉強したいから、もっと日本語の先生をふやしてください。 【男性/ブラジル/15～19歳/その他教育機関】
- 会社の中で日本語教室があるといい。仕事もしたいし、日本語も勉強したい。 【男性/ブラジル/20～24歳/正社員】
- 悩んでいる人が行ける施設をもっと大きくしてほしい。 【男性/フィリピン/15～19歳/高校生】
- 個人情報を勝手に言わないでほしい。「児童相談所」最悪。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- 匿名で受けれる。悩み相談の中で、本人が希望するなら学校や会社への報告や“どうにかする”という事をした方がよいと思います。警察と組みけいこくという形でその人と一緒に立ち向かうということをした方がよい事だと思います。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- もう少し芸能人が来て欲しい。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- もう少し分かりやすく窓口などを広めてほしい。見つけにくいし何をすれば良いのか（どういう手続きがあるのか）わからない。 【女性/日本/15～19歳/高校生】
- もっと親身になって悩みを聞いてくれる方が増えるといいと思います。事務的な態度ではなく、一緒になって状況に合わせていろいろ考えて下さる方だと、自分の意見も打ち明けやすいです。色々を書きましたが、私は浜松市が好きなので、もっとよりよい町になることを願ってます。ありがとうございました。 【女性/日本/15～19歳/何もしていない】
- 国規模の話になってしまいますが、生活保護をもう少しかえた方がよいと思います。給付されてる身で恐縮ですがもう少し受け取れる金額をもう少しあげた方が自立できる人も多いのではないかと思います。月に週5日で働いている私も給付があってもきびしいです。（学費などで引かれるからかもしれない）それでもほとんどのお金がなくなってしまい貯金もほとんどできません。仕事と学校で朝から夜まで家に帰らない私でさえギリギリなら一日中家にいる人は無理だと感じました。 【女性/日本/20～24歳/高校生】
- 1人1人の考え方や個性に対してもっと肯定的な環境になってほしいと思うので、小学校くらいから正解のある授業だけでなく自分がどう思うか、他の人がどういう意見を持っているのかを発表・共有できる授業を増やしてほしい。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- 今、新卒ハローワークを利用させて頂いていますが、担当の方が良いアドバイスをして下さり、大変助かっております。その前はハローワークにて相談をさせて頂いておりましたが、若者向け、予約制であるところで、利用しやすいので新卒ハローワークを主に利用しています。転職サイトやエージェントも利用していますが、書類の添削をその場でして頂けるところが大変良いと思っています。ハローワークは知っていても新卒ハローワークや若者ハローワークを知らない人は多いと思うので、是非PRに力を入れて頂きたいと思っています。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】
- まずはどんな悩みを抱えてる人がいるのか、どのくらいの数いるのかという実態を調査して、しっかりと把握してほしい。助けが必要な人を見逃さないでほしい。 【女性/日本/20～24歳/求職活動中】

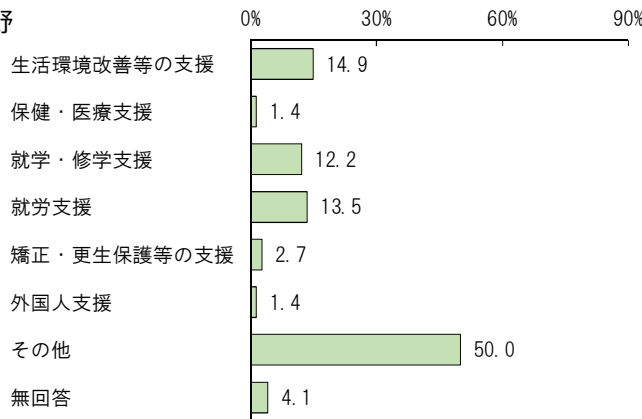
- いつもありがとうございます。前向きに生活できるようになりたいです。浜松市のホームページに「仕事の悩みに関する支援機関」などが多くあることをもう少しアピールしてもよいと思います。【女性/日本/20代】
- 残業代の未払いや職場環境、有給の取得など、悪い会社があるのに、なにも良くなっていかないのはなぜだろうと思う。最低賃金が上がったが、何もかわらないと思う。【女性/日本/25～29歳/正社員】
- 非正規の人がストレスで心や体を壊すことのない優しい市にして下さい。優しさが仇とならない環境で働きたいです。よろしくお願いします。【女性/日本/25～29歳/非正規社員】
- SNSなど若者のよく見るサイト上に情報発信を積極的に行うと良いと思います。【女性/日本/25～29歳/求職活動中】
- 今回はじめて、ハローワークに行かせて頂きました。相談にのってくださったスタッフの方々が笑顔で丁寧に話を聞いてくださり、とても安心しました。「働くところがない、これからどうしよう」と不安な気持ちで向かう方々がほとんどだと思いますので、スタッフの方々が、アットホームにむかえて頂けると、焦る気持ちがおちつき、改めて自分と仕事に向きあえ、仕事を探すことに前向きな気持ちになれると感じます。【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 若者が入りやすい場所に相談窓口を置いてほしいです。【女性/日本/30～34歳/非正規社員】
- 役所は冷たい。事務的で相談をしても親身になってもらっている感じがしない。【女性/日本/35～39歳/正社員】
- 法律的な相談をしたい時はどうすればよいか、分かりやすくしてほしい。協働センターの職員を定期的に入れ替えてほしい。【女性/日本/35～39歳/求職活動中】
- 今ある支援をこれからもけいぞくしてほしいです。【女性/日本/35～39歳/何もしていない】
- 外国人学習支援センターのような施設を、もっと作ってほしい。今は、自宅から遠い。浜松駅の近くに欲しい。【女性/その他/15～19歳/非正規社員】
- 児童養護施設を近くにほしいです。何かあった時、逃げ込むことができる場所が必要です。いつも近くの公園に一時逃げていますが、暗くなれば無理でも帰らなければいけません。虐待被害専用の電話などもあればより助かります。被害に遭った時、直接警察よりもそのような専門のところの方がかけやすいです。どこからが警察に通報すべきか分からず、いざという時にSOSを出せずに苦しんでいます。どうかお願いします。【未回答/日本/15～19歳/高校生】
- 学費が減ると嬉しい。【未回答/その他/15～19歳/高校生】
- 職場体験→就職へ結びつけてくれるようなもの。【 - / - / - /何もしていない】

II 若者支援に関するアンケート

(支援機関)

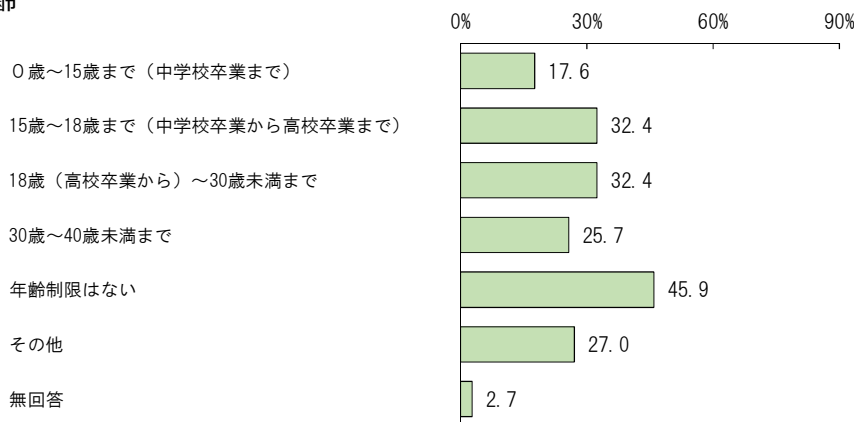
①支援分野（問1）・対象年齢（問2）

問1 支援分野



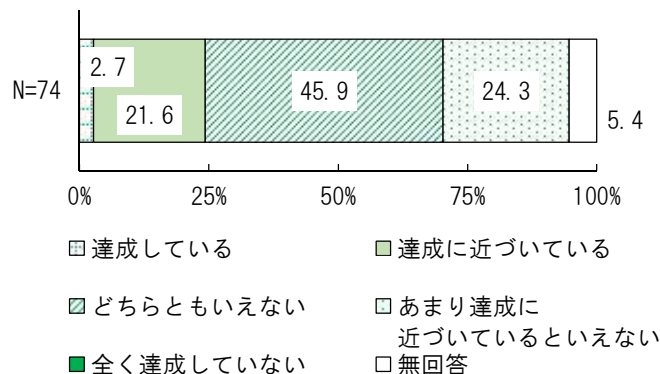
本調査には、支援分野及び支援対象年齢が様々な支援機関に、回答していただきました。

問2 対象年齢



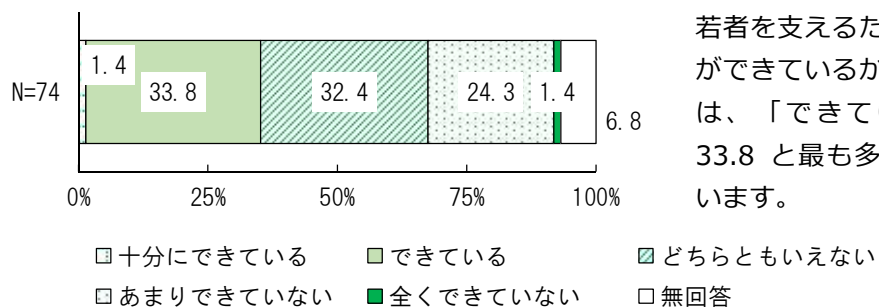
②子ども・若者支援について（問3）

(1) 現行計画の基本理念を達成していると思うか



現行計画の基本理念を達成しているかどうかについては、「どちらともいえない」が45.9%と最も多く、達成派と未達成派の割合はほぼ同率となっています。

(2) 「社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者を支える」ための支援を行うことができているか



若者を支えるための支援ができているかについては、「できている」が33.8と最も多くなっています。

③若者が抱える困難について（問4～7）

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
001	3 どちらともいえない 事業は充実してきているが、相談を受けているなかで子育てがしやすくなったという感想をほとんどきかないため。		3 どちらともいえない ・不登校の児童の数が減少しない。 ・不登校の児童がそのままひきこもりの若者になっていく状況が減っている印象があまりない。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> ・養育に問題があったり、発達に課題がある子が集団生活の中で問題行動がみられたり、不適応をおこしている。 ・上記の状況により、親から虐待される子もいる。 ・養育環境の影響により、不登校になる児童がみられる。 ・貧困家庭の子どもの学力低下がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の遅れ。 ・養育環境。 ・親の貧困。 ・ひとり親家庭の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害に関する相談先や療育施設の充実。 ・虐待の早期発見、早期対応、支援。 ・貧困家庭の子どもに対する学習支援。 ・適切な養育環境を整えることができるよう、親に対する手厚い支援。 	支援の必要性の有無と必要な支援の見極めができるような力をつける。
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由により、希望どおりの就学ができない児童がいる。 ・若年妊娠により、様々な問題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の貧困。 ・ひとり親家庭の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学時の貸与等の充実。 ・性教育による知識の普及。 	支援の必要性の有無と必要な支援の見極めができるような力をつける。
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・晩婚傾向 ・妊娠・出産、育児に関する知識が不足している人が多い。そのことにより、不適切な対応がみられる。 ・予期せぬ妊娠による不安や経済的な負担の訴えがある。 ・非正規雇用のため、経済的に困窮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な安定や一定以上の収入が見込めず結婚にふみきれない。 ・妊娠・出産、育児に関する知識を得る機会が少ない。 ・育児について、気軽に相談できる環境がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚に結びつけられるような出会いの場を設ける。 ・就労支援の充実。 ・妊娠・出産、育児の悩みを抱える人に対する相談体制の充実。 	支援の必要性の有無と必要な支援の見極めができるような力をつける。
30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦で就労している家庭が多いが、親族や祖父母に子どもの養育を頼める場合が少なく、預け先に苦慮している。預け先がないため、未就労の非母親も多い。 ・子どもを養育していくうえでの経済的な負担が大きい。 ・ひとり親家庭の貧困。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園、保育所、放課後児童会を希望どおり利用できない。 ・子どもの養育費が家計を圧迫している。 ・ひとり親家庭の非正規雇用率が高く、収入が安定しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設等の充実を図り、待機児童の解消。 ・子育て世代に対する経済的支援。 	支援の必要性の有無と必要な支援の見極めができるような力をつける。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
002	3 どちらともいえない 浜松市子ども・若者支援プランを理解して支援しているわけではない為「どちらともいえない」だが、学習教室を通して子供達の居場所作りや、親を支援する事で子供の暮らしに良い影響を与えていると思われる。	2 できている 社会的基盤の未熟な若者に対し居場所・就労・経済等の面で支える事を行っている。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	・ひとり親→経済的困窮 ・不登校	① 親の仕事や精神疾患があると子供に対応できない。学校の規則・制度にのれない子供は過ごしづらい。 ② 養育費がもらえない。子育てをしながら生活をまかなうだけの収入を得るには負担が大きい。	① 学校以外の居場所の選択肢が多様にある事。 ② 養育費のとり決めをしてから離婚する流れ、しくみ、相談支援など。市が独自に助成する制度を作る。	① 一人々を認める。居場所が有る事を伝える（学習支援など）。 ② 親が安心、安定する支援をする事で子供も安心すると思われる。
15～18歳	高校に進学したが、様々な理由で退学。再入学や就職などの手段がわからず、自宅でひきこもりとなる傾向にある。	① 基礎学力が不足している為、勉強についていけない。 ② 対人関係を作る、維持することができず孤立する。 ③ 親の能力の問題。	① 退学予防の為の学びの場・対人関係構築の場。 ② 転校・就職支援。 ③ 親の相談窓口。	指導的なかかわりではダメ。本人の意思になるべくそえる実現できる方法を一緒に学べる。親に対して能力に応じた対応。
18～30歳未満	① 貧困家庭で育ってきた。 ② 義務教育時から不登校で社会とのかかわりが薄い。 ③ 親、親族との関係が切れ親子場が無い。	① 片親であったりして収入が少ない、両親がいても収入が少なく家計管理にも課題がある事が多い。 ② 家庭環境や低学力・心身の疾病や障害・精神疾患・発達障害の問題がある。	① 家計管理に課題がある場合には、収支を把握して支出を減らす為の助言を行う。 ② 低学力や不登校であったならば、学び直しの場を設定する。病気や障害があるのなら受診促しや適切な相談機関へつなげる。	① 支援員からアドバイス、助言、何らかの提案を行うが決定は本人自ら行えるようにかかわる。 ② 支援員からの助言だけでは決定が難しい場合はその課題となっている事柄の専門家から具体的に話をきくことにより本人がどうしたら良いか決めるきっかけとなる場合もある。
30～40歳未満	① 相談相手がおらず孤立している。 ② 将来に期待がない。生きがいがない若者が多い。 ③ 離婚の問題。	① 親や兄弟など関係が悪い。 ② 友人も多忙（仕事や結婚、子供など）で相談しづらい。 ③ 結婚を諦めている、する気が無い。 ④ 離婚後の生活が不安定（仕事・金銭面）。	① 困った時に相談できる場。 ② 同世代のつながり。 ③ 片親の世帯支援をする制度の充実。	① 相談者の思いを否定せずに受けとめる事。困った時に相談したいという場所になる事。 ② 十分な情報提供ができるよう様々な制度や支援機関に精通している事。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
003	4あまり達成に近づいていない 保育所待機児童の解消や女性就業支援の充実が達成されていると感じられないため。ひとり親家庭が子育てと仕事を両立し、自立した生活が送れるような社会資源が整っていない。気軽に子どもを預けられる施設が少なく、利用料が高額で利用できない家庭が多いと感じる。		4あまりできていない ひきこもりや、そのレベルまでには至らないものの、社会になじめずにいる若者が増加している。支援機関や支える事業があるものの、身近なものになっていなく、本人・家族から声を出しづらい状況がある。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自閉傾向にある等、発達に課題を抱えたグレーゾーンの児童が、支援の網から漏れる傾向にある。 ・ 望まない妊娠・出産、妊娠に気付かない、受診しない。 ・ 不登校、居場所がない。 ・ 保育所の不足。 ・ 放課後児童会の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害。 ・ 学級不適合による学業不振。 ・ 妊娠・感染症等を含めた性教育の不足。 ・ 学校以外の居場所や子どもが本音を出せる場の不足。 ・ SNSなど、物に恵まれているが、その活用・危険等の知識不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期療育と個別支援。 ・ 専門機関の受診。 ・ 保育所や放課後児童会、ショートステイ等の受け入れ先の確保と負担軽減。 ・ 段階的な性教育と各種情報提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人、家族や支援者に対する配慮。 ・ 本人の意思を尊重し、自立に向けて寄り添う。 ・ 子ども扱いしない声かけ。
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自閉傾向にある等、発達に課題を抱えたグレーゾーンの児童が、支援の網から漏れる傾向にある。 ・ 望まない妊娠・出産。 ・ SNSによるトラブル。 ・ 経済的困窮で希望通りの進学ができない。 ・ 不登校。 ・ 引きこもり・昼夜逆転。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠・感染症等を含めた性教育の不足。 ・ 発達障害や精神疾患。 ・ 基本的な生活習慣の未確立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門機関の受診。 ・ 服薬治療。 ・ 段階的な性教育と各種情報提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども扱いしない声かけ。 ・ 本人に寄り添う。
18～30歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に適応できず職に就けない、続かない。 ・ 非正規雇用で収入が少ない。 ・ 思い通りにいかない育児へのストレスを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労に見合った経済的保障の不足。 ・ 就労継続するための社会適応支援の不足。 ・ 祖父母世代が現役就労中、また核家族化により子育てに協力してもらいにくい。 ・ 一時保育や就園も経済的負担が大きかったり、空きがなかったりして利用しにくい。 ・ 家庭不和。 ・ 金銭管理や基本的な生活習慣の未確立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的な支援、就労に集中できる環境や社会資源の充実。 ・ 金銭管理等の自立を促す長期的な教育環境の整備。 ・ 専門機関の受診、服薬治療。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の意思を尊重する。 ・ 本人に寄り添う。 ・ 共感、受容。 ・ 生活モデルの提示。

30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的困窮。 ・社会に適応できず職に就けない、続かない。 ・不妊治療（妊娠できない、しにくい）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期に正規雇用につながらない、さらに就労が難しくなり経済的に不安定であること。 ・核家族化等により親・家庭モデルの欠如。 ・雇用、就労形態に男女不平等 ・幼少期の被虐、劣悪な生活環境等。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援の充実。 ・居場所、仲間作り。 ・男女平等・共同の周知啓発。 ・子育て女性の就労支援。 ・保育施設の拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意思を尊重する。 ・本人に寄り添う。 ・共感、受容。 ・自己決定の尊重とエンパワメント。
--------------	---	--	--	---

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
004	3 どちらともいえない 子ども・若者の事件・事故が減っていないため。		3 どちらともいえない 基本目標が円滑に行われているのかがわからない。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に取り組めず指示待ち型。 ・自己肯定感が強く、変わろうとしない。努力していないので根拠のない自信を持っているが打たれ弱く褒められる事が好き。 ・失敗や挫折からなかなか立ち直れない。 ・平等をもとめる。競争が苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の過保護、個性重視の教育、ネット社会による孤独感と不安感、社会全体の高齢化。 ・家族や友人などとの会話の減少、SNSの発展。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競争させる環境。 ・相談窓口の強化（周知・連携）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の尺度で計らない。 ・まず話を良く聞く。
30～40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
005	3 どちらともいえない 出生数は減少傾向にあり、晩婚化、初産年齢の高年齢化が起こっている中で、安心して子どもを産み育てられるよう、より一層の支援体制や環境整備が必要と思われる。	5 まったくできていない 対象者である「社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者」に関わることが業務上ないため。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	発達障害等の特性を持ち、支援が必要な児が、幼児期等の早い段階で支援につながるできない状況がある。 周囲の理解や支援が無いまま就学等に至り、傷つき体験や不応答等を重ね、不登校や問題行動等につながる可能性がある。	保護者が子の障害や特性について受容することができず、必要な支援への促しを拒否する場合や、子の問題を認識できず、支援の必要性を感じていない状況等がある。 保護者が子の障害や特性について気づき、受容ができるよう支援機関の職員の関わりや信頼関係が必要である。	発達障害等の特性がある児が、将来、不登校や社会への不適を起こしたりすることを防ぐためには、幼少期から適切な関わりや支援が必要である。 乳幼児期からの支援者との良好な関係性や地域での親子の居場所等を作り、孤立しない子育て環境が必要である。保護者が子の障害や特性を受容できるよう関わり、支援につなげていく。 支援が必要な児については、保健、教育、医療等の支援機関が切れ目のない支援ができるよう連携をしていく必要がある。	支援が必要な子どもが、必要な支援につながるためには、保護者の理解や受容が必要となるため、母子保健担当者との連携や発達支援広場事業等における支援体制等を整えられるよう努める。
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
006	2達成に近づいている 施策1(就労支援)の地域若者サポートステーションはままつ事業からの紹介で当校の職業訓練若年者コースへ入校し、1年間の訓練後、希望する企業へ就職でき、現在も継続就労中の若者が居る等、個別の対応という形で若者の自立支援ができていると感じる。		2できている (1)理由と同じ	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0~15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15~18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18~30歳 未満	・精神的な心の病を抱えた訓練生が増えてきている。 ・ひきこもりサポートセンター等の支援を数年受けた後、回復過程にあるひきこもり当事者に対する職業訓練は有効である事が多い。	・当校に来る訓練生の場合は、会社での業務上のつまずきや上司からの叱責が原因であることが多い。	・若者サポートネット(若者支援地域協議会)を通じた支援は重要である。 また、その中で社会生活への第一歩を踏み出すことの可能性が少しでも増えつつある若者については、社会へ踏み出す前に、“急がば学べ”で職業訓練へ導く事が必要であり、効果も大きい。	・分野を越えた相談窓口のネットワークの強化及び各機関が情報を共有し、協働で支援を行うというのとはとても大事ではあるが、もっと大切な事は、利用者(若者)が心の底から信頼できる相談窓口担当職員を育成し、配置することではないでしょうか。
30~40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
007	3どちらともいえない 記入なし		3どちらともいえない 記入なし	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0~15歳	保護者の養育(心理的虐待)。	保護者の離婚。	関係機関の早期対応。	関係機関との情報共有。
15~18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18~30歳 未満	精神疾患。	社会に対応できない。	早期治療。	医療機関へつなげる。
30~40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
008	3どちらともいえない 記入なし		4あまりできていない 発達障害の児童・生徒の学ぶ場の充実や支援体制については十分と言えない。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> ・校納金の未納。 ・家庭の養育の問題（ネグレクト等）。 ・保護者の精神不安定による不登校。 ・学校への送迎（スクールバス停までの送迎手段がない）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の養育能力がない。 ・保護者の精神不安定、病気。 ・障害のある子どもの家庭での育て方を指導する機会が少ない（現在はレスパイトに重きが置かれている印象）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らヘルプを出さない家庭や情報を求めない家庭の問題が大きい。関係機関の支援を拒むケースもある。 ・そういうケースこそ、複数の支援機関が幼少期から関わっていく必要がある。 	見守り続ける体制づくり。
15～18歳	上記に加えて <ul style="list-style-type: none"> ・本人の家庭内暴力。 ・支援機関の介入を拒む。 	上記に加えて <ul style="list-style-type: none"> ・支援者との関係がこじれて、支援を拒んでしまい、介入できないケースがある。 	記入なし	見守り続ける体制づくり。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	見守り続ける体制づくり。
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	見守り続ける体制づくり。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
009	2達成に近づいている 努力していることははっきりしているため。		3どちらともいえない 現状把握が正確にできていないと考えるため。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	大きく分類すると教育や家庭環境の問題と医療の助けを必要とするような精神的・肉体的問題と個人の資質による問題にわかれているように感じる。	具体的な原因を特定することは困難であると感じています（ケースバイケースであり個々のていねいな対応が要求されます）。	<ol style="list-style-type: none"> ① 教育や家庭環境をサポートする人的支援。 ② 医療対応者の充実。 ③ 子そだてのサポート（どのような形がいいのか悩みますが…）。 	ひとりひとりを大切にすること。 他の人から大切にしてもらえるような態度、習慣を教えてあげること。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
010	2達成に近づいている 記入なし	2できている 記入なし		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	経済的に苦しい家庭が多く、授業料滞納が多い。 経済的な面での進学 の断念。 基礎学力の低下。	母子・父子家庭の増加。	国の就学支援金でカバーできていない部分を豊橋市のような形で市がカバーしていただくと助かります。 様々な機関同士の連携強化。	個別での対応。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
011	2達成に近づいている 就学前の教育や保育の場が障がいのある子に対しても広がっているから。	2できている 各機関が情報を共有しながら取り組んでいるから。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	聴覚障害、主に軽中等度の方（手帳のない方）の若者について、 周囲から理解が得られず、聞こえづらさによるコミュニケーションのいきちがいがみられること。また、学習のおくれ、情報の不足がある。	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器や人工内耳を装用しているのに健聴者と同じように聞こえる、日常会話ができるので、聞こえる、と 思ってしまうこと。 学習現場での配慮が普通校で多忙のため、手がまわらず、難しい事。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学前まであるいは3才～5才まで保護者が子どもとしっかりかかわりのもてる環境や経済状態であること。 （0才や1才で保育園に入れないと3才～では難しいとなっている。そうするとかかわり方もわからず、母子関係が薄くなりがちのため。）障害がうたがわれるお子さんについては専門の療育以上に、保護者支援も大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者支援。 学校（通常校）や園への理解啓発。
15～18歳	聴覚障害、主に軽中等度の方（手帳のない方）の若者について、 周囲から理解が得られず、聞こえづらさによるコミュニケーションのいきちがいがみられること。また、学習のおくれ、情報の不足がある。	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器や人工内耳を装用しているのに健聴者と同じように聞こえる、日常会話ができるので、聞こえる、と 思ってしまうこと。 学習現場での配慮が普通校で多忙のため、手がまわらず、難しい事。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労にむけては、大学に行かない生徒の場合、高校だけではとらえきれない不安感があると思います。就労前に就労予定の生徒がより頼りやすく、問いあわせしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来にむけて家族や本人がつながりをつくることのできるような支援（情報を得られる方法など）。
18～30歳未満	なし	なし	なし	なし
30～40歳未満	なし	なし	なし	なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
012	3 どちらともいえない 我々、教育機関の立場から言うと、サポステや児相、精神保健福祉センターなどと協力しているので、少なからず貢献できているかもしれませんが、市全体となりますと、全体までは分かりかねますので、「3」としてあります。	3 どちらともいえない 同上の理由。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	従来通り、不登校の問題は変わっておりません。それに伴い、学習面に対するサポートの必要性も変わらずです。 近年の傾向としては、療育手帳を取るまではないが、学習面において困難な状況に置かれている若者がいます。また、起立性〇〇〇といった症例も増加傾向にあります。	優劣、上下などの概念が存在しているのが、一番の原因だと考えます。	どれだけ少子化が進もうとも、不登校等の人数は大幅な減少傾向にはなっていません。どうしても、教室という空間に序列は起きてしまっています。 道徳教育の充実もそうかもしれませんが、クラスや教室の在り方を柔軟に変化させていくのも重要と考えます。	未然防止です。事が起こってしまったからの支援を充実させるのではなく、未然に防ぐことに重点を置かないと厳しいと考えます。 また、支援者自身の勉強や変化に対する柔軟性を身に付けなければなりません。いつまでも「昔は…」というワードにすがってはいけません。
15～18歳	同上の部分もありながら、より顕著なものとして「SNS」の問題が挙げられます。SNSの登場により、学校外においても、常に友人や同級生・先輩・後輩とつながることができるようになり、気が休まる時がありません。そこに疲弊してしまっている方も事実です。	0歳～15歳で述べたのと一緒ですし、それがより顕著に出る時期だと思います。	SNSでのつながりに関しては、正直難しい問題だと捉えています。それは、制限をかけることができないからです。支援や環境と言われても、今以上のものがなかなか考えつきません。	未然防止です。事が起こってしまったからの支援を充実させるのではなく、未然に防ぐことに重点を置かないと厳しいと考えます。 また、支援者自身の勉強や変化に対する柔軟性を身に付けなければなりません。いつまでも「昔は…」というワードにすがってはいけません。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
013	3 どちらともいえない おそらく、全体の中のほんの一部しか見えていないため、十分な根拠にもとづく判断ができない。		3 どちらともいえない おそらく、全体の中のほんの一部しか見えていないため、十分な根拠にもとづく判断ができない。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	人との適切な距離をとり、必要に応じてその距離を調整しながら人間関係を構築する力に弱さを感じる。幼児性が残る。大人になりきれていない。精神的許容範囲がせまいなど、別の言い方もできる。	本校の場合、視覚障害による様々な不利益を被っていることや、社会的な経験不足、同じ境遇にある人々とのコミュニティでの関わりの不足などではないか。周囲の理解不足による影響も大きい。	・ 障害者に対する理解啓発を進め、周囲の人々が適切な距離感を持って支援ができるようになることが必要である。	多様性の理解。様々な人が一緒に暮らしている。考え方やできること、できないこと、好き嫌いも様々であり、それぞれが幸せに生きる権利があることの理解。
30～40歳 未満	人との適切な距離をとり、必要に応じてその距離を調整しながら人間関係を構築する力に弱さを感じる。幼児性が残る。大人になりきれていない。精神的許容範囲がせまいなど、別の言い方もできる。	本校の場合、視覚障害による様々な不利益を被っていることや、社会的な経験不足、同じ境遇にある人々とのコミュニティでの関わりの不足などではないか。周囲の理解不足による影響も大きい。	・ 障害者に対する理解啓発を進め、周囲の人々が適切な距離感を持って支援ができるようになることが必要である。	多様性の理解。様々な人が一緒に暮らしている。考え方やできること、できないこと、好き嫌いも様々であり、それぞれが幸せに生きる権利があることの理解。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
014	2達成に近づいている 市の施策に対し、各種団体が積極的に取り組んでいると感じるから。		2できている 高等学校における通級による指導の実施（H30～）や合理的配慮を実施しているから。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関係の作り方が下手である。 ・集団活動やグループ学習がうまくできない。 ・全体への一斉指示を聞きもらしたり、聞き間違えたりする。 ・トラブルを起こしやすい。 ・じっとしてられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害等。 ・家庭（特に両親）内のトラブル等。 ・経済的困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導や合理的配慮。 ・スクールカウンセラーによる教育相談や医療機関への紹介等 ・スクール・ソーシャル・ワーカーによる支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握（アセスメント）の上、必要な支援は何かを検討（個別）すること。
18～30歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関係の作り方が下手である。 ・集団活動やグループ学習がうまくできない。 ・全体への一斉指示を聞きもらしたり、聞き間違えたりする。 ・トラブルを起こしやすい。 ・じっとしてられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害等。 ・家庭（特に両親）内のトラブル等。 ・経済的困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導や合理的配慮。 ・スクールカウンセラーによる教育相談や医療機関への紹介等 ・スクール・ソーシャル・ワーカーによる支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握（アセスメント）の上、必要な支援は何かを検討（個別）すること。
30～40歳未満	特筆すべき内容なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
015	1達成している 記入なし		1十分にできている 記入なし	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	キャリア形成のできるアルバイトにつくこと。	記入なし
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
016	2達成に近づいている 貧困家庭、外国籍の方々が変化しているため、その情報やサービスの徹底が難しいと思います。		3どちらともいえない 全体像の把握はできていませんが、本人たちは、自分の希望職種と求人先のマッチングや、自動化、省人化、ロボット化により、仕事がなくなるのではないかと不安の中にいます。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・外国国籍の生徒が増えている（在籍生徒の30～40%）。 ・定時制に通う日本人生徒は経済的に厳しい状況で、障害者や生活保護等を受けている者も少なくない。 ・生活保護家庭はアルバイトを行ってもなかなか今の状況から抜け出せない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人生徒は今後も増え、出身国の多国籍化も予想される。 ・フィリピンやブラジル等は定着しているため通訳はいるが、他の国は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学・高校での支援員の増員。 ・中学までは市がサポートしていただいているケースが多いが、高校生になると、サポートをお願いする場所がなくなる。 ・例えば高校デビューの者は児相は×等、高校生が生活や家庭、就職等について相談できる機関がほしい。 	配慮すべき事項。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼少時代の生いたち、住んでいる環境。 ・外国籍の人たちの風習や考え方。 ・心掛け。 ・支援する側も、あいさつ程度でよいので外国籍を覚えること（コミュニケーションと信用につながる）。 ・支援する対象者だけでなく、家族を巻き込んだ支援（安心）。
18～30歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ・この年齢になると生徒の夢や希望が出てくるが、本人の希望と求人がマッチングしないケースや、就業しても合わないことを理由に辞める者が多い。 	現業、介護、運輸関係だけでは希望に沿えない。	高校を退学した者、一度就職したが、辞めた卒業生等が相談できる環境がほしい（2022年、18才成人となるとさらに必要となる）。	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
017	4あまり達成に近づいてない ケース対応の中で、家庭機能が十分でないことがしばしば見受けられ、今後期待したい。		3どちらともいえない 社会資源は増えてきたが、情報が行き渡っていなかったり、そこまでつながりにくかったりする現状がある。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	親への支援の必要性が高まっている。	地域や人とのつながりが希薄している。 法の整備不足。 理想論だけでなく、 現在問題どうなのかを国としても受け止めてほしい。	・地域交流、ネットワークづくり ・法や制度、しくみの整備。	困難となった、直面した背景をしっかりとアセスメントし、受容する。 まずは子どもを守り、健全な育ちのために支援することを意識する。
15～18歳	義務教育を終え、それまでつながっていた支援者が切れてしまう傾向にあると思う。 本人の自己責任では済ませていけないが、この世代は狭間に落ちやすいのではないか。	地域や人とのつながりが希薄している。 法の整備不足。 理想論だけでなく、 現在問題どうなのかを国としても受け止めてほしい。	・地域交流、ネットワークづくり ・法や制度、しくみの整備。	本人のことを気にかけている大人が近くにいることを知ってもらう。
18～30歳未満	挫折し、自分のカラにこもりやすい。	地域や人とのつながりが希薄している。 法の整備不足。 理想論だけでなく、 現在問題どうなのかを国としても受け止めてほしい。	・地域交流、ネットワークづくり ・法や制度、しくみの整備。	一度失敗してもやり直せること、一緒に立ち向かう人がいることを知ってもらう。
30～40歳未満	親がいることで「自分はまだ大丈夫だろう」と思い自立に向けた意欲が高まっていかない。	地域や人とのつながりが希薄している。 法の整備不足。 理想論だけでなく、 現在問題どうなのかを国としても受け止めてほしい。	・地域交流、ネットワークづくり ・法や制度、しくみの整備。	親亡き後のことも一緒に考えられるようにする。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
018	3 どちらともいえない 主にひきこもり、いじめ、就労支援、障害児対策に関心がある。 教育系、労働系、福祉系、それぞれの分野で対応されているように見えるが、やり方、連携の点にまだ問題があると思う。	3 どちらともいえない 記入なし		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児・発達障害児・ボーダーの子どもたちへの学校等でのいじめ。 ・ これらの子どもへの無理解…保護者、先生。 ・ 適切な進路指導（本人の特性をとらえていない保護者等への配慮）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者側（保育士、学校教諭）の知識・認識の不足。 ・ 世間体（思いこみ）。 ・ 母子保健等での障害受容への対応。 ・ 医療機関にタイムリーに受診できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい理解（本人、保護者、支援者（先生など））。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人・保護者へ寄り添う気持ち。 当事者（本人・保護者）が受け入れること。
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害をみとめない親の子、ボーダーの子の進路先として、私立の高等学校へ進学する子がいる。 適正な指導がなされているか。 ・ アスペルガータイプのお子さんの一般高等学校での対応が充分できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者側（保育士、学校教諭）の知識・認識の不足。 ・ 世間体（思いこみ）。 ・ 母子保健等での障害受容への対応。 ・ 医療機関にタイムリーに受診できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい理解（本人、保護者、支援者（先生など））。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人・保護者へ寄り添う気持ち。 当事者（本人・保護者）が受け入れること。
18～30歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労先の無理解いじめによる退職。その後のフォローがなされていない。 ・ 学齢時期に保護者が手帳等の障害者扱いを拒否し、本人が行き先がなくなる状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労受け入れ先の理解。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい理解（本人、保護者、支援者（先生など））。 +就労先。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人・保護者へ寄り添う気持ち。 当事者（本人・保護者）が受け入れること。
30～40歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもり・ニートのフォロー 親の無理解による放置、など。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援機関の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい理解（本人、保護者、支援者（先生など））。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人・保護者へ寄り添う気持ち。 当事者（本人・保護者）が受け入れること。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
019	4あまり達成に近づいてない 子どもの支援では、中学校区に1つ、支援とSOS受け入れの機関が必要と思うので。	4あまりできていない とりあえず数の問題があると思います。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	情報の受けとり方。 判断力・情報の処理。 自発的な情報の発信方法。	個人的には、鉄分不足とたんぱく質不足と、炭水化物過多と 思っています。 それから、例外はありますが運動不足。 筋力不足。	様々な対人技術訓練以前に、何をどう食べて、自分の体を整えたら良いのか知ることができるような支援。 パーソナルトレーニング。	情報は伝えるけれども、選択するのは、ご本人であるということ。
30～40歳 未満	情報の受けとり方。 判断力・情報の処理。 自発的な情報の発信方法。	個人的には、鉄分不足とたんぱく質不足と、炭水化物過多と 思っています。 それから、例外はありますが運動不足。 筋力不足。	様々な対人技術訓練以前に、何をどう食べて、自分の体を整えたら良いのか知ることができるような支援。 パーソナルトレーニング。	情報は伝えるけれども、選択するのは、ご本人であるということ。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
020	4あまり達成に近づいていない 障がいのある者が高校を卒業しても望むような就労先・入所先が見つからない状況にあるから。	4あまりできていない 困難を有する若者を支えるためのハード面の不足、ソフト面である横の連携が不十分。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因		
0～15歳	小学校高学年から中学校の段階で、思春期とあいまって荒れた行動に出ることが多くなるが、家庭で対応できないケースが増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の絆の希薄さ。 ・ 核家族化。 	問6 必要な支援や環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で支える支援体制の構築。 ・ 行政の横の連携。 	問7 支援者として心掛けること <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の悩みや相談に誠実に向き合う。 ・ 地域資源を有効に活用するよう情報を提供する。
15～18歳	障がいのある子らの将来を見すえての実習先など、受入れ先の選択数が少なく、希望している実習先や、その後の（卒業後の）就労先が希望しているようにはいかない。	受入れ先の定員数と事業所数の不足。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受入れ事業所の充実（数も職員も定員も、事業所への助成も）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の悩みや相談に誠実に向き合う。 ・ 地域資源を有効に活用するよう情報を提供する。
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族といっしょにくらして、B型の就労先に行っている方が多い。 ・ A型や、一般就労先も、ほとんどの方が、4～5.5Hで、6H以上で社会保険のある方はいません。これから先の生活が不安。一人ぐらして障害者年金のない方や3級の厚生年金の方など、生活保護の方と同じくらい11万円くらい。（3級）とA型。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般就労先で、6H以上働いて、社会保険に入れてほしい。時間も8Hできる子もいるのに、はじめから、そういう働き方でしかとらないという。障害者雇用の問題と思う。月10万もいかない。7万～はいくけど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般就労先での時間数をふやして社会保険がつくようにしてほしいし、8Hできる人には8H働けるようにしてほしい。 ・ A事業所の時間も4Hだけでなく、もっと働けるようにしてほしい。障害者もやる気のある方もいるので事業所もがんばってほしい。厚生労働省が、音頭をとってやってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ より生活の安定のため、一般就労先を捜す。 ・ 一般就職先を続けていく。不利にならない見守り。 ・ また障害者年金の手続きをしない方には障害者年金手続きをすすめる。
30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族といっしょにくらして、A型やB型。 ・ 月7万稼いで、障害者2級年金をもらっていても（13万）、母親といっしょでないとは生活は、いっぱいいっぱい。40才すぎると、父親が亡くなって、母と2人とか、他の障害を持って働いていない3人でくらしている等あります。生活が大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般就労先で、6H以上働いて、社会保険に入れてほしい。時間も8Hできる子もいるのに、はじめから、そういう働き方でしかとらないという。障害者雇用の問題と思う。月10万もいかない。7万～はいくけど。 ・ 40才まで、ずーっとこの状態で、困ってハローワークや求人雑誌等で応募するが、一般の社会保険がついたり、6H以上の時間の仕事はない。単期間のものはあるがそれが終われば仕事はありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般就労先での時間数をふやして社会保険がつくようにしてほしいし、8Hできる人には8H働けるようにしてほしい。 ・ A事業所の時間も4Hだけでなく、もっと働けるようにしてほしい。障害者もやる気のある方もいるので事業所もがんばってほしい。厚生労働省が、音頭をとってやってほしい。 ・ 親も年をとってきていて、生活への不安が大きい。親亡きあとの事柄が困ることがないように考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の悩みや相談に誠実に向き合う。 ・ 地域資源を有効に活用するよう情報を提供する。 ・ 親亡きあとのことを考えて、ご自分では、十分な判断等むずかしい方には、成年後見制度をすすめる—そうした家族からの苦情もありますが。 ・ 生活保護の手続きの手伝い。

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
021	3 どちらともいえない 記入なし		3 どちらともいえない 記入なし	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・就職・就学がむずかしく、ひきこもりに近い生活。 ・精神疾患（自閉症・愛着障害等）により、対人関係の構築がむずかしい。 ・経済的な理由で進学できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人親世帯…子どもを預ける場所がないと働けない。正職につけず、短時間パートなど。 ・集団生活に適應できないと、サービス利用につながりづらい。 ・家族の本人に対する障害受容ができていない。 ・家庭環境（両親の不仲等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金に関する教育。 ・性教育。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の人間関係の把握。 ・ご家族の経済状況の把握。 ・ご本人の生育歴の把握。 ・教育機関との連携。 ・将来の生活についての意識がどの程度できているかの確認。
18～30歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を卒業して就職をしても、長続きせず途中で辞めてしまい、自宅でひきこもってしまう。 ・1人暮らしの方は、誰に頼っていいかわからない状況の方もいる。 ・望まない妊娠。 ・性被害、DV。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先のフォロー体制の手薄さ（障害に対する理解度が低い）。 ・親が子どもに無関心、問題行動をあきらめている。 ・きちんとした性教育を受けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が気軽で集まれるサークルを作りそこから就職や居場所作りをもっとしていけたらと思います。 →行政で作っていただけのことではできないでしょうか？ ・性教育。 ・働く場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の人間関係の把握。 ・家族の経済状況の把握。 ・ご本人の生育歴の把握。 ・将来についてどのように考えているのかの確認。
30～40歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ・両親も高齢になってきており、頼りになる存在から徐々に離れてきている。頼れる相手が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両親の高齢化。 ・兄弟間との関係が悪い場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30～40歳代が気軽に集まれるサークル作り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の人間関係の把握。 ・ご本人の生育歴の把握。 ・ご家族の状況（体調面含め）把握。 ・将来についてどのように考えているのかの確認。

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
022	3 どちらともいえない よく理解していませんでした。		3 どちらともいえない 若者支援をしているという認識がありませんでした。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
023	4あまり達成に近づいてない 支援体制の細かな充実が不足している。		4あまりできていない 障害の重い人の日中活動を支援する通所の生活介護施設の充実。行政が主導で行ってほしい。 障害者グループホームが不足しているので、利用希望者及び将来利用を希望している人の調査を行って、何か年計画かで施設の充実を図ってほしい。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	記入なし	記入なし	職員を募集しても確保が出来ない現状です（通所介護施設・グループホーム）。 重度の障害者を受入れる通所生活介護施設の職員配置を改善してほしい。 現状では希望者すべてを受入れることが困難です。	相談者を尊重する。 相談しやすい環境づくり。 本人の想いを聴く。 障害者を受け入れる。 自立と社会参加。 主体性、自己決定の尊重、支援。 地域における生活支援。
30～40歳 未満	記入なし	記入なし	職員を募集しても確保が出来ない現状です（通所介護施設・グループホーム）。 重度の障害者を受入れる通所生活介護施設の職員配置を改善してほしい。 現状では希望者すべてを受入れることが困難です。	相談者を尊重する。 相談しやすい環境づくり。 本人の想いを聴く。 障害者を受け入れる。 自立と社会参加。 主体性、自己決定の尊重、支援。 地域における生活支援。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
024	4あまり達成に近づいてない 記入なし		4あまりできていない 記入なし	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	・保育社、養育者、教育者が本人の困難さに気づけるような教育、研修、経験。 ・身近に気軽に相談できる相談場所。	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	18才まで誰にも支援を受けることなくすごされ、大人になってからひきこもりや、社会で不適應となり、問題が表出し、相談あるもののなかなか支援につながりにくい。	・児童、学生時代に適切な支援につながるのが困難。 ・本人の困難を、本人の周りの人が困難と気づけない。	記入なし	・困難のみに目を向けるのではなく、生育歴、環境、背景、本人のストレスなどにも着目する。
30～40歳 未満	18才まで誰にも支援を受けることなくすごされ、大人になってからひきこもりや、社会で不適應となり、問題が表出し、相談あるもののなかなか支援につながりにくい。	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
025	4あまり達成に近づいてない 本機関が関わっている知的障害者については、就労のために療育手帳の取得に来る方が多いが、ある程度の年齢になると、18歳未満に知的の遅れがあったかどうかの客観的資料が少なく取得できないことや、時間を要することがある。早い段階での取得を促していく必要がある。		2できている 療育手帳取得者に対して、取得時に情報が不足している場合、相談支援事業所などを案内し、情報を集めてもらう、協力をしてもらうなど、療育手帳を取得し、就労につながるように働きかけをしている。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳未満	障害者枠を活用しないと、就労が困難であると感じる。 ※発達障害など軽度の方については、療育手帳未取得の場合もあり。	一般枠での就労にこだわりがあったり、就職ができないので療育手帳を相談支援事業所などから勧められて取得に来るなど、療育手帳の周知不足や、活用ができていない場合がある。	療育手帳を含め障害者手帳を取得することによるメリット等の周知。	療育手帳等取得した後の状況を確認するなど、取得することで完結するのではなく、その後のフォローアップも必要だと感じています。
30～40歳未満	障害者枠を活用しないと、就労が困難であると感じる。 ※発達障害など軽度の方については、療育手帳未取得の場合もあり。	一般枠での就労にこだわりがあったり、就職ができないので療育手帳を相談支援事業所などから勧められて取得に来るなど、療育手帳の周知不足や、活用ができていない場合がある。	療育手帳を含め障害者手帳を取得することによるメリット等の周知。	療育手帳等取得した後の状況を確認するなど、取得することで完結するのではなく、その後のフォローアップも必要だと感じています。

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
026	3どちらともいえない ・基本理念に対する達成度の聞き方に問題があると思う。 ・もっと細分化して質問をするべきだと思う		3どちらともいえない よりそい型の支援が必要になるが、1人の支援員に対して、多数の支援者が多くいて、対応しきれない。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	・多感な時期もあり精神的に不安定で衝動的な行動が多い。	家庭環境。 ・受診の遅れ。 ・障害の理解。	記入なし	記入なし
18～30歳未満	就労への意欲の問題。 異性への問題が多い。	家庭環境。 ・適切な就労の場所。	・よりそい型支援。	・自己肯定感を感じていただく事。 ・自信をつけていただく事。
30～40歳未満	就労先への不満や仕事に対するやりがいを感じない思い。	家庭環境。	よりそい型の支援。 親の介護支援。	・自己肯定感を感じていただく事。 ・自信をつけていただく事。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
027	4あまり達成に近づいてない <ul style="list-style-type: none"> 学校生活に於ける子供のいじめは増している点で、子供の育ちの安全・安心が守られていないといえない。 若者の自立を支えているが、自立した筈の若者が再び離就してしまう率も高いと感じているが、自立をどこまで支援するかは課題と感じている。 		4あまりできていない 例えば市が開いている居場所に、出て来られる人の支援は出来ると思うが、出て来られない、カウントされていない若者の支援は難しく、課題だと思う	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> 小学校～中学にかけて「いじめ」を受けて不登校。 発達障害があるのに、どこにも相談できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の発達障害が周囲の大人（親、教師等）に正しく理解されていないので、その対応がされず、ゆえに、生活や学校に於いての困難が起きている。 いじめも本人の特徴ゆえに起きがち。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害に対する周囲の大人（親・教師）の知識と理解。 子供は、自分の困難を表す言葉が発声できない場合が多い。だから、体の不調で訴えるので、よく観察し、子供が何に困っているのか、親と教師はよく話し合うことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供は自分の困難さを言葉でうまく表現できないが、生活状態や体調等に現れるのでよく観察し、異変に大人が気づくことが重要。 家庭生活を安心、安全にする為に、親の勉強が欠かせない。親を支える人も必要。
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> 小～中～から続くいじめや勉学の困難さにより、全く学校に行けなくなっている。 発達障害に続いて二次障害が起きていて、不安神経症やうつ等で、ひきこもっている。 本人がなかなか病院へ行きたがらなくなる。 世の中に対する不信感が増大してくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校～中学と本人は頑張ってきたつもりだがその成果は感じられず、周囲の理解や共感も得られず、心的孤立感にさいなまれる。 学習困難が、この年齢になると、さらに難しくなり、不全感に悩むが、相談する相手がいない、もしくは相談しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 困難を抱えていても、この年代になると親に言わない。従って教師はよく子供を観察し、生活の不調を見逃さないようにしてほしい。 学校に行かない子供の為に校外学習や居場所を作る。 学校に行けない事が「恥ずかしい」「だめな子」等、ネガティブな目を社会が持っている。学校に行く以外に若者が出られる場所が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人が抱える不全感や人間関係の悩み等を受け止められる人が必要。 親の対応、教師の対応→知識（勉強会等）。 本人の適性を親も学校も見付ける。
18～30歳未満	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学後、不登校になり、親も気づかぬ内に下宿先のアパートにひきこもってしまう。 卒業後就職しても1～3年以内に離職し自室にひきこもる。 30歳を目前にするにあせりと絶望感にさいなまれ、無気力になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人は社会からドロップアウトしてしまつたと絶望的になり、「やり直せ」と思えるモデルが周囲に居ない。 今迄生きて来た中で、良好な人間関係を築けていないので、同世代の友人が居なく、外に出て行く場がなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 困難を抱える人に対して、行政、医師、カウンセラー、親が連携して、本人支援に当たりたい。 現在は、どれもが単独でなされていると感じる。精神科も、心配した親が、子の症状を尋ねても「個人情報」なので、知らせてくれない。その子供に死が迫っている場合、親はなかなか支援できにくくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の長所を生かした支援。 気の合う仲間に出合えるような居場所作り。 受け入れ企業に対し、対応の仕方の勉強会をする。 中間的就労の場を作っていく。

<p>30～40歳 未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この年齢までひきこもりが続いている青年は多くが慢性化して、静かにひきこもり続け、様々な社会的支援を拒むようになる。 ・この年齢になって、離職する若者は、うつや人間関係の問題や認知のゆがみ等、二次的障害も表われて、親も次第に高齢になりつつあり、エネルギーの枯渇が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異性との交遊も少なく、同級生達は家庭を持ち職場でも働き盛りの中、自分の現状に打ちのめされ、自分を恥ずかしく思い、増々外に出にくくなっていく。 ・親も次第に高齢になりつつあり、自分もすでに若者とは思えない年齢になった現状を思い不安と絶望感が増していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人になっても、社会的に参加していないため、認知のこだわりやゆがみが出て来る。あきらめずに本人への訪問をできる体制が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間的就労の場を増す。 ・本人が本音で話せる相手が必要。 ・親の対応、依存、共依存を自覚する。 ・困っている親を支援する。
----------------------	---	---	--	---

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
028	<p>記入なし</p> <p>① 若者を支援する各種機関、団体等については本市の体制はかなり充実しているように思われるが、明確な達成具合は、まだ十分でないように思う。一人一人の個をどのように伸ばし、自立させていくか、そのためのより具体的な手立てを講じる必要があるように思う。手立ての一つとしては、各種機関、団体等の連携をより密にしていくことが考えられる。連携とは、個の悩みを解決までつなげるより深い連携。</p> <p>② 浜松市子ども・若者支援プランの内容を十分に周知させることができるかどうかにかかっている。</p> <p>③ 表面化している問題（不登校、ひきこもり、ニート）と潜在的な問題と分けて考える必要がある。対象となる若者のニーズに応えることができること、できないことがあり、教育予算として十分であるかは、検討の余地があると思う。</p> <p>④ 若者の就労に関する支援は、サポートステーションはままつ等が中心となり充実していると思われる。しかし、これらの支援は、あくまで「働きたい」と本人が希望して初めて行われる支援になっている。浜松市の現状として、中学校卒業後の学校に行けない子、行かない子、働く意欲のない人たちの支援が不足していると感じる。</p>		<p>記入なし</p> <p>① 基本目標にある浜松市の実態が十分に把握できていないので、なんとも言えないが、今までの経験からすると、青少年支援体験活動事業は有効な方策かと思われる。しかし、広く市民に周知されていない感じがするので、今後、事業を市民（学校機関）に理解してもらって啓発活動に努めたい。</p> <p>② 支援を必要とする者が、声（支援を必要とする）をあげているのか。支援を前向きに受け入れられるような方向になっているか。</p> <p>③ 「困難」といっても内容は多岐に渡っている。若者相談支援相談窓口「わかば」は支援する場ではないが、支援先へ「振り分ける」ための知識や経験の不足を痛感している。</p> <p>④ 支援を行うにあたり、青少年支援体験活動事業を選択肢の一つとして捉えていただいているという点では、門戸を開いた状態であるが、対象となる本人及び家族を取り巻く環境（学校、医療機関、施設）などで対象者への現状と今後の見通し（将来のビジョン）が一本化されていないことが多いように感じる。投げかけは行っても、対象となる若者へのアプローチの方法、手順等の問題が解消されていくことを期待したい。</p>	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の社会状況を見ると、子供受難の時代を迎えているように思う（子供は犠牲者）。このような中で、子供達を救うためには、大人の愛情が全てかと思われる。 ・若者たちの関わる全ての人が“子供たちのために”の気持ちを持ちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚家庭の増加。 ・親の定職離れ。 ・親のマナー欠如。 ・分からない（不登校の生徒の考えはいろいろ）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱い若者に対して大人が寄り添い、自立までの道筋を作ってあげること、そしてたとえ一歩でも踏み出せる足がかりとなる支援をしてあげること。とても地道な作業になるが、関係する大人の力で一人ずつ困難を取り除いてあげること。そして、その成果を見届けるまで若者に関わること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての年齢層に言えることだが、どのような環境にある若者に対しても愛情をもって接することが大事。子供、若者支援の基本は、“厳しい中でも暖かみのある支援”。
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の人数が多くなってきている。不登校の子供の心を動かすのは誰なのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚家庭の増加。 ・親の定職離れ。 ・親のマナー欠如。 ・中学以前からの不登校に対する学力不足、発達障害等、病気に起因するもの。 ・人とうまく関わる事ができない。親子関係。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校（担任や他の教師）だけでは無理がある。 ・社会参加（青少年支援体験活動）が良い方向になってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えや思いを理解する。じっくり待つ。寄り添う。

18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・就職しても長続きしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚家庭の増加。 ・親の定職離れ。 ・親のマナー欠如。 ・多様な考えのもと、社会生活との隔たり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親や学校以外で様々な人と出会う機会。 ・支援員が駐在していて、いつでも立ち寄れる場。 ・自己肯定感が持てるような経験の場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話に耳を傾けて聴くこと。
30～40歳 未満	<p>・「貧困」経済的に格差が生まれている事実は、現実問題として避けることのできない問題としてある。そのため、経済的なゆとりがない世帯では、将来への希望をもち活力ある生活を送ることは難しくなる。必然的に生活が困窮していく。そして、社会生活を送る上で時間と経済力を浪費することに重点を置かざるを得なくなり、将来の夢や目標を断念するケースも多く見られる。支援を受けて、社会で生計を立てて生活する人もいるが、困難な問題で苦しんでいる人も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚家庭の増加。 ・親の定職離れ。 ・親のマナー欠如。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原因に応じた社会復帰までのプログラム及び支援機関、体験活動、就職先の支援を継続して行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の状態を認めること。誰もが、同じような境遇、立場、状況に、いつなっても不思議ではないことを社会全体（学校、職場、地域）で共通理解することが必要。 やはり、国の方針、支援が必要。 今度、必要とされる職種への適性を鑑み、社会全体として（国・県・地方自治体）積極的な人材確保として大切に関わっていくこと。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
029	3 どちらともいえない 福祉サービスの充実や関係機関との連携、及び児童虐待防止啓発活動など、行政機関としてできることについて、達成に近づいていると感じるが、児童虐待は家庭内で発生することが多く、虐待の相談件数が増加傾向にある点から評価できない。	記入なし		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	保護者からの身体的・心理的虐待。ネグレクト。 不登校。	養育者の養育能力。 養育者の精神疾患。 こどもの発達。	不適切養育の抑止のため、保護者に見える形で、関係機関による見守り体制を構築する。 こどもにとって必要と思われる支援やサービスの情報提供及び活用に向けた支援。	まずは聴くこと。
15～18歳	不登校。	養育者の養育能力。 養育者の精神疾患。 こどもの発達。	不適切養育の抑止のため、保護者に見える形で、関係機関による見守り体制を構築する。 こどもにとって必要と思われる支援やサービスの情報提供及び活用に向けた支援。	まずは聴くこと。
18～30歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
030	4あまり達成に近づいてない 負の連鎖が絶えないから。	4あまりできていない 虐待やいじめ・ひきこもり等、家庭環境・教育環境の改善が見られないため。また、有効求人倍率の改善や最低賃金の改善等がみられても就労に結びつく対象者が少ないと感じるから。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	貧困。 学業成績不良。 精神障害。	愛情不足（共働き）。 家庭環境（寡婦・寡夫・虐待）。 規則正しい生活のリズム（食事・睡眠等）。 スマホによる子育て（スマホの台頭）。 読書量の不足。 消費の多様化（贅沢）。	家庭環境の改善。負の連鎖を止めるためには親と子を切り離すことである程度は可能と考えるが、その反面、子は親の愛情を感じないで育つためやはり健全な人間にはならないと思います。この問題を解決するには親への意識づけ及び教育が必要であり、子どもにいくら支援しても家庭環境が悪ければ元も子もないと思われれます。親の生活態度を改善する必要があります。	保護者教育の徹底。 親がだらしないから負の連鎖が続くことを意識する。 子供の成長は親の成績表ということを意識、意識させる。 子に対しては受容・傾聴・共感に努める良き理解者となる。 ライフプランの作成。早いうちから目標を持たせる。
15～18歳	将来への不安。 学業成績不良。 精神障害。	学習不良（基礎ができていない）。 コミュニケーション不足。	家庭環境の改善。負の連鎖を止めるためには親と子を切り離すことである程度は可能と考えるが、その反面、子は親の愛情を感じないで育つためやはり健全な人間にはならないと思います。この問題を解決するには親への意識づけ及び教育が必要であり、子どもにいくら支援しても家庭環境が悪ければ元も子もないと思われれます。親の生活態度を改善する必要があります。	具体的な人生設計の作成。 どうしたら一人でも満足して食べて行けるかを意識させる。
18～30歳 未満	社会不適合。 精神障害。	幼少期からの家庭環境。 いくら学習支援をして高校、大学に進学しても愛情を受けないで育った人間は卑屈になったり、事件を起こしたり、直ぐに投げ出したり、知識を犯罪に使ったりするのだと思います。	この時期から支援しても遅いと思われれます。上記の幼少期に生活のリズムを整えて、愛情を注いで育てれば問題を抱えた若者はあまり存在しないのではないかと思います。強いて言えば職業訓練。	受容・傾聴・共感。 成功体験を積み立てるように仕向ける。

30～40歳 未満	無気力。 精神障害。	幼少期からの家庭環境。	この時期から支援しても遅いと思われる。上記の幼少期に生活のリズムを整えて、愛情を注いで育てれば問題を抱えた若者はあまり存在しないのではないかと思います。強いて言えば職業訓練。	受容・傾聴・共感。成功体験を積み立てるように仕向ける。
--------------	---------------	-------------	---	-----------------------------

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
031	3 どちらともいえない 支援対象者が「子どもの育ちと若者の自立を支え、安心して暮らすことができるまち浜松」の基本理念に基づいて実施されている様々な事業を認知していない。		4 あまりできていない 「社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者」をひきこもりやコミュニケーション能力の低い若者と定義した場合、その支援には専門家等との連携が必要であると考え、その様な若者に介入すること自体が難しいと感じている。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	養育者のネグレクト。 養育環境が劣悪。 ひきこもり。	養育能力の低下。 日常生活能力の低下。 精神疾患を抱える保護者の増加。 社会的な孤立。 地域ネットワーク力の低下。	支援対象を限定することなく地域ネットワーク力を向上・構築させることが必要。	DVや発達障害等、様々な問題に早い時点で気づけるよう心掛け面談を実施している。
15～18歳	養育環境が劣悪。 ひきこもり。	養育能力の低下。 日常生活能力の低下。 精神疾患を抱える保護者の増加。 社会的な孤立。 地域ネットワーク力の低下。	支援対象を限定することなく地域ネットワーク力を向上・構築させることが必要。	親に言いにくい悩みを打ち明けられるような関係を構築できるよう心掛けている。
18～30歳 未満	生活環境が劣悪。 生活リズムが不規則。 自立心の欠如。 社会性の欠落。	生活能力の低下。 精神疾患を抱える対象者の増加。 社会的な孤立。 親族関係の破たん。 地域ネットワーク力の低下。	支援対象を限定することなく地域ネットワーク力を向上・構築させることが必要。	さまざまな悩みや要望に柔軟に対応できるよう、固定観念をもつことなく面談することを心掛けている。
30～40歳 未満	生活環境が劣悪。 生活リズムが不規則。 自立心の欠如。 社会性の欠落。	生活能力の低下。 精神疾患を抱える対象者の増加。 社会的な孤立。 親族関係の破たん。 地域ネットワーク力の低下。	支援対象を限定することなく地域ネットワーク力を向上・構築させることが必要。	さまざまな悩みや要望に柔軟に対応できるよう、固定観念をもつことなく面談することを心掛けている。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
032	3 どちらともいえない 記入なし	2 できている 相談を受けそのケースに適した必要な情報提供を行い、場合によってはより適した相談機関へつなげている。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	発達障害の方については、就園や入学・進路など、どのように進めていけばいいか悩まれるご家族が多い。また友人関係（家族も含む）の構築上で困難さを抱える方も多い。 自宅から外へ出られない方もいる。	ご家族の障害に対する受け止めや理解がまだ難しいため。	相談窓口の提示や話せる機会、場の提供。	どの世代であっても当事者やその家族の想いに耳を傾けること。 置かれている状況を客観的かつ専門的に見て、必要な情報提供、行動を共にすること。
15～18歳	ご本人に合った卒業先に決して行ける方ばかりではない。空き状況で難しいことがある。 卒業に向けて作業に重きが置かれ疲れてしまうケースも多い。 自宅から外へ出られない方もいる	施設、事業所数や空きのみ。卒業後に向けて、ご本人だけでなくご家族も進路に向けた動きについていけない状況。 特に相談とつながっていないケースは情報がえられにくいよう。	記入なし	どの世代であっても当事者やその家族の想いに耳を傾けること。 置かれている状況を客観的かつ専門的に見て、必要な情報提供、行動を共にすること。
18～30歳 未満	社会へ出て、作業・仕事の生産性を求められたりすることへのプレッシャーや対人関係でうまくいかないことがある。	障害に対する受け止め、理解が全ての方ではないため、関わりの中で崩れてしまいがちである。	記入なし	どの世代であっても当事者やその家族の想いに耳を傾けること。 置かれている状況を客観的かつ専門的に見て、必要な情報提供、行動を共にすること。
30～40歳 未満	社会へ出て、作業・仕事の生産性を求められたりすることへのプレッシャーや対人関係でうまくいかないことがある。 また自立を周囲から促されるが何をどうしたらいいのかわからなかったり現実と理想で苦しんでいる方もいる。	親御さんの高齢化やご病気により考えることが必然とでてくる。	GHを増やしたり、それ以外で独居の障害者や一人になってしまった障害者を支える体制づくり、社会資源。	どの世代であっても当事者やその家族の想いに耳を傾けること。 置かれている状況を客観的かつ専門的に見て、必要な情報提供、行動を共にすること。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
033	4あまり達成に近づいていない 若者の離職、不登校、ひきこもりなどの相談件数は減ることなく、むしろ当センターでは増加している為。		4あまりできていない 市や関連施設を利用した経験のある若者から話を聞くケースが複数あり、いずれもご本人の真のニーズを捉えてサポートを行った根拠がみられなかったため。 (ヒアリング中心で、家庭訪問、職場訪問、スキルトレーニングなどが不足している)	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	発達障害の傾向のある子が、学校になじめない、友人ができない、勉強に意欲がわからない…等。 感受性の豊かな子(過敏な子)が、教員や大人の言動に不公平感を抱き、素直でなくなる。 実技系の授業や活動に集中力を発揮できない。 片親など、家庭環境に問題のある子のケース(貧困、愛着のゆがみ…)。	発達障害の場合、障害特性については理解がすすんでいる一方、本人の気持ちを汲んだり寄り添ってもらえる経験が圧倒的に少ないため、本人側の成長や癒しが進まないため。 不公平感を感じている子は、厳密に「中立的な」ジャッジをしてもらえていない点。	本人の興味、関心のある活動に集中させ、集中力や動機を身につけさせる。どんな気持ちでも自然に生じた気持ちはすべて許し、一緒にこたばにしていく練習が必要。 「気持ち」には悪はなく、それをどう表すかが社会性である。	感受性を育て、本人の気持ちを言語化する手助けを欠かしてはならない。そのうえで協調性や社会の仕組みについて解説し、「自分に助けが必要である」という感覚(=自覚)を身につけさせる必要がある。
15～18歳	小中学校時代に不登校を経験した生徒が、高校でも同様の事態に陥っている。 小中学校時代の学びそびれ(学業・対人スキル)が原因で充実した高校生活を送れず、意欲が薄れたり、転学・編入を繰り返す。進路を自分で決められず、先生や親に言われるままに行先を決め、本来経験すべき悩みや葛藤を素通りしてしまう。	勉強中心で、生活スキル、対人スキル、その他生きるために必要なスキルを学ぶ場がないまま、進路決定を迫られる点。 身近なことについて、選択したり決断したりする場面がなく、受け身のまま育ってしまう危うさ。	何でも自分で選ぶ・考える・悩む・決める、失敗する、後悔する、気を取り直すなどの経験をたくさんさせること。 知的能力の高い子には、自分の行動がなぜ成功や失敗につながったのかを考えさせ、否定しないこと。 自分の夢をたくさん語らせる支援も有効。	「困難」とは社会参加していくうえでの障壁であり、決してその人自身の欠陥やスキル不足と同等ではない点を理解して接する。 教育課程における「進路指導」や親の意向などに縛られ、方向づけられているケースも少なくない為、本人の「意志」のつくり方を支援する。
18～30歳未満	最も多いのは、離職をくり返すケース。転職の度に成長があればまだしも、逃げるように会社をやめ、また就き、を繰り返すため、前進がなく、失敗経験ばかりが積まれていく状況。 ストレスの逃がし方が下手なため、耐性が育たず、すぐにあきらめる手段をとる者が多い。	成功に寄り添ってもらったり、失敗に寄り添ってもらったりする時間、機関、出会い、がない。 ひとつの出来事、行動、結果を検証し、次に生かす、という手法を教わっていない。	仕事をし始めた者にとって、すべてが未知であり、初体験である。 すべてを語らせ、それに伴う本人の気持ちも表現させ、聞いてあげる支援が必要。安易に助言せず、本人に考えさせ、そのとおりに実行させて検証に立ち会う。無職者やひきこもりの者は、0～18才の項目が必要。	社会に対するあきらめ、失望、恐怖、不信感、恨み…など、蓄積された複雑な感情に対し、急がずに接することが大事。 その人自身に自己理解できている側面があればそれを手がかりとして自己肯定を助ける。 自立よりも「一緒にすごす」というレベルから始める必要があるケースも。

<p>30～40歳 未満</p>	<p>無難に過ごしたように見えて、自分らしさを殺して生きてきた20～30代の弊害が出始めるケースが多い。 例…お金の浪費、薬物や性への依存、親との関係の悪化、友人が減り、孤独化、将来への絶望、またそこから生じる精神障害。</p>	<p>自身の感性、ひらめき、らしさ…などを抑圧し（抑圧され）社会の尺度に合わせすぎて自分を見失っている。 かといって、この年齢で自分を出し始めても空回りすることが多く、どうやってもうまくいかない、という状況に陥っている。</p>	<p>自分らしさをとりもどすための逃げ場やカウンセリングの場をもつ必要あり。 （職場、家族、友人などが入らない場） （学びそびれたスキルのトレーニング、こども時代に遊びそびれた遊びなどを共にし、自分を取り戻させることが先決。）</p>	<p>社会的スキル、判断力、会話のスキル、考え方や価値観…すべてがパターン化しているケースが多く、それをベースとして社会参加（復帰）や対人スキルの向上に役立つよう、適性を見極める。 一方で、伸びしろをみつけ、本人が若々しく、再度人生に夢を抱けるような活動に導く。</p>
----------------------	--	--	---	---

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
034	3 どちらともいえない 様々な社会資源や支援体制は整ってきたが、対象者や家族の状況から、支援に結び付いていないケースもある。	3 どちらともいえない 対象者に合った専門の機関につなぎ、連携をとりながら支援できているケースもあるが、そうでないケースもある。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	幼児期に発達診断を受け療育活動に参加する子どもたちが増えていくなかで、質の高い療育支援を提供できる機関が限られていく傾向がある。また生まれつきの発達課題だけでなく、家庭環境（生活困窮、外国人世帯等）で支援を必要とするケースに福祉の枠組みの中で対応しなくてはいけないことが増えている。	学校教育の制度の中で枠に入れない子どもたちの受け入れ先が少ない。	日本の教育制度の枠組みにとられない支援ができる体制が必要。	乳幼児期は特に本人の意向を汲み取るのが難しいため、親御さんから情報を引き出せるように関係の構築に努める。中学生の時期は心身ともに大きく成長、変化が見られるため、そのときどきの本人の気持ちをしっかりと汲みとる。
15～18歳、	義務教育を終え進学ができず、行き場がない状況で自宅で過ごす子ども達の居場所がなかなか確保できない状況がある。社会資源の数も限られており、あったとしても金銭的な負担が大きな場合もあるため、生活困窮世帯等の利用が難しい。	義務教育期間は終えているが、次のステップを踏めていない子どもたちについて、成人の支援対象にもならず、どの制度にものれないことがある。	様々な葛藤を抱えた子どもたちを受け入れる社会資源の充足が求められる。	本人が置かれている状況に配慮しつつ、関係性を築いていくことで、思いをしっかりと汲みとり、支援につなげていく。
18～30歳未満	一旦は就職するも短期間で辞めてしまったり、卒業時に就職につながらず、結果的に生活困窮や引きこもりに至ってしまうケースが多い。	社会性やコミュニケーション等対人関係の構築が苦手な若者が増える中で、それを受容し対応できる社会体制づくりが十分になされていない。	長期的かつ継続的に関われる支援機関が身近なところにあるとよい。	これまでの生活のなかで、様々なかたちで精神的負担がかかってきた方が多いと思われるため、そのあたりにも配慮しつつ、必要な支援を行う。
30～40歳未満	就労ができていない状況や自宅から出られない状況が十数年単位で続いているケースが多く、親御さんも年齢を重ねるなかで将来の不安感がより強くなっているケースが多い。	一定以上の時間経過があるなかで、生活様式が確立されてしままい、なかなか新たなステップに踏み出すことができない。また、それを後押しする長期的な支援が十分にできていない。	親亡き後も考えながら長期的に就労、生活支援を行っていける体制が必要。	これまでの生活の背景をしっかりと把握し、本人の意向も汲みとり、支援につなげていく。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
035	3 どちらともいえない ※詳細を承知していなかったため、HPで確認するような段階です。申し訳ありません。		3 どちらともいえない 児童相談所や地域の相談支援事業所などと連携を図りながら、教育現場として可能な支援はしている。しかし、家庭の中に入り込むような状況が多く、限界を感じながら指導している。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・人と接することが苦手である。特に大人との距離感が分からない。もしくは、近すぎる場合も多い。総じてコミュニケーションが下手である。 ・大人（教師）の意見を受け入れない。気に入らない人の話は聞かないなど。 ・学校以外でのトラブルを持ち込み、いつの間にか不安定な状態で登校しているケースがある（家庭での友達間でのメールなどの問題）。 ・不登校、引きこもり傾向の生徒の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の中でも親子、兄弟で話をする機会が少ない。部屋で携帯電話やゲームに関わる時間が多い。 ・友達同士でも、メール（ライン）が中心で人と人との直接的な関わりが薄くなってきている。 ・携帯電話依存。それに対する保護者の管理不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものつまずきや不安定さを即応的に見抜ける教師、保護者の存在。 ・できるだけ、小さい頃から自分のことを話すことができるこどもの育成。 ・支援者同士の連携強化（保護者、教師、相談事業所など）。 ・学校間の連携（情報交換の強化）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルを抱えている場合は、強制しない。（学校に通うことばかりが全てではない。） ※時間の関係で分掌担当者のみでの見解となります。申し訳ありません。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
036	3 どちらともいえない 当センターは就労支援のみ行なっているため、全体像を把握していないのでどちらとも言えません。	2 できている 若者の相談件数が増加し、それに伴い就職件数も増加しているため。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・「働かなくてはいけない」と思っているが、何から始めれば良いのかわからず一歩がふみ出せない。 ・最初の就職先でつまづいてからひきこもっている。または仕事に就いても長続きしない（他人と同じ様にできない。手が遅いといわれる）。 ・人間関係がうまくいかない等。 ・病気を患い就職できずに中退し、就活した事がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中に「働く、という事に対する教育が不足している？ ・発達障害・知的な遅れに気付かず過ごし就職して様々な問題が発生してから判明するケースが増加。 ・転職＝悪という考え方が根付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生時代に職場体験やキャリア教育の時間をとり、「なりたい自分」「やりたい仕事」を考える機会を作る。もしくは増やす。 ・相談機関へつながる様、広報活動を強化する。 ・雇用側（企業）の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴・寄りそい。家族や周囲に話せなかった本音を出せる場の提供。 ・目標設定のサポート（自分で決定できる様支える）。 ・自分で気付かない相談者の長所・能力を見つけて知らせる。 ・正確な見立てのためのカウンセリング。
30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・<女性>ご主人の転勤に伴う転居 ・妊娠・出産・不妊治療等で離職。再就職がうまく行かない。 ・学校を卒業してから今まで長続きした仕事がない。もしくは一度も働いた事がない。 ・メンタル面の不調で離職。 ・精神福祉手帳は取得していないが、社会に出る事が困難で働けずにいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用側の問題。人手が足りていないため、一人への負荷が増。適材適所の余裕がない。 ・相談する相手がいない（わからない）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談機関へつながる様、広報活動を強化する。 ・雇用側（企業）の理解を深める。特性を生かして働ける職場作り、仕事の切り出し等の推進。親への情報提供、相談対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携・情報共有。 ・企業からの情報収集、協力体制の構築。 ・対人面等困難な相談者を受け入れて下さる職場の開拓、働きかけ。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
037	記入なし		記入なし	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	・劣等感を抱えている。	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情や気持ちを表現（言語化）するのが苦手。 ・依存心が強い。 ・自己評価が低い。 ・他人の価値観に共感できない。 ・イメージの乏しさ。 ・目標が持てない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画一的価値感、閉塞感。 ・ゲーム志向、短絡的思考。 ・家庭の機能不全。 ・バーチャル体験>実体験の少なさ。 ・親の意向を押しつけられ、自分で意思決定しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生育歴、家庭環境、社会的スキル。 ・職業適性能力のアセスメントに応じたマッチングをコンサルする。 ・経験・体験を積んで自信につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を含めた支援の構えが必要。 ・情報収集による本人理解と信頼関係の構築。 ・支援のタイミングを逃さない ・具体的にシンプルに、タイミング良く。 ・見通しを持たせる。
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・自信がない。 ・強みや適性が分からず、一貫性のない就活。 ・応募書類に自己PRが書けない。 ・社会（人・企業）との接点を求める意欲に欠ける。 ・コミュニケーションが苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解不足。 ・親の態度や価値観に影響を受けている。 ・本音で悩みを話せる人がいない、問題を抱え込みする。 ・経験の積み上げが乏しい。 ・社会との接点が少なく、自分を客観視できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の促進と目的意識、モチベーションアップ、スキルアップに寄り添って支援。 ・サークル活動、アルバイト、ボランティア、インターンシップを通して社会（人・企業）と接する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な言葉を使って接する。 ・成果だけでなく、プロセスを評価する。 ・経験を通して学んだことを整理する。 ・強みに着目したフィードバックをする。 ・問題解決だけでなく、うながす ・自己効力感を高める。
30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわりが強い。 ・悲観的な無気力。 ・視野が狭い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挑戦したり、困難を克服した経験が少なく自信が持てない。 	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
038	3 どちらともいえない 上記の基本理念の達成状況について、本学は貴庁の若者支援の現状を十分に把握しておらず、機関としての回答が難しいため。		3 どちらともいえない 上記の基本理念の達成状況について、本学は貴庁の若者支援の現状を十分に把握しておらず、機関としての回答が難しいため。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	過去3～5年間の変化について、本学の相談員の実感としては次のとおりです。 ① コミュニケーションを苦手とする学生の増加（親子間のコミュニケーションの減少、説明や意見表明を苦手とする学生の増加など）。 ② 学生が置かれている境遇の多様化（経済的な困窮、複雑な家庭関係など）。 ③ 同棲に関する感覚の変化（性病・妊娠・DVといった形で問題が顕在化）。 ④ 心の病や発達障害を訴える学生の増加（程度が重く、医師の診断をすぐにも必要とする学生の増加）。	① コミュニケーションを苦手とする学生の増加。 一因として、SNSの発達による一時的なコミュニケーションの必要性の低下、意見を表明する事を控える社会的な風潮による影響があるものと考えています。 ② 学生が置かれている境遇の多様化。 一因として、少子化による大学全入時代に入ったことで、入学時点で様々な学生の混在が進んだ影響があるものと考えています。 ③ 同棲に関する感覚の変化。 一因として、経済的な困窮のほか「ルームシェア」などの言葉が浸透し、同棲への抵抗感が小さくなった影響があるものと考えています。 ④ 心の病や発達障害を訴える学生の増加。 一因として、うつや発達障害の認知度が高まったことが影響していると考えています。	・支援を必要とする学生が気軽に相談できる様、窓口の認知度を高めつつ、敷居を低くすること。 ・学生の相談に応じて、なすべき対応を検討・実行できる体制を整備すること。	・支援を必要とする学生一人ひとりの話をよく聞いてあげること。 ・支援を必要とする学生が相談しやすい雰囲気をつくること。 ・学生の個人情報の取り扱いに十分に気をつけること。

30～40歳 未満	記入なし	<p>① コミュニケーションを苦手とする学生の増加。 一因として、SNSの発達による一時的なコミュニケーションの必要性の低下、意見を表明する事を控える社会的な風潮による影響があるものと考えています。</p> <p>② 学生が置かれている境遇の多様化。 一因として、少子化による大学全入時代に入ったことで、入学時点で様々な学生の混在が進んだ影響があるものと考えています。</p> <p>③ 同棲に関する感覚の変化。 一因として、経済的な困窮のほか「ルームシェア」などの言葉が浸透し、同棲への抵抗感が小さくなった影響があるものと考えています。</p> <p>④ 心の病や発達障害を訴える学生の増加。 一因として、うつや発達障害の認知度が高まったことが影響していると考えています。</p>	記入なし	記入なし
--------------	------	---	------	------

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
039	2達成に近づいている 若者に対する相談窓口が増え、以前に比べ支援の幅が広がっている。		2できている 若者を支援する時に、生活状況を確認し、適切な相談機関につないでいる。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> ・低所得により、学習環境が整わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯の低所得。 ・一人親世帯の増加。 ・核家族化。 ・いじめ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中で、個性について理解されている環境。 ・低所得者世帯においても、学習の機会や経験がある程度、得られること。 ・ひきこもりや不登校などになる前の予防的ケア。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、自立して生活が営めるようにすること。 ・本人がどうしたいか、意向を尊重すること。 ・家族を含め支援を考える。
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・進学について（金銭面）。 ・何らかの理由で高校などを中退した後、特に何もしないで生活をする（社会との接点を無くす） 	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯収入の減少。 ・一人親世帯の増加。 ・つながりの減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校中退など、一度、社会に出てから失敗をしても、その後支えられる仕組み。 ・ひきこもりや不登校などになる前の予防ケア。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人がどうしたいか、意向を尊重すること。 ・家族を含め支援を考える。
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事などを辞めた後、自らの力で復職できず、誰にもつながることができない。 ・ひきこもり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会との関わり方。 ・自らの判断で生活の立て直しが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度社会から離れてしまっても、再度挑戦できる支援を日常から知っていただけるものに。（周知） 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人がどうしたいか、意向を尊重すること。 ・関係機関との連携。
30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・社会との関わり方。 ・本人の困り感がない事。 ・ひきこもり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今迄の生活の中で、十分に生活が成り立っていたこと。 ・他者の目が行き届きにくい状況であるため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的に孤立した人に対する受皿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人がどうしたいか、意向を尊重すること。 ・本人の生活歴など、現在の生活に至った経緯。 ・関係機関との連携。

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
040	3 どちらともいえない 核になる人材と制度はあるものの十分なひろがりには欠けている		4 あまりできていない 準備段階である義務教育において、支援教育の対象と見られてしまった場合、そこから自立にむけたプランと支援がなされていないケースが少なくない。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	小中学校在籍者における支援教育対象者や不登校児に対しての自立に向けたプランがきちんと描かれているとは言えず、事実上教育がなされておらず、野放しとなっているケースが少なくない。こういう子どもが年齢だけかさねても社会で活動することはより困難になる。	支援教育や発達障害不登校などについて特別視しすぎ。義務教育の現場が。意識の変換と教育としての工夫が支援者側に必要。医療・福祉サイドと学校、さらに保護の3者とも考え方が異なったままになっている。	各支援団体はそれぞれの考え方で取り組みばよいが、それぞれがどのような考え方で取り組もうとしているか、支援側(医・福・教・親)は知っておくということが大切だと思われる。	障がいや発達課題について客観的に見ることができると、子どもを一人の人間として先入観なく見ることができると、子どもに関わる全ての支援者に対して敬意を持てること。
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
041	2 達成に近づいている 若者支援の際に「はままつホツとナビ」を活用している。		2 できている 保護者の理解を得て対応している。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	発達の課題を抱える若者の支援の対応。	貧困、虐待、親の不仲、友人の影響、親の期待、勉強の挫折、部活動の挫折、いじめ等。	保護者、学校、地域の理解と協力、連携。	受容、傾聴、共感的理解。
15～18歳	・高校中退者の自立問題(無職少年)。 ・学校不適應の問題。	貧困、虐待、親の不仲、友人の影響、親の期待、勉強の挫折、部活動の挫折、いじめ等。	保護者、学校、地域の理解と協力、連携。	受容、傾聴、共感的理解。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
042	2達成に近づいている 若者の自立を支えている団体があり活動しているから。	2できている いろいろな団体がそれぞれの困難な若者を支援しているのを知っている。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	中卒の就職先が正社員ではほばない。 様子を話し受入れ先の企業があっても休む、フェードアウトする 障害者を多く雇い入れ教えてもらえない。 コミュニケーションがとりづらい。	労働基準がきびしく守られている。 交通手段が自転車か公共ののりものしかない。 交通手段を利用しても遠くまで行けない。	教育（まじめに働くことが将来につながる）。 キャリア制度。	きびしいが働くことで社会性を身につける。
15～18歳	・正社員での就職がむずかしい。 ・高卒男子の事務職がない。 ・自分の事を相手に伝える事が苦手な方が多い。	働く意識が低い。 やりがいや楽しさを求める。 親への依存が強いいため主体性に欠ける傾向。	外国人労働者と障害者の枠を増やす。 教育・他機関との協力体制。	働くことの意義、将来の目標を明確するよう、キャリア形成の大切さを伝えていくこと。
18～30歳未満	専門学校や大学中退、もしくは3年未満の離職率が高い。 中退の受け入れ先が少ない（新卒でない）。 地元志向で家から通える所を希望する。 更に転勤は受け入れない。	都市に比べ企業や求人が少ない。 あまり選べない。 給料が安い。	自覚。 自分を知る。	記入なし
30～40歳未満	転職による収入ダウン。	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
043	2達成に近づいている 記入なし	2できている はままつホッとナビを利用して当機関を利用している。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	不登校いじめ。 家出。 怠学。	家庭問題。 交友問題（学校問題）。 発達の問題。	他機関との連携。 継続的なかわり。 スクールサポーター（警察と学校のパイプ役）。	各機関の事業内容等の把握。
15～18歳	不登校いじめ。 家出。 怠学。	家庭問題。 交友問題（学校問題）。 発達の問題。	記入なし	各機関の事業内容等の把握。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由
044	4あまり達成に近づいていない 記入なし	4あまりできていない 記入なし
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因
0～15歳	記入なし	記入なし
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> 10代のうちに仕事や自立に向けて社会体験できる機会が少なく、将来の姿をイメージしにくい。これまでの生活の中で、小さな失敗を認められず、大人になってから失敗が怖く、一度失敗するとそこから抜け出せない。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校を中退した人やその家族が、相談できる機関や社会参加できる場所が少ない。 自己イメージが低い。
18～30歳未満	<ul style="list-style-type: none"> 生活感覚や自立のイメージがうすく、現実検討ができない。 お金がないため、社会参加や消費活動に参加しにくい。移動手段がない人や移動手段がバスや電車の人には交通費がかかるため、社会参加を断念する人もいる。 一人暮らしをしたくても、現実的に叶えられないことが多い。結果、家族に頼ることになり自立に結び付かない。 相談の場に女性が現れにくい傾向がある。実態が不明。 	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりの人、または何らかの理由で働くことができない人は、家族からの経済的援助がない、またはあったとしても家族への遠慮から社会参加がしにくいと感じている。 働いていない、社会参加をしていない人が自らの課題として相談することは難しく、家族が抱えてしまっているため。
30～40歳未満	<ul style="list-style-type: none"> 支援につながるまで長く引きこもっている、また支援につながってから自立や社会参加までに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> こだま（ひきこもりの居場所）につながってきても、家庭で過ごす時間は多く、家庭環境の介入が難しい。
	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
	記入なし	<ul style="list-style-type: none"> 支援者の生活の保障。支援者が心身ともに健康であること。 当事者だけではなく、家族全体、家族の中での本人の支援ができるような視点を大事にする。また、それに伴う各関係機関と連携し支援をする。
		<ul style="list-style-type: none"> 支援者の生活の保障。支援者が心身ともに健康であること。 当事者だけではなく、家族全体、家族の中での本人の支援ができるような視点を大事にする。また、それに伴う各関係機関と連携し支援をする。
		<ul style="list-style-type: none"> 就労支援、本人に合った就労や社会参加の場の提供。 家族と離れて生活をする中で自立を促せるような仕掛け作り。 家族や当事者自らが相談しやすい環境作り、地域の見守り。 若い人同士のピアサポートの促進。 ひきこもりの女性の当事者も参加しやすい相談場所、居場所。
		<ul style="list-style-type: none"> 支援者の生活の保障。支援者が心身ともに健康であること。 当事者だけではなく、家族全体、家族の中での本人の支援ができるような視点を大事にする。また、それに伴う各関係機関と連携し支援をする。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
045	3 どちらともいえない ・こども食堂や学習支援など困窮者支援は増えましたが、関係性の課題、居場所のなさを抱える若者は依然いるため。		3 どちらともいえない 具体的に何か支援のしくみがあるなら知りたいです。 パーソナル・サポート・センターやサポステくらいしかイメージがないので。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	・不登校。 ・発達障がい、LDの子たちの通いにくさ。 ・高校進学の問題（困窮、不登校、障がい）。	問4にまとめてかいた感じです。	記入なし	・本人によりそうごと（本人目線と言わない）。 ・まわりの人、環境もアセスメントすること。 ・ある程度若者文化を知っておくこと。
15～18歳	・進学先。 ・在学の継続（お金、生活支援者がいないなど）。 ・放課後や休日の居場所（家庭で関係性のかだいがあがる）。 ・相談先と助けてくれる先がないこと。 ・親にDV、依存など課題があっても、相談先があるだけでは解決しにくい。	問4にまとめてかいた感じです。	・「相談」だけではなく、アウトリーチして一緒にうごいて解決をめざしてくださる先がほしいです。 ・長くかかわってくれる人も必要。 ・「こまっている人を助けてくれる人」ができるが良い。 ・生活のしかたを学べる場所（お金のつかいかた、家庭のイメージづくり、など）。	・本人によりそうごと（本人目線と言わない）。 ・まわりの人、環境もアセスメントすること。 ・ある程度若者文化を知っておくこと。
18～30歳 未満	・就職（正職で就職できないこと）（学歴、発達障がい系の子たちのしにくさ）。 ・就労継続（発達障がい系の子たち）。 ・死にたいきもち。 ・居場所のなさ。	問4にまとめてかいた感じです。	・「相談」だけではなく、アウトリーチして一緒にうごいて解決をめざしてくださる先がほしいです。 ・長くかかわってくれる人も必要。 ・「こまっている人を助けてくれる人」ができるが良い。 ・生活のしかたを学べる場所（お金のつかいかた、家庭のイメージづくり、など）。	・本人によりそうごと（本人目線と言わない）。 ・まわりの人、環境もアセスメントすること。 ・ある程度若者文化を知っておくこと。
30～40歳 未満	・無職、再雇用の難しさ。 ひきこもり。 生活困窮。 支えてくれる人のなさ。 関連してる感じ。	問4にまとめてかいた感じです。	・「相談」だけではなく、アウトリーチして一緒にうごいて解決をめざしてくださる先がほしいです。 ・長くかかわってくれる人も必要。 ・「こまっている人を助けてくれる人」ができるが良い。 ・生活のしかたを学べるばしょ（お金のつかいかた、家庭のイメージづくり、など）。	・本人によりそうごと（本人目線と言わない）。 ・まわりの人、環境もアセスメントすること。 ・ある程度若者文化を知っておくこと。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
046	2達成に近づいている 若者の就職支援機関が充実している。		2できている 若者の個別の状況に応じた支援機関が設置されている。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・会社内の人間関係が原因であっさり退職する。 ・正社員として働いた経験の少ない若者の社会性の乏しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい時より困難に立ち向かう経験の少なさ。 ・社会人としての教育を受けていないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中、高等学校での「働くことの意味」を伝える教育。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者をねばり強く向き合う姿勢。
30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・正社員として働いた経験の少ない若者の正社員採用の困難さ。 ・人間関係のとり方の稚拙さや発達障害等で転職をくり返す者がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職氷河期世代。 ・発達障害等自覚のなさ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練の充実。 ・早期の人間関係トレーニングと専門機関の介入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あきらめない」ことを伝える。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
047	2達成に近づいている 記入なし		2できている 記入なし	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	児童虐待。 不登校。	家庭環境。 発達の偏り。	発達の偏り：相談機関、医療、学校、サービス提供機関等の紹介及び連携。 家庭環境の整備。	子どもが安心して生活できる基盤づくり (体制・環境)。
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由
048	3 どちらともいえない 記入なし	2 できている 記入なし
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因
0～15歳	発達障害かどうか。 学習支援。 利用できる制度、サービス。 現在の生活について 家族でできること。	対人トラブル。 発達の遅れ。 知的な遅れ。 感覚異常。 どこに相談したらいいのかわからない。
		問6 必要な支援や環境
		問7 支援者として心掛けること
15～18歳	発達障害かどうか。 学習支援。 利用できる制度、サービス。 現在の生活について 家族でできること。	対人トラブル。 発達の遅れ。 知的な遅れ。 感覚異常。 どこに相談したらいいのかわからない。
		発達障害に対する理解。 支援を受けられる機関の明確化。 ライフサイクルを通じての支援。 居住地域での支援。 さまざまな機関による連携。
		相談がしっかりとできる、アセスメント力とケースワーカー力。 ケースのニーズの明確化とその背景。 多職種、他機関との連携。
18～30歳 未満	発達障害かどうか。 今後の就労について。 利用できる制度、サービス。 現在の生活について 家族でできること。	対人トラブル。 発達の遅れ。 知的な遅れ。 感覚異常。 どこに相談したらいいのかわからない。
		発達障害に対する理解。 支援を受けられる機関の明確化。 ライフサイクルを通じての支援。 居住地域での支援。 さまざまな機関による連携。
		相談がしっかりとできる、アセスメント力とケースワーカー力。 ケースのニーズの明確化とその背景。 多職種、他機関との連携。
30～40歳 未満	発達障害かどうか。 今後の就労について。 利用できる制度、サービス。 現在の生活について 家族でできること。	対人トラブル。 発達の遅れ。 知的な遅れ。 感覚異常。 どこに相談したらいいのかわからない。
		発達障害に対する理解。 支援を受けられる機関の明確化。 ライフサイクルを通じての支援。 居住地域での支援。 さまざまな機関による連携。
		相談がしっかりとできる、アセスメント力とケースワーカー力。 ケースのニーズの明確化とその背景。 多職種、他機関との連携。

S N049 ※別紙にて、設問を自分で設定し、回答している

3 (1) 障がいのあるご本人とご家族の方が、日常生活を送るうえで主に困っていることはどのようなことですか。貴団体にて把握している事例がありましたら、ご記入ください。

- ・交通機関の利用法について子どもに上手く教えられない（切符の買い方、駅の名、バスの路線名）。
- ・お金の管理（使いすぎ/使い方、買物のしかた）。
- ・季節に応じた衣服のえらび方。（自分のこだわりのものしか着用しない）
- ・世間一般のマナーの身につけ方で苦労する。（のりものマナー、飲食店でのマナー、対人マナー）
- ・ゲームやP Cの使いすぎの指導。（時間管理）
- ・居場所がない、友人がいない、相談できる場所（本人が）。

3 (2) 「浜松市障がい福祉に関するアンケート調査」の自由記述では、「障がいのある人ご本人の高齢化」、「ご家族の高齢化」、いわゆる「親亡き後」の不安に関するご意見をいただきました。障がいのあるご本人とご家族の方が将来を思って不安になることや必要とする支援等、ご意見がございましたらご記入ください。

- ・施設利用の手続き、申請書類。
- ・金銭管理、銀行、通帳管理。・公共料金の支払い、納税や保険料の手続き。
- ・免除申請。

- ・食事のしたく、火の管理、健康管理。・受診の管理、自立支援医療の手続き。
- ・住まいの管理、転居の際の手続きや交渉ごと。・相続（兄弟間のトラブル、親せきも）。
- ・離職した後の過ごし方。・移動の支援。・助けてくれる人がいるかどうか。

3 (3) 本市では、第2次浜松市障がい者計画において「きめ細かな相談支援の充実」を重点施策に位置づけ、総合的な相談支援の充実やケアマネジメントの推進等に取り組んでいます。相談支援の充実について、本市が取り組むべき事項等、ご意見がございましたらご記入ください。

本人の主張や要求は、必ずしも正しいものであるとは限りません。一時的な苦痛を訴えたり、家族の言ってきたことをそのまま受け継いでいる場合もあります。本人や家族にもわからない「要求」を見い出してあげて下さい。そのための相談の場になってほしいと願います。最初の段階では、本人の主訴を聞き入れてほしいですが、次の段階では、一緒になって本人に必要なことを探してあげてほしいです。きめ細かな相談とは、そのようなものであってほしいと願います。

4 (1) 本市では、ユニバーサルデザイン化の推進等、誰もが暮らしやすい福祉のまちづくりを推進し、障がいのある人の外出や暮らしやすい環境整備に取り組んでいます。貴団体にて把握している外出における困った事例や本市が取り組むべき事項等、福祉のまちづくりの推進についてご意見がございましたらご記入ください。

発達障害に関して言えば、感覚の過敏という特性が挙げられます。外の空気、交通機関のにおいや人口密度、車内の光や騒音などが原因で、うまく屋外で過ごせない子どもがいます。またルールやマナーを上手に理解し、使うことができない特性を持つものもあります。飲食店や公共の場で、白い目で見られたり、ひんしゆくを買うなどの目に遭った人は集団の中で過ごすことに抵抗を感じてしまう場合もあります。以上のような対応に難しい課題についても、今後の市のとりくみに、何らかの形で反映して下さるとありがたいです。

5 (1) 本市では、発達に課題のある子どもに対して、ライフステージに応じた支援が受けられるよう、早期発見・早期療育の充実、発達支援教育の推進、卒業後の自立に向けた支援等に取り組んでいます。貴団体にて把握している困った事例や本市が取り組むべき事項等、発達に課題のある子どもに対する支援についてご意見がございましたらご記入ください。

一般の教育と、特別支援教育のちがいについて、それぞれのメリットとデメリットを平等に示し、家族が子どもの道を手順に選択し、子ども自身もその違いを上手に理解できるようにしてほしい。一般の教育を通ったから大丈夫という風潮は、その後のつまずきに対する対応力を失います。また、特別支援に入ったから大丈夫という風潮は、その後のスキル向上の意志の壁になってしまふ恐れがあります。どちらに進んでも相応のメリットとデメリットが必ずあるという事実を行政側がまずは理解されることを望みます。

6 (1) 障がいのある人の就労意欲が高まっており、本市では障がいの特性やニーズに応じた就労支援に取り組んでいます。貴団体にて把握している困った事例や本市が取り組むべき事項等、障がいのある人の就労支援についてご意見がございましたらご記入ください。

障害の有無に関わらず労働者はみな、就職し、離職し、転職していくうちに、定着の道を歩むようになります。就職＝成功、離職＝失敗という短絡的な感覚を広めぬよう、労働者と事業所を上手にフォローする取り組みを考えてほしいです。ただし、離職を多く繰り返すのは本人のスキル不足が考えられ、離職者を多く出してしまう会社は雇用スキルの不足が考えられます。両者のスキルアップ、そしてそれらのマッチングについて研究を重ねて下さるとありがたいです。

7 (2) その他、情報保障やコミュニケーション支援について、貴団体で把握している困った事例や本市が取り組むべき事項等、ご意見がございましたらご記入ください。

- ・発達障害の場合、言語の獲得がスムーズに進まなかったケースもある。
- ・本人が発した言葉のうちにある意図を上手に汲み取る技術をもつ者＝「通訳者」が必要なケースも多々、存在する。
- ・また、一般の情報を時代に照らし合わせたり、ニュアンスを重ねて読み解くなどの高度な技術を持たない者への解説者もほしい。・情報リテラシーの概念の普及。

● (●) 本市が、今後、障がい福祉施策を推進していくうえでのご意見がございましたら、ご記入ください。

発達障害のケースでは、障害＝弱点としか見られないようなアプローチでは限界である。障害特性と表裏一体の「才能」という捉え方ができるようになると、その子、その人への見方が180°変わる。このことは発達障害にとどまらず、どんな困難があっても同じかもしれない。健常とされている人であっても、同様に弱点と持ち味が存在するのは明らかである。支援制度が一定の成熟期を迎えた現在、次の視点として、芸術的観点、平和的観点から福祉を捉えなおす文言を使い始めてはいかがか。

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
050	3 どちらともいえない 浜松市発行の「浜松市子ども・若者支援プラン」の資料や、学校に通知される支援事業などをみると行政の積極的な取組は評価できるが、成果としてみるとあまり確認できないのが現状ではないか。		2できている 本校の場合、中学校で不登校だった生徒がある程度の人数入学をしている。この生徒たちは、高校では、ほとんど欠席することなく学校生活を送っている。ある程度、進学に対する支援はなされていると思う。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	本校では中学校3年間の欠席が30日以上 の生徒が全体の約40%である。このような生徒も高校に入学するとほとんど欠席することなく、高校生活を過ごしている。その中の一部の生徒はコミュニケーションが周りの生徒とうまく取れないでいる。	コミュニケーションが周りの生徒とうまく取れない生徒は自閉症気味で中学校まで他の人との接触が少なく、人間関係の構築の経験がないことに原因があると考ええる。	コミュニケーションがうまく取れない生徒は、高校入学時より計画的なカウンセリングが必要である。また、コミュニケーション力の延長上にキャリア教育があり、自分の将来に向き合わせる支援がとても大切だと考える。	私たちが接している高校生世代はある程度人格形成が完成されようとする年齢である。即ち、ある程度人格が定まった人間に対して指導を行うには、専門的知識が必要になる。経験のみでの対処は、間違いがあれば心を一生閉ざす原因にもなりかねない。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
051	2 達成に近づいている 様々な制度が充実してきている反面、当事者に届いていない現状もある。広く制度などが届けられる体制作りができることによりよくなると思われる。		2できている サポステ、こだま、相談支援事業所等相談窓口が設置されており、各関係機関での連携も図れている。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	家庭内の生活環境が悪い。 貧困。 親も何かしらの問題（障害含む）を抱えており、支援者がいない。	本人の持っている障害特性による困難さ。 ・複雑な家庭環境。 ・周りの理解不足。 ・教育者の関り方、いじめ。 ・居場所のなさ。	・早期に各専門機関につなぎ支援体制を整える。 本人の障害特性、状況に合った支援の提供。	・保護者を含めた丸ごと支援。 ・医療、福祉、教育機関との連携。
15～18歳	義務教育が終了し、本人達への介入者が減る。 進学先が見つからずひきこもりになっていく。	本人の持っている障害特性による困難さ。 ・複雑な家庭環境。 ・周りの理解不足。 ・教育者の関り方、いじめ。 ・居場所のなさ。	・早期に各専門機関につなぎ支援体制を整える。 本人の障害特性、状況に合った支援の提供。	・本人の行き辛さを理解しようとする事。それに対する寄り添い支援。 ・いつでも窓はあけておく事。
18～30歳未満	・高校卒業後の就職先が見つからない。 ・居場所のなさ。 ・異性感トラブル。	本人の持っている障害特性による困難さ。 就職先でのトラブル、挫折等。	・早期に各専門機関につなぎ支援体制を整える。 本人の障害特性、状況に合った支援の提供。	・より多くの方（一般市民）への啓発。 ・本人のエンパワメントを引き出す事。
30～40歳未満	金銭トラブルなど。貧困による借金。親が高齢となり支援者不在となる。不安感を抱える方が多い。	本人の持っている障害特性による困難さ。	・早期に各専門機関につなぎ支援体制を整える。 本人の障害特性、状況に合った支援の提供。	

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
052	4あまり達成に近づいてない 障害サービスで対応できる子どものサポートはあるが、対応できない。子ども達や親に対する支援の拡充がされていないように感じる。障害サービス事業所にも対応に差があり、1ヶ所で抱えこむということが起きているように思う。		4あまりできていない 学校側との温度差を感じる事が多い。支える場所が少ない。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼少期から必要な養育療育を受け入れられない家庭が多い。 ・ 家庭内引きこもりが増えている。子どもに問題がある親側にも問題があることがある。 ・ 愛着関係が作れていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内での理解不足(愛着、養育)。 ・ 家庭フォローの人材不足。 ・ 厳しい環境での生活現状を把握する人がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親への支援(療育を受けることへのあたりまえという認識)。 →人材、体制など。 ・ 教育、医療、福祉の形ある連携、定期的な情報支援の場。 ・ 若者が集まれる場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この子らの将来に早期に関わっている重要な時期という認識。 ・ 本人の立場に立つが、親の立場、気持ちへの理解。
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設育ちで、管理・養育されて育ってきた子たちに、金銭感覚等の社会経験が全く土台のないまま、障害分野の大人の社会へ入ってくることで、混乱しやすい。 ・ 現実検討能力が低い、先の見通しが持ちづらく刹那的。 ・ 愛着かんけいが持ちづらく、養育機能を必要としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小期からの希薄な養育環境。 ・ 虐待やいじめ等による自尊心の低下、それにとまなう粗暴行為、不登校等の2次障害。 ・ 2次障害でかくされてしまう生来性の特徴や特性。 ・ 施設の生活から地域へ出ていく為に利用できる制度の少なさ、選択肢の狭さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に出ていく準備のできる施設、制度(例えば低価格で利用できる住居、その費用の補助、お金のやりくりや仕事の体験ができる(生活費となる)等)。 ・ 将来に向けた意識付けができる集団活動。 ・ 仲間づくりの場所の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生育歴を知らながらその子が生まれ育った環境を理解し、その子のあり様を受け入れ、ありのままを受け入れる。 ・ 本人の気持ちの代弁者。
18～30歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的には困難なく、大学卒業後に仕事場等の社会生活の中で対人関係に大きな負担をかかえ、ひきこもり、更に学校生活の延長等で社会と切りはなされていく。社会復帰を考えた時には大きなブランクをかかえ、困難さも増大している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強でも生活面でも大きな問題がなければ労働年齢に達していく「失敗する事」に慣れておらず社会に出て大きなざせつ感を感じ、頼れる人間関係もなく、孤独になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談窓口の低ハードル化(家族の焦り)(早い関わり)。 ・ とりあえずの窓口(よろず総合相談)。 ・ 仲間づくりの場、居場所の提供サークル。 ・ 作業体験の場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己があることを尊重し、本人の想いを受け入れ、共働していく。 ・ 社会との接点を意識しながら少しでもつながれるよう心掛ける。
30～40歳未満	入院経験はないが、長年自宅にひきこもり、家族で抱え、社会経験がとぼしい人、コミュニケーション能力が乏しい人が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期前の経験から社会に出られないうまいることで、他者との信頼関係、家族間での信頼関係の構築ができない。支えられた経験不足から上手く相談できない。発信できない、家族だけの困り感。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居場所支援、つながる支援。 ・ 年齢別、世代別。 ・ 低価格のもの。 ・ 出会いの場。 ・ 何でも相談窓口、人材確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの生活をみすえながら、本人の気持ちに寄り合い、社会と接点をもちながら、つながりを意識していくこと。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由
053	<p>3 どちらともいえない 子供以前に親が自立していると言いがたい家庭もあり、家庭全体に課題が沢山あるから。</p>	<p>3 どちらともいえない 支援対象者ごとに必要な支援の分野が違うため一律にできるとは思わないが、各関係機関が取り組もうとしているのは評価するべき点である。困難さの程度、支援分野の範囲は対象となる若者により異なるため、大きな括りでの評価は難しさがあるように思う。</p>
0～15歳	<p>問4 困難の傾向 【乳幼児期】 適切な医療、教育を受けるための情報が届いていない。 (例：予防接種、定期健診の不参加、日本の小学校入学前までの家庭で保育/同国人経営の小規模託児所に預け、集団生活や日本語習得に困難が生じている) 同月齢、同年代の子どもとの接点が少なく、発達の遅れなどに親が気づきにくい。もしくは複数の文化・言語環境で育つため、ことばの遅れや行動などが発達の遅れと誤診される可能性がある。 【学童期～青年前期】 外国にルーツがある子ども達の多国籍化が進み、マイノリティの国の子ども達への支援が手薄(例：通訳・翻訳など)。 ルーツのある国は同じでも、成育環境の多様化が進み、必要な支援も多様化している。 (例：日本生まれ日本育ちで日本の学校/外国人学校に進学、義務教育年齢を超える間際に来日) 不就学でどこにも所属していない。また、不就学から日本の学校への就学することが困難。 日本の学校生活で、生活言語としての日本語は習得できるが、学習言語としての日本語が習得できない。日本語と母語の発達がどちらも不十分で思考能力が伸びない。 子どもが親の母語を習得せず、親とのコミュニケーションが取れない。</p>	<p>問5 困難の原因 保護者の離婚問題や経済的な問題に振り回される。 文化の違いによって公立学校に適応できない。 保護者の教育への関心が薄い。 理想(進学への期待)と現実がかみ合っていない。 親が帰国か永住かライフプランを立てていない。 家庭での学習機会が少ない(親が日本語で宿題を見ることができない)。 親の日本語能力が低い/母語による情報提供が少なく、育児や日本の教育制度、進学、就労に関する情報収集ができない。</p> <p>問6 必要な支援や環境 外国籍も義務教育課。 母国語のカウンセラーやソーシャルワーカー。 高校への進学支援。 妊娠中や乳幼児期の子を持つ親へのオリエンテーション(母国と日本の子育て文化の違い、医療や教育制度を知る)。 行政の窓口やHP、はますくファイルなどの冊子等での情報提供(やさしい日本語や多言語で)。 親が日本語を学習する場。 同月齢の子を持つ親や同国人と出会える場。 日本の学校における外国にルーツを持つ子ども達への教員の理解。 子どもものの日本語や教科の学習を支援する場。 子どもがルーツのある国の文化や言語を学ぶ場。</p> <p>問7 支援者として心掛けること 家庭全体への支援・配慮。 日本の文化、習慣を押し付けるのではなく、相手の意見を尊重しながら対話を心掛ける。 日本語で話をするときに、内容を理解しているか何度も確認する。理解していないように感じたら、よりかみ砕いて話したり、通訳翻訳に頼ったり、写真を見せるなど伝え方を工夫する。 相談の内容によって適切な専門機関に繋げる。 子どもや青年期の若者の場合、本人の成育歴に配慮する。 守秘義務を守る。 困難を解決するための制度を学び、最新の情報を得る。</p>

	日本人よりも高校進学率が低い（定時制高校への進学が多い）義務教育終了後に就労を希望し、アルバイトや非正規など不安定な職に就く。			
15～18歳	高校に進学後、日本語での教科学習に付いていくことが困難。就職後に高校や大学への進学を目指しても復学が困難。高校卒業後のライフプラン（キャリアプラン）が立てられない。ルーツのある国と日本との間でアイデンティティの確立に揺らぎが出る。	日本の教育制度を知らず、来日時期が適当でない/母語での教育年数が不足し、復学の妨げとなる。親や先輩など、モデルケースとの接触が不足している。自身のルーツのある国の文化に触れる、継承語を学習する機会が少ない。家庭状況によっては、自身の勉強よりアルバイトをしなければならない。下の兄弟たちの世話をしなければならない。	大学への進学支援。就職活動の支援。日本語や高校相当の教科の学習を支援する場。高校、大学進学を目指す親子へのオリエンテーション。高校卒業後のキャリアプランを考える場（モデルケースとの接触）。	家庭全体への支援・配慮。日本の文化、習慣を押し付けるのではなく、相手の意見を尊重しながら対話を心掛ける。日本語で話をするときに、内容を理解しているか何度も確認する。理解していないように感じたら、よりかみ砕いて話したり、通訳翻訳に頼ったり、写真を見せるなど伝え方を工夫する。相談の内容によって適切な専門機関に繋げる。子どもや青年期の若者の場合、本人の成育歴に配慮する。守秘義務を守る。困難を解決するための制度を学び、最新の情報を得る。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	非正規雇用で就労し、経済的に不安定。老後に向けてのライフプランが立てられない。無保険・無年金の人もいる。子育てをする際に、情報不足や子どもとのコミュニケーションなど親世代と同じような課題を持つ。地域参加が少なく、日本社会との接点が無い（災害時などに孤立する可能性がある）。	多くが派遣。保険や年金はお金が掛りもつたいないと考え関心が薄い。日本語学習の機会が少ない。もしくは優先されない。非正規雇用から正規雇用へのキャリアアップを目指す際、社内試験に日本語で臨むことができない。行政制度や手続きを相談できる場が少ない。もしくは煩雑さを感じ、制度を利用しない/手続きをしない。同国人同士のコミュニティが存在し、通訳・翻訳が充実しているため、生活上で困難を感じていない。日本語ができない/今まで参加したことが無いために、地域行事など地域住民との交流ができる場への参加に消極的。	制度の説明。日本語を学習する場。正規雇用につながるための職業訓練。行政の窓口やHP等での情報提供（やさしい日本語や多言語で）。地域住民との交流が持てる場。災害時など緊急時の対応を学べる場。老後に向けて、自身のライフプランを見直す場。	家庭全体への支援・配慮。日本の文化、習慣を押し付けるのではなく、相手の意見を尊重しながら対話を心掛ける。日本語で話をするときに、内容を理解しているか何度も確認する。理解していないように感じたら、よりかみ砕いて話したり、通訳翻訳に頼ったり、写真を見せるなど伝え方を工夫する。相談の内容によって適切な専門機関に繋げる。子どもや青年期の若者の場合、本人の成育歴に配慮する。守秘義務を守る。困難を解決するための制度を学び、最新の情報を得る。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
054	3 どちらともいえない 若者の自立支援に関しては支援機関も多く個人のニーズに沿った相談・支援も充実していると感じますが、ひきこもりの若者を取り巻く環境（学校や家庭）に課題を抱えており横の連携が難しい現状あり。若者1人の課題では無い困難事例が多くあると感じるため、利用支援機関の明確化も必要と思われる。		2できている 就労支援機関である為、本人の就労支援相談をすることで求職者のキャリアプランを共に考察・検討し、納得した意思決定に基づいて応募・就職支援を行う事で本人主体の自立支援が目的である。求職者の背景には個人的特性はもちろんそれぞれの抱える課題に応じて他の支援機関への誘導や情報提供も心がけています。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・背景に発達障害を抱え就労定着や困難要因を抱える若者の相談が多い。具体的に就労の継続が困難にて離転職を繰り返す求職者が多い。 ・生きづらさや体調不良でも支援機関や病院の利用が無い求職者が多い。提案し改めて考えるケースが多い。 ・就労に関する支援を知らない事が多い事はもちろん、浜松市の支援機関を知らない若者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出て働く事を想定したスキルの必要性や資格取得など教育現場で本人特性に応じた相談が深くされていないのか、自身のキャリア像を持っていない。立てられない若者が多く感じます。 ・求職者の抱える困難要件を自己理解ができ、課題を具体的に相談できるケースばかりでは無いため、適切な支援と情報提供、リファーマを受けていない求職者が多く感じます。つまり支援者の相談スキルの向上と研鑽の必要性を感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問5の所でも述べましたが、就職支援機関においては、まず基本的なカウンセリングスキル・キャリアコンサルティングスキル等の支援はもちろん、求職者の抱える問題点の把握はその支援機関においても必要なスキルであると感じます。 ・求職者の状態においては体調面の確認、つまりメンタル面の把握も重要であり、緊急性がある場合は病院に繋げていく意識を持つことも忘れない事が重要だと考えています。 ・そして支援機関として他の支援機関がどのような支援機関かを理解してリファーマできる関係性を作る事が重要だと考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問6と同様ですが、支援員としては常に真摯に向き合う姿勢が大切であり、相談スキル向上の為に自己研鑽を続ける事で相談者の主訴を捉え的確な支援をすることが必要と思われるます。 ・また支援員として一人で問題を抱え込まず、自身の力を越えた事例に関してはリファーマできる関係・人脈の関係構築が大切だと考えています。
30～40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
055	4あまり達成に近づいてない 経済的に自立できていない親に育てられた子は、自立しようという意思が見られないことが多く、就労意識も低いから。	2できている 一部分ではあるが、親がわりもしくは小中学校に行かず学ばなかったかわりの支援・指導をしていると思う。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害を指摘されつつも、本人や親が否定して二次障害を引き起こす。 親が子どもに無関心で様々なあらわれ（弊害）を引き起こしている。 貧困。 	<ul style="list-style-type: none"> 親（家庭）養育能力のなさ。 発達障害そのもの。 親のお金の使い方がまちがっている。それを見て育った本人もまちがっていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 親世代への教育、引きはなし。 義務教育期における発達障害等の支援に対するある程度の強制力。 切れ目のない支援（高校に通いながらも様々なサービスをうけられるようにして欲しい）。 お金の使い方の指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人や保護者の背景、心情の尊重。 悪いところよりも、良いところをみるように努める。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
056	4あまり達成に近づいていない 記入なし	4あまりできていない 記入なし		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	10代のうちに仕事や自立に向けて社会体験できる機会が少なく、将来のイメージがしにくい。 ・これまでの生活の中で、小さな失敗を認められず、大人になってから失敗が怖く、一度失敗するとそこから抜け出せない。	・高校を中退した人やその家族が、相談できる機関や社会参加できる場所が少ない。 ・自己イメージが低い。	・高校生世代の人やその家族が相談する場や、学校との連携。	・支援者の生活の保障。支援者が心身ともに健康であること。 ・当事者だけではなく、家族全体、家族の中での本人の支援ができるような視点を大事にする。また、それに伴う各関係機関と連携し支援をする。
18～30歳未満	・生活感覚や自立のイメージがうすく、現実検討ができない。 ・お金がないため、社会参加や消費生活に参加しにくい。移動手段がない人や移動手段がバスや電車の人には交通費がかかるため、社会参加を断念する人もいる。 ・一人暮らしをしたくても、現実的に叶えられないことが多い。結果、家族に頼ることになり自立に結び付かない。 ・相談の場に女性が現れにくい傾向がある。実態が不明。	・ひきこもりの人、または何らかの理由で働くことができない人は、家族からの経済的援助がない、またはあったとしても家族への遠慮から社会参加がしにくいと感じている。 ・働いていない、社会参加をしていない人が自ら課題として相談することは難しく、家族が抱えてしまっているため。	・就労支援、本人に合った就労や社会参加の場の提供。 ・家族と離れて生活する中で自立を促せるような仕掛け作り。 ・家族や当事者自らが相談しやすい環境作り、地域の見守り。 ・若い人同士のピアサポートの促進。 ・ひきこもりの助成の当事者も参加しやすい相談場所、居場所。	・支援者の生活の保障。支援者が心身ともに健康であること。 ・当事者だけではなく、家族全体、家族の中での本人の支援ができるような視点を大事にする。また、それに伴う各関係機関と連携し支援をする。
30～40歳未満	・支援につながるまで長くひきこもっている、また支援につながってから自立や社会参加までに時間がかかる。	・こだま（ひきこもりの居場所）につながっても、家庭で過ごす時間は長く。家族環境の介入が難しい。	・当事者だけではなく、家族全体を支援の対象にする。 ・ひきこもっている人が社会参加をしようとした際に（家族や支援者共に）参加しやすい地域作り。	・支援者の生活の保障。支援者が心身ともに健康であること。 ・当事者だけではなく、家族全体、家族の中での本人の支援ができるような視点を大事にする。また、それに伴う各関係機関と連携し支援をする。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
057	4あまり達成に近づいてない <ul style="list-style-type: none"> ・「自立」という視点からは、それが達成できるような就職に結びつく例は当所では数が少ない。 ・就労したとしても、精神的、社会的孤立となって家やプライベートで居場所のない／いる若者が、相談者の中に多くいる。 ・義務教育年齢以降のひきこもり、高校や大学中退、無業の若者がどのくらいいるか実態がわからない。 		4あまりできていない <ul style="list-style-type: none"> ・当所は就労支援がメインになっているが、相談者の中には生活支援や環境調整など、ケースワーク、ソーシャルワークが必要な人がいて、それらを専門で支援する機能が必要だと感じている。 	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし		記入なし	
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭にも学校にも場所がなく、孤立してしまう子がいる。 ・日々を生きることが精一杯で将来への希望や夢を持つことも諦めている。 ・中学までは不登校でも、高校へは進学しようと公立定時制、私立通信制などへ籍を置くが、続かなくなり不登校からひきこもり、中退になる。その時には学校との関係も薄くなり、社会的に埋もれる可能性が高くなる。 ・障害があっても上記のような高校に進学した時、学校が本当に必要な支援にはつながらず、課題は先送りされていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、社会の分断化や個人主義、格差社会への流れが止まらない。 ・親自身も困ってきたが、他者とつながったり、救われた経験も少ないため、子どもにもそれが受け継がれていく。 ・極端な言い方をすれば、高等教育の環境に課題。どうしたらいいかわからない、どこに頼ればいいのか分からないから、ということはあるが、ある種、最低限卒業さえしてくれれば、進学してくれれば、バイトでも何でも仕事してくれればという問題。 ・学力は不振だが、穏やかで明らかな問題行動がない場合、多少気になることがあるが、学力は高い方で学習面では困らない場合、見た目には分かりやすい問題行動への対応に追われれば義務教育年代では見過ごされやすい。実は孤立しがちだったり、環境の変化に慣れにくいなどがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的視点から…子ども若者版の地域包括ケアシステムの構築。 ・ソーシャルワークの視点を高校教育へもっと進めている。 ・保健福祉と教育の情報交換の場、出会いの場を作る。ケースを共有したりステージを引き渡すのりしろを作る機会。 ・実効的な総合相談（ソーシャルワーク、ケースワーク）の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめないこと。 ・必要な資源は作る。 ・当事者の権利や人権意識を持つこと。 ・支援者など本人に身近な人が外とつながること。 ・付き添い、寄り添うこと。 ・新しい情報を取り入れること。 ・専門性を高めること（自己研鑽）。 ・他者を巻き込むこと。

<p>18～30歳 未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期の経験の育ちの中で、他者に対する安心感・信頼感を持つことが難しい。 ・人とのコミュニケーションに困難を抱えている方が多く見られる。そういう場合は就労する上では困難を感じる。 ・学歴は高いが、就職活動や就職してから自己判断や自己表現に困難を抱えることもある。 ・学齢期、目立った言動や対人トラブルがなかったために見過ごされてきた、知的障害や発達障害を持つ若者。当所相談で障害者手帳を取得する。 ・ひきこもりや不登校などでの経験不足等により、社会生活を送る上でのマナーや対人スキルが身につけていないまま年齢を重ねてしまっている方が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期までの経験の蓄積と考えているため、上記に同じ。 ・一度、一般的なルートから外れると、社会的に同年代に追いつく、同年代と触れあう機会が実質的に難しい。社会的許容が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりでもなく、障害でもない、しかし孤立している若者が、他者と出会える場、接触できる場づくり。それが自助、共助力を高める。 ・若者専門のソーシャルワーク機能、拠点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめないこと。 ・必要な資源は作る。 ・当事者の権利や人権意識を持つこと。 ・支援者など本人に身近な人が外とつながること。 ・付き添い、寄り添うこと。 ・新しい情報を取り入れること。 ・専門性を高めること（自己研鑽）。 ・他者を巻き込むこと。
<p>30～40歳 未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・30代以降の就労では、一般的に年齢的にも求められることが多いので、一層就労へのハードルが高くなってしまいう傾向がある。 ・成功体験よりも失敗体験の方が多く、そういう点からも、展開がしにくい。 ・知的障害が見過ごされてきた場合、30代後半で療育手帳の取得を目指しても、実際に学齢期の事を証明できる先輩は退職し、方法がなくなり断念せざるを得ない場合もある。実際には障害のある状態であるにも関わらず、福祉的支援が受けられない。（精神科受診という方法はあるが、万能ではない。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記二つのことの積み重ねと考えている。 ・再チャレンジに対して、まだまだネガティブなイメージの社会。 ・ひきこもり、無業の状態、知的障害や発達障害に対して、一般的にはまだまだ本人の問題や努力不足などに括られる印象が強い。正しい知識や理解が浸透していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の包容力の醸成。企業や地域の協力。 ・労働局でやっているユースエール企業の公表のような、若者支援に理解、協力をしている事業の社会的地位を高める活動や仕組み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめないこと。 ・必要な資源は作る。 ・当事者の権利や人権意識を持つこと。 ・支援者など本人に身近な人が外とつながること。 ・付き添い、寄り添うこと。 ・新しい情報を取り入れること。 ・専門性を高めること（自己研鑽）。 ・他者を巻き込むこと。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
058	3 どちらともいえない 浜松市子ども・若者支援プランの概要についてどんなことが行われているのか、正確には把握できていません。		2 できている 若者相談支援窓口「わかば」や、生活自立支援センター「つながり」が設置され、相談しやすい体制および複数の機関が連携して支援する体制が整ってきた。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、引きこもり。 ・発達障害。 ・診断を受けていないグレーゾーン。 ・生活習慣の乱れ（食事、睡眠、昼夜逆転生活）。 ・スマホ依存、ゲーム依存。 ・コミュニケーションに対する苦手意識。 ・高校中退（不登校・引きこもり・アルバイト中心生活）。 ・卒業後の進路が未決定のまま卒業してしまう（フリーター）。 ・貧困、家庭崩壊、精神疾患（メンタルヘルス）、DV。 ・性に関する問題、デートDV。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境の不安定さ（貧困、ネグレクト、親の発達障害や精神疾患）。 ・家庭内でのコミュニケーションの希薄さや、放任的な家庭環境。 ・高校入学前に支援の手（医療機関や福祉的なサポートなど）がなかった。 ・高校入学前のいじめや挫折の経験。 ・コミュニケーションに対する苦手意識。 ・就労に関する不安。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校としては、SCやSSWを利用して困り感のある生徒や保護者の支援を行う。SSWによる支援を受け、医療機関や外部関係機関との連携を試みる。 ・困難を抱えた家庭や児童生徒に対し、高校入学前に支援の手が入り、高校入学後も継続的な支援が行われることが必要。また、各機関との連携や情報共有が必要。 ・小学校と中学校との間の情報共有や連携はかなり行われているようだが、高校へは伝わりにくい現状である。小、中、高が密かに情報共有や連携ができる支援体制を整えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人格を否定するような言葉かけを行わないこと。 ・本人の思いを傾聴しようという姿勢。 ・個人情報の取り扱い。 ・一人で抱え込まず、支援チームとして共有すること。 ・家庭やその他関係者との情報共有と連携を図ること。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
059	3 どちらともいえない 高校に在学していると「なかぼつセンター」など、障害者就業のサービスを受けられないため。	3 どちらともいえない (1)の理由による。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	発達障害を抱えるが高校卒業を目指したいという希望が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会ニーズの変化。 ・職業訓練は早すぎると考える世帯の増加。 ・高卒が「当たり前」と考えられるような受入体制の拡大。 	高校卒業後の進路確定へ向けて障害者支援サービスとの連携を強化していける環境。	画一的な分け方で障害は分類できないことが多いため、様々な事情を勘案した上での支援。
18～30歳未満	上記の課題を抱える人たちの就労が困難かつ「なかぼつ」の利用ができない(18才になっていなければならぬ)。	市の対応で大きく前進が可能な分野。だが未だ対応いただけていない。	18才未満でも対応して欲しい。	社会に出る年齢ではあるが、内面が未熟な部分が多いため、それらをどう社会へ橋渡ししていけるか考えていかなければならぬ。
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
060	3 どちらともいえない 生きにくさを持った子どもや若者の自立に対して安心して暮らしをするために、多くの支援などが必要であると考え、ライフステージ毎に支援する窓口が違うことで課題が共有出来ない。行政窓口も横の連携をすることで、安心して暮らせる一歩になるのでは。		4 あまりできていない 支援を必要としている子どもは、親、保護者、子ども、若者本人が、自分自身の抱えている困難な状況や問題に気づいていないケースが多い。周囲が問題を感じていても、当事者が問題とっていない、深刻さが伝わってこない。親や子どもが育った環境や現状が、周囲からみれば問題とみえても、当事者が気づかなければ問題になっていないので、本来支援の必要な当事者からの相談やSOSは、少ないと感じている。また、相談支援を求めたくても、どこに相談すればいいのかわかりや情報を持っていないこともあり、恥ずかしいと思ったり、行政機関は敷居が高いと感じている。また、相談して、傷ついたり、相談しても変わらないという経験が少なくないため、あきらめてしまうなど、必要な人が声を上げにくいことは、以前とあまり変わっていないように感じている。	
0～15歳	問4 困難の傾向 ひとり親や生活困窮、貧困、家庭環境によって、子どもに及ぶ影響があるが、親が育った環境が影響していると、基本的な生活が成り立っていないので、生活習慣の改善や学習や就業意識を高めることは困難を伴う。一方で、親の進路や成績等の過度の期待によって、子どもの現状（障がいや不登校）が受け入れられないこともある。こちらのケースも、親の育った環境が影響していることもあり、知識や情報はあっても否定的になりやすく、支援を受け入れることに抵抗を示すことがある。2次障がいを伴うケースがある。少子化傾向にあるのに、不登校生は増加している。	問5 困難の原因 発達障がいなど生きにくさがある場合は、乳幼児から育てにくさ、集団生活の難しさなどから、周囲の支援や理解がないと、2次障がいなどの困難さの表れや、保護者も子育てに疲れて自己肯定感が低く虐待傾向に走る表れ。保護者も、発達障がいの傾向の方が多くいるため、貧困の連鎖の表れ。本人も自己肯定感が低いことが多い。支援の体制は整ってきてはいるが、地域の理解はまだ不十分であり、支援に関わる人によって対応が変わってしまう。幼少期からの話を聞いていくと、当事者の困難さが理解されておらず、学校で困った子どもという捉え方だったり、表面化しにくい状況や問題行動がないケースでは、問題が先送りされるだけで、親も不安を抱えながら過ごし、環境が変わったり、社会にでてから問題が表面化している。早期に必要な支援が行われていないケースがある。	問6 必要な支援や環境 全てのライフステージで、支援が出来る切れ目のない支援。行政窓口も子ども課など、18才までの窓口、その後成人期の窓口と、困難を抱える子ども、若者を守る体制。行政窓口と専門機関、民間とNPO等へ繋ぐ、コーディネーターの役割を果たす人材や窓口が必要。	問7 支援者として心掛けること 自己肯定感が低いので、困難さに伴奏すること。みえる困難さだけではなく、問題の背景を考えていかないと、本当の支援に繋がらない。子ども、若者が対象であっても、家庭や親の支援が必要となるケースがある。子ども・若者支援というが、実際に当事者の子ども・若者からの相談は少なく、親からの相談になるため、親の希望だけではなく、子どもにとって必要な支援は何かを考えていく。

15～18歳	上記記載	義務教育ではないため、学校不適應を起こして、退学しても、福祉など繋がらないため、引きこもりになるケースがある。	上記記載	上記記載
18～30歳 未満	当事者の困難さが理解されておらず、表面化しにくい現状や問題行動がないケースで、学校の中では問題が先送りされて結果、困難な状況が、生活や仕事に影響を及ぼし、ニートやひきこもり状態になっているケース。家族の戸惑いも大きくなり、関係が悪化するケースもある。	就労につくためにも、サポステなど伴走する必要があるが、実際は支援がない就職にしても定着出来ない事がある。大学卒業後にも、高校卒業後と同様、就職しても定着出来なかったり、引きこもったりするケースがある。	上記記載	上記記載
30～40歳 未満	親の高齢化や介護により、問題が表面化するケースがある。家庭だけで抱えていることから、ひきこもりやニートの状態が、長時間に及んでいることが多い。	支援体制の遅れ。	上記記載	上記記載

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
061	3 どちらともいえない 若者支援について、若者サポートネット（若者支援地域協議会）が具体的支援に結びつく体制にまでは至っていないと感じるため。		3 どちらともいえない (1) の回答と同様。困難を抱える若者が相談できる窓口やサポートネット体制が市民に分かりやすい体制で実施できていないと考えるため。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	原因は一様ではないので、回答は難しいと感じます。	当センターが実施している、小学校4年生に対する「ストレスマネジメント事業」や小学校5年生を対象とした「いのちをつなぐ手紙事業」などでは、自分自身や身近な友人が学校でいじわるをされたり、辛い思いをしている様子を子どもたちが教えてくれることがあります。現在、国の自殺対策では若年層が自ら援助希求行動をとれるように推進していく方向が示されていますが、子どもたちにかかわる地域の大人や学校の先生など、受け止める側の教育を行い、子どもたちが支援を求めた時にきちんと受け止める場所があることが必要であると感じます。	記入なし
15～18歳	当センターには中学生や高校生の保護者から、お子さんがゲームやネットの依存症ではないかと心配されてご相談を受けることがあります。現在の子供たちにとっては、インターネットやモバイル機器が幼い時から身近な場所にあるという環境的な要因も影響していると思われますが、心理的に辛いことや困ったことがあった時に、身近な大人に相談したり頼ったりするよりも、ネットやゲームの世界に没頭することで紛らわしたり、その中のつながりを自分の支えにする傾向がうまれているのかもしれないと感じます。	原因は一様ではないので、回答は難しいと感じます。	現在、中学までの全学校にスクールカウンセラーが配置されていますが、中学卒業後に不登校や中退となった生徒や保護者が相談できる場所は限られています。問題が深刻化する前に相談できる体制を取っていくためには、全高校にスクールカウンセラーの配置を義務付ける体制が必要であると考えます。	記入なし

18～30歳 未満	当センターの「ひきこもり相談」でもっとも多い年代が、この年代にあたります。高校や大学に進学した後、自分のやりたいことがわからない、就職活動は一応するが働く意味がわからないと話される方など、社会の中で自分の存在意義や居場所を見つけられず孤立してしまう方が相談にこられています。	原因は一様ではないので、回答は難しいと感じます。	自分の適性や将来に対して不安になった時には、すぐに就労に結びつけるための支援だけでなく、これからの道を本人自身が考えていくための寄り添う支援が必要であると感じます。そのなかでは、もう一度自分のこれまで生きてきた道を振り返り、周囲との関係性を見直すなどの作業や、本人が自分の特性や特徴を知ることができる経験も必要であると感じます。悩み事を話せる場と、それに基づいて自分をもう一度振り返る体験ができる支援（具体的には体験就労のような経験）が一体的にできる支援が必要であると考えます。	記入なし
30～40歳 未満	この年代の「ひきこもり相談」では、かなりの重労働を強いられるような環境で仕事をした後、心身ともに疲弊して離職した後、再就職できないまま引きこもっていらっしゃる方の相談などが多くなってきました。また、ギャンブルやアルコール中毒に対する依存の問題を抱え、その方の配偶者やご家族が来所の相談に来られることが多くあります。	原因は一様ではないので、回答は難しいと感じます。	生活支援と就労支援を一体的に実施できる体制が必要と感じます。生活困窮者自立支援事業がその一端を担っていると思いますが、収入がなく、生活困窮状況であっても、本人の就労意欲がない場合にはうまく支援に結びつかない状況があると感じます。就労意欲がない場合であっても、まずは本人が社会との接点を徐々に持てるような体験（ボランティア活動体験など一人ではなくグループで体験するような場）が必要であると感じます。	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
062	3 どちらともいえない プラン自体についてあまり理解できていないので、回答も難しいです。申し訳ありません。問4以降につきましても、個別の問題（障害状況、家族状況など）が大きく傾向としてはとらえられていません。すみません。	3 どちらともいえない 記入なし		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
063	3 どちらともいえない 記入なし	3 どちらともいえない 記入なし		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	当センターは子どもの問題を抱える両親への支援が中心です。虐待ケースを中心とする区への支援を行っています。	子ども虐待防止への取り組みが不十分な点。	母子保健、児童福祉、保育園、幼稚園、小学校、中学校、民生委員等地域の資源がどのように連携できるか？	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの訴えを受け止める姿勢。 ・子どもの権利を第一義として受け止める姿勢。
15～18歳	記入なし	義務教育終了後の子どもとの関わりが持てる機関が少ない。	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳 未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
064	4あまり達成に近づいてない 相談先は色々と整備されて来ているが、そこまでつながりにくい家庭環境や、事情のある方たちがまだまだたくさんいらっしゃる印象がある。	3どちらともいえない 記入なし		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	家庭環境の影響を受けやすい、家庭の問題（シングル、貧困など）経済的な問題からネグレクトやサービス利用につながらない。 発達の途中であり、その後の育ちを左右する。診断や診察の機会はある。	障害、疾病。 貧困。 家庭の複雑さ。 発達の速度のちがいがい。	学校や教育の場が外にひらかれ、協働できるような取組みづくり。 個別に合わせた療育や教育の機会。	医療、学校、家庭のつなぎ役としての役割がはたせるようなネットワークづくりが大切であると思い連携を取っている。 親世代の生きて来た歴史にも目をむけ、世帯として支援にかかわる姿勢を持つこと。
15～18歳	学力の問題や・勉強についていけず、そこから外れると学校生活もおもしろくなく不登校やあばれるなどのあらわれとなって見えて来る。 経済状況により進路選択に困難感を感じている。	障害、疾病。 貧困。 交通の不便さ。 家庭の複雑さ。 かかえる悩みの多様化。	小中高など学齢があるたびの環境変化が極力さけられる環境。 就学へむすびつくような学びや体験の機会の増加。	学校生活やその後の進路について充分によりそって、ご本人のペースで進んで行かないと思っっている。 (生きにくさをかかえた状況が長びくほど信頼関係の構築が難しい。距離感を保ちながら継続した支援ができるように付き合っていく。)
18～30歳 未満	ネット社会、SNSで不特定多数との接触でのトラブル、情報の取捨選択ができず、トラブルに巻きこまれていく。 非正規雇用など不安定な経済基盤のみで、生活の不安感を感じている。 就職しても途中で困難をかかえ、休職や精神的な不安定感をまねいている。 外出できなくなるなど関係性が築けなくなる。	就職後の失敗や病気（精神）によるつまずき。リカバリーする支援が足りず、個の努力だけでは難しい。 雇用側にもスキルが不足している。 引きこもりが表面化されて来ない。	就労定着のための助け。 生活改善のための手助け。	医療とのつながりが途切れないように支援する必要がある。 (生きにくさをかかえた状況が長びくほど信頼関係の構築が難しい。距離感を保ちながら継続した支援ができるように付き合っていく。)
30～40歳 未満	何とか生活できており、本人に困り感はない。 家族が困難をかかえているか。意欲低下が見られる。 低所得のため、希望する生活ができていない。 引きこもりも多いのでは。 親世帯の経済に依存傾向があり、その先親の状況変化で生活も変化する。	介護の担い手としての役割があり、就労継続が難しくなる。 社会的な経験不足などスキル不足がある。	就労定着のための助け。 生活改善のための手助け。	親世帯の加齢にともなう介護など、ご本人たちへの役割が増え、困難感が増すことにならないよう相談が必要。 (生きにくさをかかえた状況が長びくほど信頼関係の構築が難しい。距離感を保ちながら継続した支援ができるように付き合っていく。)

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
065	2達成に近づいている 地域にて、自立した生活が出来るよう、公的な支援を行っている。 ・適切なサービス利用 ・相談の出来る場の増加	2できている 必要な機関・サービスへと繋げている。 ・機関連携 しかし、本人の困り事を包括的に支援していくことに困難さを感じる。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	・不登校。 ・不適切な養育。 ・養育困難。 ・劣悪な家庭環境。 ・貧困。	・児の特性、発達。 ・親の理解、成育歴、特性。 ・貧困、虐待の連鎖。	・関係機関へ繋げることで、児の養護、養育環境を整える。	・切れ目のない支援を長期的に行い、幼少期から青年期以降までの本人の生活を見据えて、自立していけるよう、各関係機関が支援をしていくことが大切である。
15～18歳	・進路⇒進学、就学。	・精神疾患の発症。 ・適応能力の問題。	・児から者への移行に合わせて、スムーズな支援の利用へ繋げ、その後のアフターフォローの体制も整える。 ⇒進学、就労、サービス。	・切れ目のない支援を長期的に行い、幼少期から青年期以降までの本人の生活を見据えて、自立していけるよう、各関係機関が支援をしていくことが大切である。
18～30歳未満	・児から者への移行に伴い、関係機関の切り替え。 ⇒児、者の年齢（児童福祉法、民法18歳20歳）。 ・本人の所属（学校）がなくなること、居場所がなくなってしまう。 ・本人の自立。 ・就労先の選定、継続の困難さ。	・児ほどの密な関わりが困難となり、関われる範囲が狭くなってしまう。 ・本人の自立の能力不足。 ・精神疾患の発症。	・居場所づくり。 ・就労支援。 ・地域での生活を維持していくための支援。 ・相談できる体制を整える。	・切れ目のない支援を長期的に行い、幼少期から青年期以降までの本人の生活を見据えて、自立していけるよう、各関係機関が支援をしていくことが大切である。
30～40歳未満	・障害者としての認定の困難さ。 ⇒療育手帳（知的）の取得のハードルの高さ。 ・親の高齢化。 ・本人の関係者（家族等）の減少により、本人の情報を得ることが困難。 ・権利擁護。 ・支援へ繋げることの困難さ。	・ライフストーリーが長く、本人への介入が困難。 ・本人から支援の拒否等が見られる。	・居場所づくり。 ・就労支援。 ・地域での生活を維持していくための支援。 ・相談できる体制を整える。	・切れ目のない支援を長期的に行い、幼少期から青年期以降までの本人の生活を見据えて、自立していけるよう、各関係機関が支援をしていくことが大切である。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
066	3 どちらともいえない 子ども・若者支援を行う機関は充実してきていますが、安心して暮らすことができるというニーズに対応しきれていないこともあるように感じています。		2できている 医療・教育・行政など関係機関と連携を図りながら支援を行っています。しかし、関係機関と連携していても、緊急対応などには課題があると感じています。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	障害、不登校などの子どもたちの家庭がゴミ屋敷や貧困など厳しい環境であるケースが目立ってきています。 中高生くらいの年代になると無断外出、県外まで「家出」するケースも目立つようになってきています。	家族の形態が多様化し、保護者の働き方も多様化してきています。 子ども・若者が抱える困難に向き合うより生活・生計を維持することを優先せざるを得ない家庭が増えているのではないかと思います。	「障害」「虐待」「健全育成」など関係機関ごとの縦割りをなくすこと。	家庭環境により子どもたちの生活や学校生活、進路選択が制限されることのないように支援を組み立てること。 保護者に保護者としての責任を追究するばかりではなく、サポーター型に関わること。
15～18歳	記入なし	記入なし	「障害」「虐待」「健全育成」など関係機関ごとの縦割りをなくすこと。	保護者に保護者としての責任を追究するばかりではなく、サポーター型に関わること。
18～30歳未満	大学生活がうまくいかない、就職活動につまずいている学生の保護者からの相談が増えてきました。 また就職後、うまくいかないケースも相談につながるようになっていきます。	家族や職場の上司など、本人の周囲の人が本人の困難さ、障害などに気づいていても本人が自覚しない、支援の必要性を理解しない、拒否することで、周囲の人が疲弊してしまう状況があると思います。	大学や企業との連携。	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
067	3 どちらともいえない 個人的に思うことはありますが、ふらっとしてここに明記できることは、あまり思い浮かばないので3としました。 時々ある相談は、子どもに情緒面の不安定さがある母親が1人親家庭で、生活保護にならないギリギリのライン。その母親も精神科へ通院中で、生活のために働きたいという内容です。子どもの安定のためには母親の関わりが大切ですが、そういう母親に限って生保に頼らずに責任をもって稼がなければという方が多く、時間の制約がある中で働くことの難しさを感じます。		2できている 障害や病気という側面で働くことに課題をかかえる若もののサポートをしています。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	この年代の方が直接相談に来ることはあまりありません。まれにあるのは、この年代の当事者の親からの相談で、これから特別支援学校に行こうか、普通の学校の支援級に行こうか迷っており、どちらに進学すると、将来どういう就職ができるのかという問い合わせがあります。	学校等での支援級や特支に関する説明が、親が不安の強いタイプの場合に不十分なことがある。	教員の方々も、障害のある人の将来について学んだり知ったりして頂く、また、SSWを十分に活用すると良いと思います。	問い合わせがあればできるだけいいいに伝えます。
15～18歳	高校を中退した方からの相談が時折あります。何らかの困難や病状の悪化が原因で退学しているため、就労支援機関を紹介することが多いですが、親が一般の就職にすぐに就くことができないことに納得できず、支援が進まない傾向があります。	中退する高校に原因があるのではなく、それまでの親や学校、本人にかかわる人々の関わりに原因があると思われる。(0～15歳) いじめや教員の圧迫的な関わり、逆に無関心、親の原因(モンスターペアレントや障害があって養育力の無い親)など、たくさん要因があり、各々異なると思います。	0～15才の関わりはとて大切だと思えます。養育力の無い親のフォローは引きつづき大切だと思えます。学校では、本人の自尊心を損なうような支援は控えて、表面的な問題ではなく、本質に目を向け、医療や福祉など外部とも積極的に連携頂けると良いと思います。	中退が悪いわけではなく、働きたいのであれば、今、何の影響で働くのが難しいのか、それを解決するためには何が必要か、働くことだけにとらわれすぎずに相談にのります。
18～30歳未満	高校は通信制高校に、その後就職したいと相談に来るも、人と関わるのは怖い、しかし友人よりも有名で給料の良い仕事に就きたいが、バイトも2～3日しかつづかないという方がたくさんいます。やりたい事や目標はないけれどとりあえず大学に行って、卒業しても、その後何もせず家にいたという方にも同様のことが多いです。	学校に通うことで、人と関わることや就職などから目を背けていたけれど、急に働かなければやることがなくなり、周りから置いていかれたと感じ、働こうとするも社会に出ていくことができず、ということが原因かと思えます。	人によりますが、学校で言われたことをすること、働いて言われたことだけでなく、自分が積極的に動かなければならないことに大きなギャップを感じている方が多いです。そのギャップを少しクッションするものがあるといいと思います。就労訓練を使うのも1つの選択肢ですが、それ以前の人との関われなさをもつ方もいるので難しいです。	15～18才と同様に本人がなぜ働きたいのか、なぜ働けないのかを聞いていながら、働くことや社会に参加することができるよう、自分達の力だけでなく、他機関を紹介する事も含めながら、支援をくみ立てています。

30～40歳 未満	学校を卒業して1度就職したけれど、そこでうまくいかずに、その後ずっと家にいて、生活費は両親まかせ、あるいはずっと職を転々としていた方が、両親の定年に、親に働くように言われてしぶしぶ相談に来られる方がいます。その場合、本人に働く意欲が乏しい方も多いです。	これまで親が本人をずっと保護してきたが、定年という機で急に本人に自立しなさいと言って、本人に圧力をかけはじめることだと思いません。	本人は急に言われても、すぐには生活を変えられません。そして、働けと言われても生活費は親が出してくれては、働く意味を見出せません。もう少し若い頃から働く意味を親や周囲の関係者が伝えていく必要があります。	年齢をあまり考えず、若い方と同じように就職活動や仕事をするのをいいに説明する必要があります。親が協力的であれば、少しでも生活費を本人におさめてもらうなど、なぜ働くのかを一緒に伝えていくようにできると良いかと思えます。
--------------	--	---	--	--

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
068	2達成に近づいている 記入なし		2できている 記入なし	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	児童虐待。 不登校。 保護者の意識・考え方によって支援の方法が様々である。	実父・実母等による身体的虐待・ネグレクト、心理的虐待の発生。 子どもの保護者の考え方・生育歴。 地域とのつながりの希薄化。	子どもの保護・保護者への支援を行う。 子どもの安全を守るための適切な一時保護を行う。親と子の再統合に向け保護者への支援を行う。保護者の理解を得るための支援を行う。	虐待前の気になるレベルで子ども・保護者に対する適切な支援を行う。深刻化する前の早期発見、早期対応に心掛ける。 地域の人や関係機関と情報共有を行う。
15～18歳	不登校、ひきこもり。	個人の性格、生育環境、精神疾患による。 人間関係のトラブルも原因となる。 子どもの保護者の考え方・生育歴。 地域とのつながりの希薄化。	病院・精神保健福祉センターへの相談が必要。 本人から相談できる窓口を明確にする。	長期化する前に第三者に相談していく。 全ての年齢層にあてはまるが個人情報守秘義務については慎重に扱う。 地域の人や関係機関との情報共有を行う。
18～30歳 未満	生活に困難を抱える若者への支援（貧困対策）。 ニートの状態にある若者への支援。	18歳の学校教育終了により社会とのつながりが消滅する。相談機関がわからない。 精神疾患による就労意欲の低下。	社会サービス利用に向けての支援。 自立・社会参加へつなげ就労し、安定した収入が確保できるようにする。	支援機関の存在を知ってもらう。積極的な情報提供を行い生活困窮・貧困の連鎖の防止に心掛ける。
30～40歳 未満	生活に困難を抱える若者への支援（貧困対策）。 ニートの状態にある若者への支援。	ニート状態にあることとのコンプレックスにより相談できない。相談機関がわからない。	就労に向けての情報提供の支援。 医療機関への受診の案内。	支援機関の存在を知ってもらう。積極的な情報提供を行い生活困窮・貧困の連鎖の防止に心掛ける。

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
069	記入なし		記入なし	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	・不登校。 ・不適切な養育環境の中で生活を強いられる（ネグレクト）。	・友人関係の悪化。 ・親の養育意識の低下（疾病、障害等）。問題意識なし。負の連鎖。	家庭に係わる人で情報共有を常にしておくこと。家庭内で問題があった際に早急に支援できるようにする。	子ども目線で物事を考えること。
15～18歳	進学先、就職先が限定される。	本人自身の学力の問題、家庭の経済的問題。受け入れ側の意識の低さ、向上心なし。	家庭に係わる人で情報共有を常にしておくこと。家庭内で問題があった際に早急に支援できるようにする。	子ども目線で物事を考えること。
18～30歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
30～40歳未満	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし

SN	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
070	1 達成している 治安がよいため		3 どちらともいえない 働く意欲があっても、就職ができていない人がいるため。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	児童発達支援の空きがない。 重心ではないが、重心に近い状態の子供の受け入れ先がない。	物事の機械化。	自発の施設をつくる。	愛情をたくさん与える。
15～18歳	夢がない。 やりたい事が見つからない。	物事の機械化。	記入なし	電子機器の勉強。 スポーツをする環境を整え、コミュニケーション。
18～30歳未満	離職率が高い。	物事の機械化。	仕事をしたくなるようなイベントを開催する。	コミュニケーションをとる。
30～40歳未満	年金問題。	物事の機械化。	記入なし	コミュニケーションをとる。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
071	4あまり達成に近づいてない ・人口減（出生数の低下、転出数増加等）。		4あまりできていない ・不登校に対する教育機関における支援が十分でない現状。 ・障がい児の就学課題は顕著（普通校入学、職員配置（専門職等）等）。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
15～18歳	記入なし	記入なし	記入なし	記入なし
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> 障がい（発達、パニック等）を持っていたり、障がいと言えるかどうか？が難しい方で、労働中に症状が出現し辛い状況となった時、なかなか上司や職場に言いづらく、就労継続を悩んでしまう方もいたりする。 症状としては普段は特に問題はないが、年数回のみ出現する程度なので、なかなか職場に伝えたり相談することを躊躇する方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場に伝えることで、退職をさせられてしまうのではないか、不利益をこうむるのではないかなど不安感が増し、おいつめられてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場（全職員）におけるメンタルヘルスへの理解（うつ、発達障がい等）。 職場におけるメンタルヘルス対策の強化（相談しやすい環境作り等）。 	記入なし
30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> うつ状態での就労継続を悩んだり、離職後の復職の壁。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場に伝えることで、退職をさせられてしまうのではないか、不利益をこうむるのではないかなど不安感が増し、おいつめられてしまう。 又、離職後の生活不安と復職できるかどうかと悩む心理的側面。 	<ul style="list-style-type: none"> 復職（リワーク）支援の強化※リワークに特化した浜松市で受けれる支援環境。 うつ病への対策強化。 自殺対策強化。早期発見、医療のつなぎ、継続支援等体制確立（個別支援を可能とする専門支援機関等）。 	※年齢層関係なく、本人の気持ちによりそい、背景にあるものをはあくし、丁寧に時間をかけてでも支援していくこと。 又、本人のみならず家族全体に視点を置き、生きやすい社会環境にすべくソーシャルアクション意識。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
072	2達成に近づいている 支えがある中で安心して暮らすことができている若者がいる。	2できている サポステやひきこもりの個別支援や居場所があり、支援を行っている。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	・不登校。	・家族関係の不和によりひとり親や親のうつ病等の病気からの影響で本人の情緒の未発達がある。 ・母子の関係。	・健全な家庭環境を整える支援。 ・本人の学びの場を適切に選択できる支援。	・障害者だけでなくその世帯をみるととニートや、ひきこもりも支援へつなげていくこと。 ・ストレングスの視点。
15～18歳	・通信高校へ行っても中学からほぼ不登校なので、勉強が分からず、通信高校も退学してしまう。	・中卒までのつまずいた経験による自己肯定感の低下。	・健全な家庭環境を整える支援。 ・本人の学びの場を適切に選択できる支援。	・障害者だけでなくその世帯をみるととニートや、ひきこもりも支援へつなげていくこと。 ・ストレングスの視点。
18～30歳 未満	・ニート。	・小・中・高校でのつまずいた経験による自己肯定感の低下。意欲の減退。	・ニートの本人に対しての意欲、喚起のための支援。 ・できることを経験し、自信をつけ就労につながっていく場、支援。	・障害者だけでなくその世帯をみるととニートや、ひきこもりも支援へつなげていくこと。 ・ストレングスの視点。
30～40歳 未満	・ニート。	・小・中・高校や青年期でのつまずいた経験による自己肯定感の低下。意欲の減退。	・ニートの本人に対しての意欲、喚起のための支援。 ・できることを経験し、自信をつけ就労につながっていく場、支援。	・障害者だけでなくその世帯をみるととニートや、ひきこもりも支援へつなげていくこと。 ・ストレングスの視点。

S N	問3(1) 達成度の理由		問3(2) 支援のできばえの理由	
073	3 どちらともいえない 記入なし		3 どちらともいえない 相談のなかで、サポステなどと連携してやってはいる。	
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	<ul style="list-style-type: none"> ・(児童の相談を行っていないので) 直接の相談はほぼない。 ・親と子の関係性が、そもそもの問題であると感じる(愛着障害がその後のすべてに影響していると思う)。 ・親自体がなんらかの障がいをもっているケースが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(児童の相談を行っていないので) 直接の相談はほぼない。 ・親と子の関係性が、そもそもの問題であると感じる(愛着障害がその後のすべてに影響していると思う)。 ・親自体がなんらかの障がいをもっているケースが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親が障がいをもっている場合、周産期からの子育て支援を手厚く行う。 ・SSWやS・Cの充実。 	親を孤立させない。
15～18歳	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路がみつからない。 ・卒業→就職の流れからいったんオフコースしてしまうと、うもれてしまう。(ひきこもりにならなくても) 社会との接点がなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路がみつからない。 ・卒業→就職の流れからいったんオフコースしてしまうと、うもれてしまう。(ひきこもりにならなくても) 社会との接点がなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後もつながっているフォローアップ体制。 ・すべての人に相談支援機関のあることを周知。 ・SSW、S・Cの充実。 ・学校以外の居場所、つながりを持つ場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高める。 ・対話的支援(オープンダイアログの手法とか有効だと思う)。
18～30歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・通所先や就労が定着しない(サービスが増えたことで簡単に別なところに行けばよいと思ってしまう人が増えた)。 ・発達障がいによる問題が顕在化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所先や就労が定着しない(サービスが増えたことで簡単に別なところに行けばよいと思ってしまう人が増えた)。 ・発達障がいによる問題が顕在化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の理解・協力(ステレオタイプにみずに様々な課題を持つ人への協力体制づくり)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高める。 ・対話的支援(オープンダイアログの手法とか有効だと思う)。
30～40歳 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着の課題を引きずったままそれに親の高齢化がからまる。 ・親の高齢化に伴い経済的な後ろだてがなくなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労先がない(本人の状況にあわせた働き方ができない)。 ・愛着の課題を引きずったままそれに親の高齢化がからまる。 ・親の高齢化に伴い経済的な後ろだてがなくなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はたらく場(様々なバリエーションをもった)をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高める。 ・対話的支援(オープンダイアログの手法とか有効だと思う)。

S N	問3(1) 達成度の理由	問3(2) 支援のできばえの理由		
074	4あまり達成に近づいていない プラン自体浸透されていない気がします。何をもちて達成とするのかよく分かりません。社会や経済の変動により雇用問題が深刻化し、ニートやアルバイトが増えています。また家族関係の不和や核家族化、地域社会の希薄化など安心して暮らすまちにするには課題がありすぎて達成しているとは思えません。	4あまりできていない 行政として困難を有する若者への支援について何をどう取り組んだのか成果が分かりません。		
	問4 困難の傾向	問5 困難の原因	問6 必要な支援や環境	問7 支援者として心掛けること
0～15歳	親や保護者が本人を受け止められず、必要な療育、教育を受けていない。 親の養育能力が不十分、生活困窮世帯。生活困窮家庭は、サービスにつながるまでに時間がかかる。 また小・中学生の不登校、ひきこもり問題、放デ以外のアプローチがない。 児童精神科が市内に少なく、初診でも数ヶ月待つ状況。	親の養育能力が不十分（親が病気、精神疾患、知的など。）一人親世帯、両親の不仲、生活困窮世帯 本人の障害特性（発達障害、愛着障害）。 親・保護者が本人の障害受容が出来ていない。	子供や家庭にも支援できる人材確保や育成ファミサポの利用条件の幅が狭くつかいづらいため条件の幅を広げてほしい。 不登校、ひきこもりのアウトリーチ型支援。	家庭環境の把握、保護者の養育能力の把握。 本人の特性を理解し、必要な支援機関の情報提供、関係機関との連携。 保護者や本人との信頼関係の構築。
15～18歳	支援級に在籍してる児童は、一般の高校に受験できない課題がある。 不登校、ひきこもり。	親の養育能力が不十分（親が病気、精神疾患、知的など）。一人親世帯、両親の不仲、生活困窮世帯。 本人の障害特性（発達障害、愛着障害）。 親・保護者が本人の障害受容が出来ていない。	不登校、ひきこもりのアウトリーチ型支援。	家庭環境の把握、保護者の養育能力の把握。 本人の特性を理解し、必要な支援機関の情報提供、関係機関との連携。 保護者や本人との信頼関係の構築。
18～30歳 未満	発達障害や知的にグレーゾーンで手帳取得ができない方の就労問題。 また人間関係の関わり、コミュニケーションが苦手であるため、就労できても長続きしない現状がある。ひきこもり、未受診、望まない妊娠、性被害、DV、SNSトラブル。	雇う企業側が障害の理解や配慮が出来ていない、体制が整っていない。 しっかりと性教育を受けていない。 家以外に居場所がない。	企業側へ障害の理解を広めるための取り組み、性教育については、中・高で学ぶ体制づくり。 精神科Drによるアウトリーチ支援。 デイケア、地括以外の居場所。	・本人の希望、意思をくみ取り、支援していく。 ・家庭環境の把握。 ・本人との信頼関係の構築。
30～40歳 未満	発達障害や知的にグレーゾーンで手帳取得ができない方の就労問題。 また人間関係の関わり、コミュニケーションが苦手であるため、就労できても長続きしない現状がある。ひきこもり、未受診、望まない妊娠、性被害、DV、SNSトラブル。 親が高齢になり、K Pとなる存在がいないことや相談相手がない。	・家族関係が悪い。 ・家以外に居場所がない。	企業側へ障害の理解を広めるための取り組み、性教育については、中・高で学ぶ体制づくり。 精神科Drによるアウトリーチ支援。 デイケア、地括以外の居場所。	・本人の希望、意思をくみ取り、支援していく。 ・家庭環境の把握。 ・本人との信頼関係の構築。

Ⅲ 若者支援に関するアンケートから見えてくる

課題と今後の目指すべき方向性

I 若者本人 (P1～)・II 支援機関 (P25～) 調査より

若者を対象とした調査と支援機関を対象とした調査から、本市における課題を導き出した。また、実現可能性は考慮せず、課題解決に向けた取り組みを提案することとした。以下はその内容である。ヒト、モノ、カネに限られる中、すべての取り組みが早期に実現できるものではない。ここに記載した内容を参考に、重点的に取り組むものや早期に取り組むものを検討し、真に若者のためになる取り組みを進めるきっかけとしていただきたい。

▶ 支援機関を対象とした調査からの課題と取り組みの提案

【相談の一步を踏み出すための工夫】

- 2022年4月から成人年齢が変わり、18歳で成人となる。18歳から20歳の若者が法や制度の狭間に陥り、必要な支援が受けられない事態は回避しなければならない。18歳から20歳に限った話ではないが、どの年代の若者に対して、どこがどのような支援が可能なのか、浜松型若者支援の全体マップ（場所のプロットだけでなく若者が必要な支援を選択しやすいような1枚図）があると、相談の一步を踏み出しやすいと言える。
⇒【若者の課題 B・C】

【効果的な情報提供のあり方の検討】

- 実態に即したとても効果的な事業を展開していても、支援を必要とする若者にその情報が届いていなければ宝の持ち腐れである。相談に来ている若者には何らかの支援ができるが、相談に来ていない若者が相当数いることを前提に、若者本人やその周囲の人々へ必要な情報をどう届けるか、情報提供の仕方には絶え間ない工夫が必要である。
⇒【若者の課題 B・C】

【受け身ではない積極的な関わりの検討】

- 前述のとおり、自ら相談に来ない若者をどう支援に結び付けるかは難しい課題である。こうした中、自殺対策ではゲートキーパー、認知症対策では認知症サポーターがおり、いずれも「気づき」からスタートしている。本人の様子、家族の様子、自宅の様子などから積極的な「気づき」を得て、相談や支援につなげていく仕組みも検討の余地がある。これを仮に0次支援とすれば、相談は1次支援、具体的な解決に向けた支援が2次支援、その後の見守りや継続的な関わりが3次支援と言える。2次支援も3次支援も1次支援がなければできないものであるため、1次支援に結び付ける0次支援のあり方に検討の余地がある。
⇒【若者の課題 C・D】

【必要な連携の強化】

- 本業務において実施した支援機関の研修会には、実に様々な立場の支援機関が参加された。初めて会う人、初めて知る組織、初めて聞く取り組みなど、新鮮に映ったようである。一方でそれは、他機関との連携が希薄である証拠でもある。また、支援機関はそれぞれが得意とする部分を持っている。換言すれば得意でない部分もある。したがって、自組織で解決できない、うまく改善に結び付けられない場合は、他機関と連携したり的確なアドバイスをもらったり、次の一手を円滑に打てるような環境を整えておくこと、すなわち横の連携強化が必要である。

⇒【若者の課題 C・D】

【支援者に対する支援の充実】

- 若者が支援を必要とするケースは実に様々で、その原因、背景、症状、改善要望等も様々である。よって、簡単に支援方法を類型化することはできず、ケースバイケースの対応を迫られている。支援する側には多様な知識、情報、経験、技術等が求められることから、支援者が学び続けることのできる機会の充実が必要である。

⇒【若者の課題 A】

【新しい仕組み（人に着目した支援）の検討】

- 現在の若者支援は、年齢や場面（就労、就学）などで区切られている。介護が必要な高齢者の場合、杖があれば歩ける要介護1の状態から、寝たきりで認知症がみられる要介護5の状態になっても、ケアマネジャーが寄り添い、必要な支援をコーディネートしている。その「人」に着目した継続的な支援ができないか、その仕組みを検討することが必要である。

⇒【若者の課題 C・D】

【A 支援側の努力】

- ★相談にのる側の意識の改革
- ★進路指導における選択肢の充実
- ★相談したい側にたった体制づくり（土・日・祝や、19時以降も相談できる）

【B 手法の多様化】

- ★SNS、電話、メールの活用
- ★ピアカウンセリング（同じような境遇の方の集い）

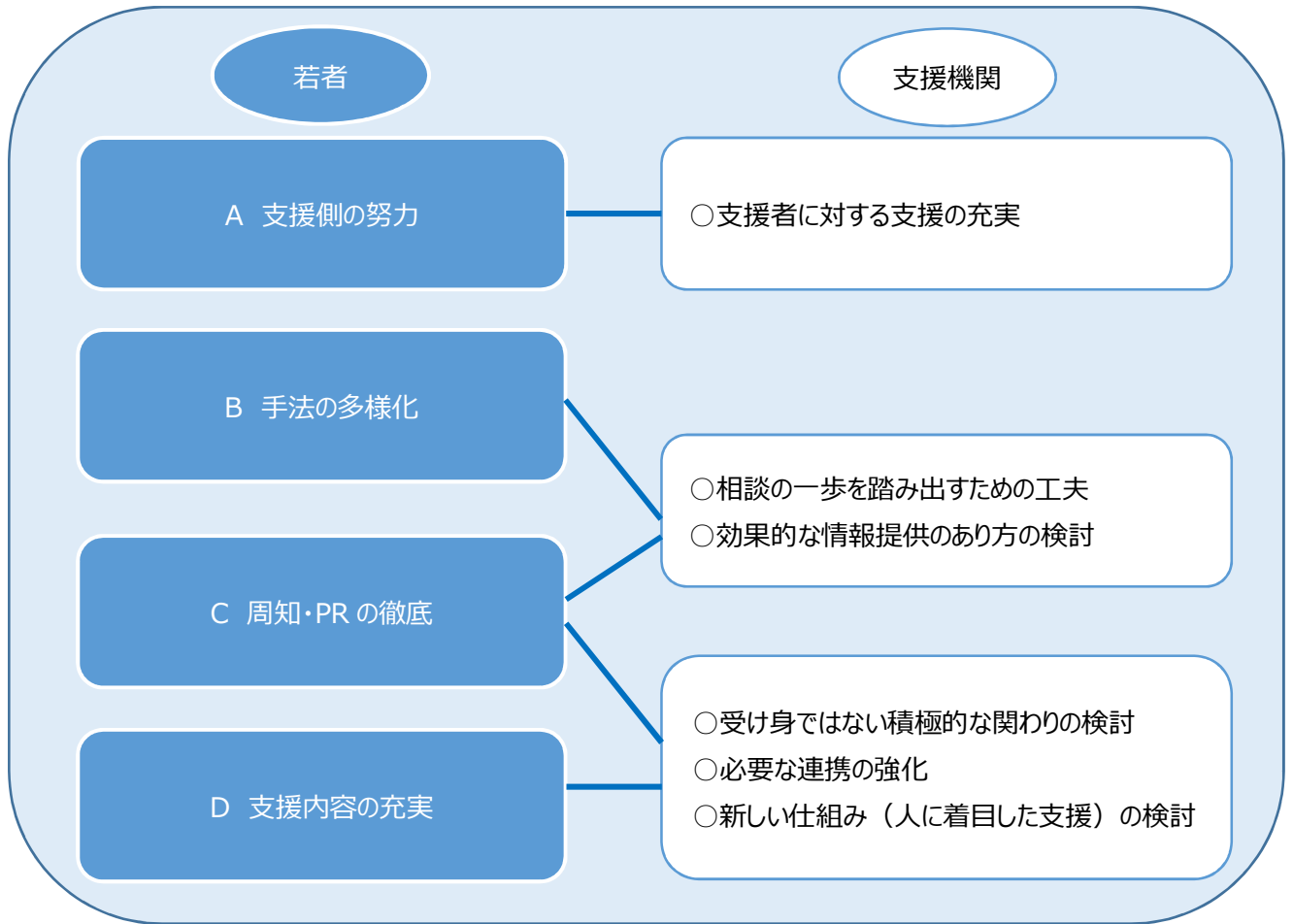
【C 周知・PRの徹底】

- ★適切な相談先を紹介できるコンシェルジュの配置
- ★相談機関のPR、一覧表の作成
- ★若者だけでなく、若者の家族にも届くようなPR
- ★相談機関には様々な相談ができる、オープンであること等の周知（人生相談、職場体験、予約なし）
- ★相談機関をわかりやすい、目につきやすい、行きやすい場所に

【D 支援内容の充実】

- ★日本語習得支援
- ★市役所での多言語対応
- ★職業訓練、職場体験の充実
- ★居場所的な空間づくり

➤ 両調査からの課題と取り組みの関係性



～このページは白紙です～